

国立国語研究所学術情報リポジトリ

〈全文〉 青森県むつ方言調査報告書：
日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成：
方言の記録と継承による地域文化の再構築

| | |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-08-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.15084/00002992 |

国立国語研究所共同研究報告書

日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成
青森県むつ方言調査報告書



青井隼人・木部暢子 [編]

2020年3月

はじめに

国立国語研究所では、2016年に共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」(人間文化研究機構・機関拠点型基幹研究プロジェクト)と「方言の記録と継承による地域文化の再構築」(人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」)をスタートさせ、各地の方言の収集と記録を行っています。このプロジェクトの前身は、2010年に始まった「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」(2010年～2015年)です。そのときからの調査を含めると、これまで、沖縄県宮古島・久米島、鹿児島県喜界島・与論島・沖永良部島、東京都八丈島、島根県出雲・隠岐の島、宮崎県椎葉村、石川県白山市白峰、愛知県一宮市木曾川、青森県むつ市・八戸市の13の地域で合同調査を行ってきました。本書は、そのうちのむつ方言調査(2018年8月)の調査報告書です。

調査の折りには、たくさんの方にお世話になりました。お忙しいなか、曙町集会所まで足を運んでくださり、親切に方言を教えてくださいました方々に深く御礼申し上げます。みなさんのおかげで、このような報告書を作成することができました。深く感謝申し上げます。

この報告書の内容は、むつ方言全体から見ると、ごく一部のわずかなものにすぎませんが、方言の研究や記録・保存の資料として、少しでも多くの方々に使っていただければ幸いです。なお、この報告書は国立国語研究所ホームページの上記プロジェクトのページでPDF版を公開しています。こちらもぜひ、ご覧ください。

2020年3月15日

人間文化研究機構 国立国語研究所 木部 暢子

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」
「方言の記録と継承による地域文化の再構築」
青森県むつ方言調査報告書

目次

| | |
|-----------------------------------------|----|
| 概要 | 1 |
| 調査報告 | |
| 大槻知世「むつ市方言の音韻」 | 9 |
| ローレンス・ウェイン「『田名部辯語彙集』記載語彙のアクセント資料」 | 19 |
| 中川奈津子「むつ市方言の格と情報構造」 | 51 |
| 三宅俊浩「青森県むつ市田名部方言の可能表現」 | 59 |
| 川瀬卓「むつ市田名部方言の行為指示表現」 | 71 |
| 小池淳一「方言と民俗文化史—産婆の呼称とその背景」 | 87 |
| 資料 | |
| 文法項目データ集 | 99 |

概要

1 目的

本報告書は、国立国語研究所が2018年8月に青森県むつ市でおこなった調査の結果を報告するものである。本調査は、国立国語研究所における「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（機関拠点型基幹研究プロジェクト）および「方言の記録と継承による地域文化の再構築」（人間文化研究機構・広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」）という2つのプロジェクトの共同研究として実施された。それぞれのプロジェクトの目的は以下のとおりである（国立国語研究所のホームページより）。

「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」

いま、世界中のマイナー言語（規模の小さな言語）が消滅の危機に瀕しています。現在、6,000から7,000ある世界の言語のうち、半数がこの100年のうちに確実に消滅し、最悪の場合、10分の1、20分の1にまで減ると言われています。その背景には、人口の都市集中化により周辺地域の人口が減少してしまったこと、社会的・経済的理由によりマイナー言語を使っていた人々がその言語の使用をやめてしまったこと、災害や紛争により人々が生まれた土地を離れなければならなくなったことなどの状況があります。

マイナー言語の消滅に関しては、次のような意見もあります。言語の消滅は社会変化の結果であってしかたがない。あるいはもっと積極的に、言語は統一された方が便利だ。危機言語を守る必要はない。

しかし、そもそも、なぜ、言語が多様になったのか考えてみて下さい。おそらく、各地の言語は地域の自然や人々の生活、ものの考え方などに基づいて、長い時間をかけて形成されていったのだと思われます。それらが消滅するということは、長い歴史の中で醸成された人類の智慧が失われてしまうことを意味します。生物の多様性が地球を豊かにしているのと同じように、言語の多様性は人類を豊かにしているのです。

このような状況に警鐘を鳴らしたのが、2009年のユネスコの「消滅危機言語」の発表です。2,500の消滅危機言語のリストの中には、日本で話されている8つの言語—アイヌ語、八丈語、奄美語、国頭語、沖縄語、宮古語、八重山語、与那国語—が含まれています。しかし、消滅が危惧されるのはこれだけではありません。日本各地の伝統的な方言もまた、消滅の危機にあります。これらを記録し、その価値を訴え、継承活動を支援することがこのプロジェクトの

目的です。

「方言の記録と継承による地域文化の再構築」

地域社会の変貌により、地域の貴重な文化資源である方言が急速に衰退しつつある。本研究では、自治体や各地の大学・研究者と連携して地域の方言の記録や方言の継承活動を行うことにより、方言を主軸とする地域文化の再構築の可能性と方言のもつ文化的意義について研究を行う。

国立国語研究所では、2010年から奄美沖縄地方、八丈島、島根県出雲、宮崎県椎葉、島根県隠岐の島、石川県白峰、愛知県一宮市（旧木曾川町地域）などで合同調査をおこなってきた。今回のむつ市調査は東北地方における初の合同調査である。

2 調査地点について

本調査は青森県むつ市でおこなわれた。むつ市は、本州の最北端、青森県北東部の下北半島に位置する（位置については地図1・2も参照）。東に東通村、南に横浜町、そして北・西に大間町・風間浦村・佐井村の1町2村が接している。2020年1月現在の人口は56,790名である（むつ市ホームページ¹より）。

むつ市は南北に約35 km、東西に約55 kmに広がっており、その面積は約864 km²である。これは青森県全域の約9%にあたる。市の中央部には釜臥山（標高879 m）を主峰とする恐山山地が連なっている。

¹ <https://www.city.mutsu.lg.jp/>（閲覧日：2020/2/7）



地図1 青森県むつ市の位置（日本全図）



地図2 むつ市の位置（青森県）

3 調査について

調査は2018年8月30日(木)と31日(金)に曙町集会所でおこなわれた。調査内容は以下のとおりである。

調査内容： 文法項目

- 格・情報構造
- 疑問詞
- アスペクト・テンス
- ヴォイス
- 文タイプ
- 待遇
- 形容表現・名詞述語

基礎語彙・民俗語彙

用言の活用

以下の方々が我々に方言を教えてくださいました。年齢は調査当時である。なお、ここにお名前を掲載していない方々からも方言を教えてくださいました。みなさまに深くお礼申し上げます。

- 石田元司さん (1944年生, 74歳)
- 大久保三郎さん (1937年生, 81歳)
- 大久保範子さん (1940年生, 78歳)
- 折館博さん (1937年生, 81歳)
- 川村丈夫さん (1944年生, 74歳)
- 佐々木守也さん (1945年生, 74歳)
- 瀬川誓子さん (1946年生, 72歳)
- 高橋令子さん (1948年生, 70歳)
- 高森昇さん (1943年生, 75歳)
- 奈良勝代さん (1945年生, 73歳)
- 奈良末子さん (1940年生, 78歳)
- 成田幸代さん (1951年生, 67歳)
- 西谷良男さん (1950年生, 68歳)
- 三上眞知子さん (1953年生, 65歳)
- 門前操さん (1932年生, 86歳)

調査者は以下のとおりである。所属は調査当時のものである。

木部暢子，大槻知世，セリック・ケナン，中澤光平，山田真寛

(以上，国立国語研究所)

青井隼人(東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所／国立国語研究所)

岩崎真梨子(八戸工業大学)，占部由子(九州大学)，金田章宏(千葉大学)

狩俣繁久(琉球大学)，川瀬卓(弘前大学)，小池淳一(国立歴史民俗博物館)

カルリノ・サルバトーレ(一橋大学／国立国語研究所)，中川奈津子(千葉大学)

橋本文子(東京家政学院大学)，林由華(日本学術振興会／国立国語研究所)

松倉昂平(日本学術振興会／東京大学)，ローレンス・ウエイン(オークランド大学)

また以下に挙げる学生が公募により集められ，調査に参加した。

工藤紅音，鹿内亜美，山上紗季，張瑩(以上，弘前大学学生)

郭田夫，高橋新(以上，東京外国語大学)，小田立樹(大阪大学)

三宅俊浩(日本学術振興会／名古屋大学)，若松弘子(筑波大学)

謝辞

調査にご協力くださいました方々に心よりお礼申し上げます。またむつ市役所企画制作部市民連携課の橋本佳奈さまには，調査にご協力いただける話者の方々のご紹介から調査のための場所のご紹介まで，大変お世話になりました。

調查報告

むつ市方言の音韻

大槻 知世¹

1 はじめに

2018年8月に青森県むつ市寿町にて、5つの班に分かれて各班話者1~2名と対面調査を行なった。本稿は基礎語彙調査を行なった4つの班のデータに基づいて、むつ市方言の音韻についてまとめる。必要に応じて、語彙項目に付随して得られた例文からも語例を抽出して挙げる。

2 母音

2.1 短母音

短母音には /a/, /i/, /u/, /e/, /o/ の5つの対立があり、これらを短母音音素として認める。それぞれ、共通語のア、イ、ウ、エ、オに対応する。

実際の音価について、/i/ は中舌の [i] で発音されることが多い。/i/ は基本母音の [i] よりやや広めで、[i̠] や [i̟] のようにも発音される。/e/ は基本母音の [e] より狭い [e̟] で実現する。このためか、/i/ と /e/ の区別が曖昧な、[ibe̟] 「海老」のような例が、語彙レベルで散発的にみられる。

/u/ は基本母音の [u] より円唇性が弱く、中舌寄りであり、[u̠] や [u̟]、[u̠] のように発音される。

中舌寄りの狭母音である /i/ と /u/ は、歯茎音の直後では区別が曖昧になる。

また、/i/, /u/ のような狭母音は、無声子音の間で同化して無声化する場合がある。

| | | | | |
|-------------------|-------------|------------|-------------|-----------|
| /a/ : [aŋo] 「顎」 | [aci] 「足」 | [ase] 「汗」 | [awa] 「粟」 | [ka] 「蚊」 |
| /i/ : [inu] 「犬」 | [iga] 「烏賊」 | [ita] 「板」 | [kɨ] 「木」 | |
| /u/ : [ume] 「梅」 | [usaŋi] 「兎」 | [ude] 「腕」 | [ku̠sa] 「草」 | |
| /e/ : [eda] 「枝」 | [ine] 「稲」 | [ke] 「毛」 | | |
| /o/ : [ototo] 「弟」 | [omba] 「おば」 | [ome] 「お前」 | [oge] 「桶」 | [ono] 「斧」 |

2.2 長母音

基礎語彙調査の範囲で確認できた長母音は [i:], [e:], [o:], [u:] である。左に挙げなかった [a:] も、文末助詞（終助詞）の母音として、文末に確認できるが、音声レベルの自由変異と考

¹ おおつき ともよ：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所・特任研究員 (totsuki@tufs.ac.jp)

えられる。[i:] は形容詞「良い」に用いられる。[e:] は形容詞終止形・連体形（終止連体同形）の活用語尾に現れるが、長い [e:] でも短い [e] でも形容詞の意味は変わらず、母音の長短は弁別的ではない。[o:] は多く漢語に現れる。[u:] も概ね漢語に現れるが、一例のみ、漢語ではない例として、[ku:]「食う」がある。

むつ市方言における漢語について、母音の長短が意味の弁別に寄与するか否かについては、本稿の筆者は未確認である。ただ、上記のように、長母音 [e:], [a:] については発話レベルの自由変異による実現形とみなすことができるものが多い。母音音素一般について、長短の区別が弁別的であるとみられる積極的な根拠が見当たらなかったこともあり、本稿では、長母音音素を立てないこととする。

2. 3 二重母音

二重母音には、/ai/, /ae/, /ao/, /ei/, /oi/, /ou/, /ue/, /ui/, /oe/ がある。母音の融合は規則的には起こらない。開合の区別も見られなかった。

/ai/: [hai]「灰」 [kai]「貝」 [wai]「私」 [tarai]「盥（たらい）」
/ae/: [namae]「名前」 [nae]「苗」
/ao/: [ju:ŋao]「夕顔」
/ei/: [meikko]「姪」
/oi/: [oikko]「甥」 [nioi]「匂い」
/ou/: [ko:mon] /koumoN/「肛門」 [rjoko:] /rjokou/「旅」 [jüino:] /juinou/「結納」
/ue/: [kweru]「食べることができる」
/ui/: [jüi]「相互扶助」 [warui]「悪い」
/oe/: ['koe]「声」（koが高い） [ko'e:]「疲れた」（eが高い）

3 子音

子音音素は /p, b, m, s, z, t, c, d, n, r, k, g, ŋ, h, j, w/ の16種類である。さらに、特殊音素として2種類、/N/（撥音）と /Q/（促音）もある。

主に調音位置によって子音を分け、両唇音 /p, b, m/、歯茎音 /s, z, t, c, d, n, r/、軟口蓋音 /k, g, ŋ/、声門音 /h/、接近音 /j/（硬口蓋音）、/w/（両唇軟口蓋音）の順に記述する。

3. 1 両唇音

両唇音には /p/, /b/, /m/ がある。以下に用例を挙げる。

3. 1. 1 /p/

調査の範囲では母音 /i/ の直前に立つ例は見当たらなかった。

パ /pa/ : [oppa] 「尾」 [nappa] 「菜」 [usupa] 「包丁」
プ /pu/ : [tempura] 「天ぷら」
ペ /pe/ : [ippe] 「たくさん」 [sampesara] 「皿（の一種）」
ポ /po/ : [cippo] 「尾」

3. 1. 2 /b/

/b/ は、母音間において前鼻音（実現時間のごく短い入りわたり鼻音）を伴うことがある。現在の方言では、調査結果を見る限り、この前鼻音は義務的なものではなく、話者によって発音しないか、同じ話者でも発音しないこともある。前鼻音は失われつつある特徴であり、現状では、出現環境を規則的に記述し予測できる条件異音ではなく、自由変異といえる。

バ /ba/ : [omba] 「おば」 [baba] 「お祖母さん」 [bazikko] 「末っ子」
ビ /bi/ : [kümbi] 「首」 [to^mbiwo] 「飛魚」 [agübi] 「欠伸（あくび）」
ブ /bu/ : [tsibu] 「粒」 [abura] 「油」 [kobuci] 「拳（こぶし）」
ベ /be/ : [bego] 「牛」 [benzo] 「便所」 [comben] 「尿」
ボ /bo/ : [tsu^mbo] 「壺」 [nambo] 「幾ら」 [kabotca] 「南瓜（かぼちゃ）」

3. 1. 3 /m/

/m/ が入りわたり鼻音を伴う語例が1つ（[^mma] 「馬」）、確認された。

マ /ma/ : [maŋo] 「孫」 [mata] 「股」 [matsu] 「松」 [makko] ~ [^mma] 「馬」
ミ /mi/ : [mi] 「実」 [momi] 「粃」 [namida] 「涙」
ム /mu/ : [mugo] 「婿」 [müne] 「胸」 [tsü^mudzi] 「旋毛（つむじ）」
メ /me/ : [merasi] 「娘」 [tsü^me] 「爪」 [mame] 「豆」
モ /mo/ : [kimo] 「肝」 [momi] 「粃」 [demono] 「おでき」

3. 2 歯茎音

歯茎音には、/s/, /z/, /t/, /c/, /d/, /n/, /r/ がある。

3. 2. 1 /s/

/s/ は母音 /a/, /u/, /e/, /o/ の前で無声歯茎摩擦音 [s]、/i/ の前では [s] または [ç]（口蓋化した /s/）である。むつ市方言では /i/ が中舌性の強い母音であるため、「シ」と「ス」の区別が曖昧になる。このため、/si/ の実現形として [si] ~ [çi] となる例がある。

| | | | | | | |
|------------------|------------|-----------------|-------------|-------------|----------------|-------|
| サ /sa/ : [same] | 「鮫」 | [usaŋi] | 「兎」 | [kuṣa] | 「草」 | |
| シ /si/ : [ci] | … [ciraŋa] | 「白髪」 | [koçi] | 「腰」 | [hadageciŋodo] | 「畑作業」 |
| | [si] | … [sippamusume] | 「末っ子(女)、末娘」 | | | |
| ス /su/ : [südz] | 「筋」 | [ksüri] | 「薬」 | [anemusume] | 「長女」 | |
| セ /se/ : [seki] | 「咳」 | [sempai] | 「先輩」 | [ase] | 「汗」 | |
| ソ /so/ : [so:zi] | 「掃除」 | [kso] | 「糞」 | [misocirow] | 「味噌汁」 | |

3. 2. 2 /z/

/z/ は異音として [z], [dz], [z̥], [dz̥], [n̥z], [n̥dz] をもつ。母音 /a/ /e/ /o/ の直前では [z] または [dz] で実現する。母音間において前鼻音を伴うことがあり、調査の限りでは [n̥z] ~ [n̥dz] を確認できた。

むつ市方言では母音 /i/ が中舌性の強い発音であるため、「ジ」と「ズ」の区別が曖昧になる。いわゆる四つ仮名「ジ、ヂ、ズ、ヅ」について、当方言では弁別的な区別ではない。当方言は、聴覚印象的に「ジ、ヂ、ズ、ヅ」の区別がなく、/zi/ ([zi] あるいは [z̥i]) に合流している一つ仮名方言であると言える。

| | | | | | |
|-----------------------------------|------|-------------------------|-------|-----------------------|---------|
| ザ /za/ : [hiza] | 「膝」 | [aza] | 「ほくろ」 | | |
| ジ /zi/ : [ku ^{n̥} dzira] | 「鯨」 | [hanadzi] | 「鼻血」 | [hi ^{n̥} zi] | 「肘」 |
| ズ /zu/ : [na ^{n̥} zügi] | 「額」 | [ki ^{n̥} dzü] | 「傷」 | [kuwazuimo] | 「クワズイモ」 |
| ゼ /ze/ : [kadze] | 「ウニ」 | [ozen] | 「膳」 | | |
| ゾ /zo/ : [dzo:ri] | 「草履」 | [ka ^{n̥} zogu] | 「家族」 | | |

3. 2. 3 /t/

音素 /t/ は母音 /a/, /e/, /o/ の直前に立つ。実現形に [ti] と [tu] はなかった。

| | | | | | |
|-----------------|-----|-----------|-------|--------------------------|------|
| タ /ta/ : [tane] | 「種」 | [kata] | 「肩」 | [k ^{h̥} intama] | 「睾丸」 |
| テ /te/ : [te] | 「手」 | [tempura] | 「天ぷら」 | | |
| ト /to/ : [to] | 「戸」 | [ototo] | 「弟」 | [imoto] | 「妹」 |

3. 2. 4 /d/

/d/ も、先の /b/ と同様に、母音間において前鼻音を伴うことがある。音素 /d/ は母音 /a/, /e/, /o/ の直前に立つ。実現形に [di] は見られず、/di/ と /zi/ (⁽ⁿ⁾dzi ~ ⁽ⁿ⁾zi ~ ⁽ⁿ⁾zi ~ ⁽ⁿ⁾dzi) との区別がない。[du] も見られず、/du/ と /zu/ (⁽ⁿ⁾dzu ~ ⁽ⁿ⁾zu) との区別がない。

| | | | | | |
|-------------------|-------|--|--|--|--|
| ダ /da/ : [namida] | 「涙」 | | | | |
| デ /de/ : [demono] | 「おでき」 | | | | |

ド /do/: [agudo] 「かかと」

3. 2. 5 /c/

/c/ は母音 /i/, /u/ と、接近音 /j/ の直前に立つ。母音 /i/ と接近音 /j/ が後続する場合は [tc] で実現し、/u/ が後続する場合は [ts] で実現する。ただし、母音 /i/ が中舌性の強い発音であるため、「チ」と「ツ」の区別が曖昧な場合がある。

/c/ に /o/ が後続して [tc] で実現する語例も1つ見られた。

/c/: [ts] … [tsura] 「面（かお）」 [matsuw] 「松」 [çitotsü] 「一つ」

[tc] … [tci] 「血」 [kutci] 「口」 [kutçibiru] 「唇」 [tçitci] 「乳」 [hettco] 「へそ」

3. 2. 6 /n/

/n/ は、母音 /i/ が後続すると口蓋化して [ɲ] になる場合がある。それ以外の母音の前では [n] で実現する。

ナ /na/: [henaka] 「背中」 [nawa] 「縄」 [nanatsü] 「七つ」

ニ /ni/: [piku] 「肉」 [ɲira] 「にら」 [ani] 「長男」

ヌ /nu/: [nuka] 「糠」 [inuw] 「犬」

ネ /ne/: [nego] 「猫」 [hone] 「骨」

ノ /no/: [nogo] 「鋸（のこ）」 [kudamono] 「果物」

3. 2. 7 /r/

/r/ は、はじき音 [r] で発音される。

ラ /ra/: [sara] 「皿」 [meraci] 「娘」

リ /ri/: [tocori] 「年寄り」 [kusuri] 「薬」

ル /ru/: [kuteibiru] 「唇」 [iruga] 「いるか」

レ /re/: [jo^odare] 「涎」 [sippakire] 「末っ子」

ロ /ro/: [kuroboçi] 「踝（くるぶし）」 [çuguro] 「袋」 [rokuinin] 「六人」

3. 3 軟口蓋音

軟口蓋音には /k/, /g/, /ŋ/ がある。

3. 3. 1 /k/

/k/ は母音間で [k] も [g] も現れる。音素 /k/ は母音間では [g] で実現すると記述されることが多いが、調査では、こうした規則的な変化が見られない場合が少なからずあった。

| | | | | |
|----------|---------------|-------------------------------|--------------|--------------|
| カ /ka/ : | [kadze] 「ユニ」 | [nuka] 「糠」 | | |
| キ /ki/ : | [haŋuki] 「歯茎」 | [kimo] 「肝」 | [iki] 「息」 | [kʰi] 「木」 |
| ク /ku/ : | [niku] 「肉」 | [cokuzi] 「食事」 | [kuŋi] 「釘」 | [kusari] 「鎖」 |
| ケ /ke/ : | [ke] 「毛」 | [kekkon] 「結婚」 | [keŋka] 「喧嘩」 | |
| コ /ko/ : | [koci] 「腰」 | [ko ^m buzi] 「たんこぶ」 | [kinoko] 「茸」 | |

3. 3. 2 /g/

/g/ は母音間ではなく語頭に現れる例も見られる。音素 /g/ は母音間では [ŋ] で実現すると記述されることが多いが、調査では、こうした規則的な変化が見られない場合もあった。

| | |
|----------|------------------|
| ガ /ga/ : | [gani] 「蟹」 |
| ギ /gi/ : | [ojaɣumagi] 「親戚」 |
| グ /gu/ : | [çagusi] 「ひしゃく」 |
| ゲ /ge/ : | [baŋgemesi] 「夕食」 |
| ゴ /go/ : | [goma] 「胡麻」 |

3. 3. 3 /ŋ/

語頭に /ŋ/ が立つ例は見当たらなかった。

| | | | |
|-----------|----------------|---------------|----------------------|
| カ° /ŋa/ : | [ciɾaŋa] 「白髪」 | [keŋa] 「怪我」 | [ju:ŋao] 「夕顔」 |
| キ° /ŋi/ : | [uŋaŋi] 「鰻」 | [kuŋi] 「釘」 | [ɸɯkuraŋaŋi] 「ふくらはぎ」 |
| ク° /ŋu/ : | [haŋuki] 「歯茎」 | | |
| ケ° /ŋe/ : | [kamiŋe] 「髪の毛」 | [majuŋe] 「眉毛」 | [toŋe] 「棘」 |
| コ° /ŋo/ : | [aŋo] 「顎」 | [idziŋo] 「苺」 | [hadageciŋodo] 「畑作業」 |

3. 3. 4 軟口蓋音が摩擦的噪音を伴う場合

大西 (1952: 23) で記述されているように、今回の調査でも、/k/ の直後の母音が /i/ の場合、/i/ へのわたり摩擦的噪音が生じ、[kʰi] や [kʰi] と表記されるような音声で実現する。

/g/ の直後の母音が /i/ の場合も、/i/ へのわたり摩擦的噪音が生じる。この場合の摩擦的噪音は有声性において /g/ と同じ有声音となり、[gʰi] のように表される音声で実現する。

/ŋ/ の直後に /i/ が立つ場合に摩擦的噪音が生じる例は見当たらなかった。

3. 4 声門音

声門音には /h/ がある。音素 /h/ は、母音 /a/, /e/, /o/ の直前では声門音 [h] で発音され、母音 /i/ の直前では口蓋化して [ç] になることがある。母音 /u/ の直前では両唇音の

[ɸ] で実現する。

| | | | |
|----------|--------------|----------------|---------------------------|
| ハ /ha/ : | [hana] 「花」 | [hasira] 「柱」 | |
| ヒ /hi/ : | [hiŋe] 「ひげ」 | [hiza] 「膝」 | [çitori] 「一人」 |
| フ /hu/ : | [ɸuŋke] 「ふけ」 | [ɸuɸtari] 「二人」 | [ɸuɸtatsü] 「二つ」 |
| へ /he/ : | [he] 「屁」 | [henaga] 「背中」 | [hettco] 「へそ」 |
| ホ /ho/ : | [ho] 「穂」 | [hone] 「骨」 | [ho ⁿ zo] 「包丁」 |

3. 5 接近音

接近音には /j/, /w/ がある。

3. 5. 1 /j/

先に /j/ の例を挙げる。/j/ の直後に /i/, /e/ が現れる例はなかった。

| | |
|----------|--------------|
| ヤ /ja/ : | [omoja] 「母屋」 |
| ユ /ju/ : | [jübi] 「指」 |
| ヨ /jo/ : | [jomoni] 「蓬」 |

また、/j/ は、子音に後続して、口蓋化した子音を作る。基礎語彙とその用例の調査の範囲では、次のような口蓋化子音が見られた。

| | | | |
|------------|-------------------------------------------|-------------------------------|----------------|
| シャ /sja/ : | [çagusi] 「ひしゃく」 | [camo ⁿ zi] 「しゃもじ」 | |
| シヨ /sjo/ : | [toçori] 「年寄り」 | [çomben] 「尿」 | |
| ジャ /zja/ : | [dza] ~ [za] 「よ（文末詞、終助詞）」 | | |
| ジュ /zju/ : | [dzü:nin] 「十人」 | | |
| ジヨ /zjo/ : | [tenzo:] 「天井」 | [benzo] 「便所」 | [tco:dzo] 「長女」 |
| チャ /cja/ : | [tcawan] 「茶碗」 | [kaboŋca] 「南瓜（かぼちゃ）」 | |
| チヨ /cjo/ : | [tco:dzo] 「長女」 | [hettco] 「へそ」 | [çintco:] 「背丈」 |
| ビャ /bja/ : | [b ^{ja}] 「～（し）ようよ」 | | |
| ビヨ /bjo/ : | [b ^{jo} :ki] 「病気」 | | |
| キャ /kja/ : | [kk ^{ja}] 「よ（ね）：文末詞、～（し）たら：副助詞」 | | |
| キュ /kju/ : | [k ^{ju} :sü] 「急須」 | [k ^{ju} :] 「灸」 | |
| キヨ /kjo/ : | [k ^{jo} :dai] 「兄弟」 | | |
| リヨ /rjo/ : | [r ^{jo} :ko:] 「旅」 | | |

3. 5. 2 /w/

次に /w/ について、/w/ は母音 /a/ の直前に立つ。

ワ /wa/: [wa] 「私」 [wara] 「藁」 [awa] 「粟」

/w/ が子音に後続することで子音が唇音化して [k^w] や [g^w] になるような、いわゆる合拗音「クワ」「グワ」のような音は、調査の範囲では見られなかった。

3. 6 特殊音素

単体で母音の持続時間と相当する持続時間を持ちうる子音音素として、撥音 /N/ (ん) と促音 /Q/ (重子音) がある。

3. 6. 1 撥音

撥音 /N/ は直後の子音と同一の調音位置で発音される鼻音である。/N/ は、直後の子音が両唇音のとき [m] で、直後の子音が歯茎音のときは [n] になる。同様に、直後の子音が軟口蓋音のときは [ŋ] で、語末では [N] で実現する。

ン m… [nambo] 「幾ら」 [tempura] 「天ぷら」 [nammo] 「まったく」
 n… [ondzi] 「次男」
 ŋ… [keŋka] 「喧嘩」 [baŋgemesi] 「夕食」
 N… [goniN] 「五人」

3. 6. 2 促音

促音 /Q/ (重子音) は、同じ子音を重ねた結果詰まったような音で、基礎語彙調査の範囲では、[pp], [tt], [cc], [kk] が現れた。

ツ pp… [happa] 「葉」 [nappa] 「菜っ葉」 [oppa] 「尾」
 tt… [jatto] 「早く」
 cc… [hettco] 「臍(へそ)」 [kettsu] 「尻」
 kk… [ekko] 「柄」 [kekkon] 「結婚」

4 音素目録

当方言の音素一覧を次に示す。

(1) 母音音素

母音音素は短母音5つ /a, i, u, e, o/ である。

表 1 短母音音素

| | Front | Back |
|------|-------|------|
| High | i | u |
| Mid | e | o |
| Low | a | |

(2) 子音音素

子音音素は /p, b, m, s, z, t, c, d, n, r, k, g, ŋ, h, j, w/ の16種類である。

表 2 子音音素

| | 両唇 | 歯茎・硬口蓋 | 軟口蓋 | 声門 |
|--------|---------------------|-----------------------------------------------|-----|-----------------------------------|
| 破裂音 無声 | p | t | k | |
| 有聲 | b | d | g | |
| | [b~ ^m b] | [d~ ⁿ d] | | |
| 鼻音 | m | | ŋ | |
| 摩擦音 無声 | | s | | h |
| | | [s~ ^ç] | | [h~ ^ç ~ ^ϕ] |
| 有聲 | | z | | |
| | | [z~dz~z~dz ~ ⁿ z~ ⁿ dz] | | |
| 破擦音 | | c | | |
| | | [ts~t ^ç] | | |
| はじき音 | | r | | |
| | | [r] | | |
| 接近音 | w | j | | |

(3) 特殊音素

特殊音素は /N/, /Q/ の2種類である。

撥音 N [m, n, ŋ, ɴ]

促音 Q [pp, tt, cc, kk]

5 音節

音節の構造は、(O)(G)N(Co) である。各スロットについて、O は onset：頭子音、G は glide：わたり音、N は nucleus：音節核、Co は coda：末子音を表し、括弧に含まれる要素 O, G,

Coは有っても無くてもよい。

音節に必須の要素はNスロットで、これに O や Co などが加わり、1つの音節を作る。Gスロットには、/j/ が立つ。

表 3 音節構造

| Onset | Glide | Nucleus | Coda |
|---------------------------------------------|-------|---------------|------|
| p, b, m, s, z, t, c, d, n, r, k, g, ŋ, h | j | a, i, u, e, o | N, Q |

参考文献

大西久枝（1952）「青森県下北方言における音韻について」『文学論叢2』18-29.

『田名部辯語彙集』記載語彙のアクセント資料

ローレンス・ウエイン¹

1 はじめに

東北北部三県の方言の単語は単独では一音節がほかより高く発音される。単語の一ヶ所のみが卓立するために、話者にとってそのアクセントは意識されやすいと思われる。そのために地元の方言集の多くはアクセントを記録している。例えば、山村（1980）の青森県東津軽郡平内方言は高い音節が太字ゴシックで、秋田県学務部学務課（1929）の秋田県諸方言や成田（2002）の青森県西津軽郡木造町方言は高い音節が傍線によって表示されている。工藤（2008）の青森県南部の諸方言や関谷（2013）の岩手県上閉伊郡吉里吉里方言では傍点が使われている。しかし一方では、下北地方の旧田名部町（現青森県むつ市東部）の方言集『田名部辯語彙集』（川嶌 2002）はアクセントの記載がない。本稿ではこの欠を補うべく、川嶌（2002）（以下『語彙集』という）記載の語彙を調査して、そのアクセント資料を提示する。

2 田名部方言

2.1 話者と表記

調査は2019年4月13日～15日と8月29日～31日に、むつ市の曙町集会所で行った。話者は次の5名である（敬称略）²。

| | |
|--------------|--------------|
| 川村丈夫（昭和19年生） | 石澤 正（昭和19年生） |
| 望月節子（昭和24年生） | 川畑久枝（昭和20年生） |
| 其田静子（昭和14年生） | |

本稿の資料の方言形は音声表記で示し、使用する音調記号は次のとおりである。

[: 音調の上昇] : 音調の下降]] : 拍内下降 [[: 拍内上昇

地名の田名部は現地では低-高-低の音調で、これは ta[na]buu のように表記する。語末音節が二つの [[に囲まれている語形は無アクセントである。例えば ka[ma]「鉄瓶」とあるのは、

¹ ローレンス・ウエイン：オークランド大学・上級講師（wp.lawrence@auckland.ac.nz）

² 話者の方々に対して心より深く感謝する。また、曙町町内会長の久保三郎氏に対しても、氏のご協力があったからこそこの調査を成し得たので、ここに謝意を表する。

単独形の発音は ka[ma で、助詞が付くと kama[▷ (例えば kama[ba 「鉄瓶を」) という発音になることを意味する。語末の] と]] は音声的な変種であり、ともに語末アクセントである。拍内上昇はアクセントではなく、文イントネーションである。下降記号の後の上昇記号は o[se][ka]rū 低-高-中-低、kok[ki]ki[gü] 低-高-低-中のように半上昇を表す。

本稿では資料を『語彙集』の順に並べた(付したページ番号は『語彙集』のページ番号である)。時間の都合で、『語彙集』掲載の連語(例えば [a]rūmondene 「不埒な奴」)ならびに辞書形以外の活用形は基本的に調査しないことにした。それ以外、『語彙集』には載っているが、本稿にない語形は話者に別の方言(津軽方言、東通方言、上北方言)と断定された単語か、あるいは話者が聞いたことがないと言った単語である。また、『語彙集』にない語形(例えば上野(1991, 2019)の青森県方言の形容詞と動詞の資料にある俚言)もいくつか併せて調査した。それらに関しては下記の資料でその語形の前に + を付した。

2. 2 アクセント資料

p.1 [a]iko ミヤマイラクサ [山菜]

aoei[ei] かもしか

a[ga] 塗

+ a[ga] 垢

aga[ri] 灯り、明るい

a[gü] 灰

+ a[gü] 野菜の灰汁

aküta[re]] 憎まれ者

+ ^dzü[rü]ške 憎まれ者 + ^dzü[rü]skedo 憎まれ者たち

kaŋa[do] 踵

+ agüdoŋa[ra]mi 藁沓を履くとき、踵を寒さから守るために踵の周りに巻く布

age[bi] あけび

p.2 a[ŋe]tamü[ge] 供え物すること

+ tamü[ge]rū 供える

aŋemo[no] 供え物

akko[ra], akkora[heŋ] あの辺

asa[rü] 掻き集める

aç[ka]da 足跡

a^dzü[ga]rū 預かる a^dzü[ge]rū 預ける

a^dzü[ba]rū 集まる a^dzü[be]rū 集める

aso^m[bü] 遊ぶ

+ aso^mpi[sa] ~ aso^mbi[sa] ~ aso^mbü[sa] 遊びに(行く)

+ [to]sa i[gü] 取りに行く

- andzūgi^dze[ro] 芋虫
a[se] 浅い
ase^m[bo]] 汗疹
- p.3 asogoa[da]ri そこら辺
ada[rū] 当たる
atta[ni] あんなにも
a[de ne]] 値打ちがない
adoha[da]ri 一旦決まってしまったことに対して不満を言う
adoφū[g̃i] 二次会
ado[ma]rū 後回しにする、後ろの方になる
- p.4 a^mbū[g̃ū]] 泡
[a]^(m)be 一緒に行こう [命令形]
ame[rū] 饅える
a[mo]ko 化け物 [子供に対して使う言い方]
+ bagemo[no]] 化け物
aja[ga]rū 肖る、戯れつく
a[ja]ko お手玉
+ aja[to]ri 綾取り
arage[ne] 荒々しい
arasaja[ei] 欠点探し
arida[ge] すべて
arūgima[wa]rū 歩き回る
- p.5 a[rū]gū 歩く
awage[ne]] 泡のように毀れやすい
awa[sa]rū 寸法が合う
+ a[wa]rū 寸法が合う、気性が合う
aŋ[ko] おはじき
+ aŋ[ko] 餡
[an]tea 若い男
+ [net]tea 未婚女性
am[be]] 調子
iga[ge] 鋳鉄溶接
+ igage[ja]] 鍋釜を修理する人
- p.6 + o[go]rū 怒る
iqi[a]ū 会う
iqiŋi[wa], igiei[na] 行き際

- i[gü 行く、帰る
- p.7 i[gɛ]rū 埋める、植える
 üno[ga]sü ~ üno[ga]sü 動かす
 isa[ba] 魚屋
 isü [wa]rū 居座る
 + i[da]ko 口寄せ巫女
 ida[ma] 板の間
 idawa[ei] 勿体ない
 izü[gü]rū ~ i^dzi[gü]rū 弄る
 i^(nd)zi[rū] いじめる、いじる
 [i]züga[ka]züga いつの日か
 ikimo[ki] 短気、せっかち
 iküraka[ɲeN] いい加減
- p.8 izüküra[ei] 違和感がある (話者によっては itsüküra[ei])
 ieeokü[ta](N) 全部一まとめ
 [i]zidari[ka]zidari 不定期
 itteo[me] 一人前
 ittoji[ma] ちょっとの間
 ip[pü]gü 一休み
 ip[pe] たくさん
 ina[gü]eta ~ [na]güeta 紛失した
 i^hüriko[gi] ~ e^hüriko[gi] 見栄張り、洒落者
- p.9 ira[rū] 入用である
 + ügi[rū] 浮く
 üeiro[kü^m]bi 後頭部、盆の窪
 üške[ne] 劣っている
 ü^dzürü 感染する
 üş[pa] 薄刃の包丁
 üso[ko]gü 嘘をつく
 üsoko[gi] 嘘つき
- p.10 ü[so]sü 嘘をいう
 üda[de] 気持ちざわめき、不安
 ü[da]rū 暑気当たりする
 üda[rū] 歌う
 üzüge[rū] 甘える
 ü[me] うまい

- ürü[ga]sü ふやかす、ずっと後まで先延ばしする
ürü[da]gü あわてる、気持ちが動揺する
+ üre[rü] (品物がよく) 売れる + ü[re]rü 売ることができる
[üŋ]konoki ~ [oŋ]konoki イチイ [樹]
üzüügü[ma]rü しゃがむ
- p.11 iⁿ[dʒi] ~ eⁿ[dʒi] 窮屈
i^dziküra[ei] ~ e^dziküra[ei] 違和感で窮屈
e^füriko[gi] ~ i^füriko[gi] 見栄張り、洒落者
e[hep]po 根性枉げ
- p.12 e[he]rü ぐずる、すねる
ehera[ga]sü 相手の気持ちを損ねる
i⁽ⁿ⁾zikera[ga]sü ~ e⁽ⁿ⁾zikera[ga]sü 手を加えておかしくする
[eŋ]tʃko 藁網の赤ん坊入れ
o:meei[ŋü]i 大食漢
[o:]jage 裕福な家
- p.13 oga[ei] 変だ、おかしい
ogaç[ken]ta おかしな
o[ŋa]rü 動物などが育つ、毛が伸びる
oŋara[ga]sü 育てる
o[gi] 燻
ogüri[to] 送り人
ü[ŋü]i ウグイ [魚]
koro^m[bü] 転ぶ
ogosa[ma]ei[[na] 怒らないで
+ o[go]rü 怒る
o[gok]ko 漬物 [幼児語]
o[ei]züga[ni] 静かにしなさい
o^dzo[me]gü, oⁿ[dzo]mü 尻込みする、おじける
- p.14 o[se][ka]rü 重石を乗せる、アイロンをかける
o[teŋ]ko お座り [幼児語]
okkanaga[rü] 怖がる
okka[ne] 恐ろしい
[ok]kita 大きな
+ ok[ke]rü 転ぶ + ok[ke]sü 倒す
oʃ[ke] ~ ozü[ge] 味噌汁
ot[tei] 啞

- ottʂ[ke]rüt 押し付ける
+ oⁿdogasüt 脅かす
oppiro[ŋe]rüt 広げる
[tot]tea 父
[a]ŋo 顎
a[ŋo]ta 顎、顎の先端
odode[na] 一昨日
odoro[ga]süt 目覚めさせる、びっくりさせる
- p.15 odo[ro]güt 目覚める、びっくりする
o[ha]ŋi ご飯を餡で包んだもの
o^m[be]rüt 覚える
o^m[bo]rüt, o^m[bü]rüt (人を) おんぶする
+ eo[rüt ~ eo[üt (荷を) 背負う
o^mbo[sa]rüt おんぶさせる (自分がしてもらう)
o^mbo[se]rüt ~ o^mbo[he]rüt (人を人の背中に) 背負わせる
üt[ma] ~ m[ma] ~ o[ma] 馬
+ tana[bü]üma 田名部馬
oma[rüt] 携帯便器
o[me] お前
ome[da] お前の家
- p.16 ome[do] お前達
omeni[ka]te お前のせいで
omoci[re]: 嬉しい、楽しい
omo[de] 重い
o[mo]üt 思う
ojaqüma[gi] 親類
kari[rüt] 借りる
kai[ma::]ʂ 子供の買い物時の挨拶
[ka]ga 妻
kaŋama[rüt] しゃがむ
+ kaŋa[mü] 屈む
- p.17 kagara[e]rüt 攻撃される
kaŋizüt[ge] 自在鉤
+ [ka]⁽ⁿ⁾da 火棚 (炉の上に天井から吊るした棚)
[ka]güt 掻く
ka[gü]süt 隠す (「しまう」の意味はない)

- + kadazü[ge]rütü しまう
kagütü^(d)zi] 屋敷内で家の後ろにある土地や蔵
ga[sa]ebi, eakoe[bi] しゃこえび
kaci[ŋa]rütü 傾く kaci[ŋe]rütü 傾ける
[ka]ŋpe エイ
[kaⁿ]ze うに
+ [ütü]ni ばふんうに
+ [no]na うにの一種
ka[se]rütü ~ ka[he]rütü 食べさせる
- p.18 ka[da]ho ~ ka[dap]po 片方
ka[da]kürä 偏屈
kada[bik]ko 履物などの片方だけ、びっこ
kadajütü[gi] 表面が凍結した春先の雪
ka[da]rütü 仲間に加わる、夫婦になる
+ kada[rütü] 話す、講演する、説得する
ka[tea]gütü 引っ掻く、搔く
katea[ma]sütü めちゃくちゃにする
[gak]ka 戸主妻
boribo[ri] ナラ茸
[gak]ko 漬物 [幼児語]
gattea[gi] 痔
+ ei[bi]gatteagi 手のひび割れ
- p.19 kat[tsütü]gütü 追いつく
[gap]pa, [ge]ro 雪すべり下駄 (少女用)
kütü[ra]ütü 食らう
kap[pa]rütü 盗む
+ kappa[ra]ji どろぼう
kap[po]ŋütü 掻き込むように急いで食べる
kantskewa[ra]ei 発育不良児
maⁿze[mę]ei 混ぜご飯
ka[de]rütü 加える
ka[to]sütü 追い越す (話者によっては kat[to]sütü)
ka[ne] 鉄漿
- p.20 kapütüke[rütü] 黴びる、おできの瘡ができる (話者によっては ka^mpütüke[rütü])
ga[he ne]] 体力がない
ka[he]ŋütü ~ ka[se]ŋütü 稼ぐ、労力を使う

- kaeriei[na] 帰り際
 ka[ma] 鉄瓶
 ka[ma]sü 掻き回す
 + kama[sü] 匂いを嗅がせる
 + ka[ŋü] 嗅ぐ
 + kama[sü] 藁袋
 kamadoke[ei] 倒産した人
 + kamado[ke]sü 倒産する
 + kama[do] 一戸の家の経済状況
 kama[ri] 匂い
 + kama[rü] 匂う
 ka[ma]ü 構う、関わる
 kamo[sa]na ~ kama[sa]na 拘るな、いじるな
- p.21 ka[ra] 体 (~ばかりでっかくて)
 karaüsoko[gi] 嘘つきめ
 + man[to:], semmi[tsü] 大嘘つき
 kara[ŋa]gü, kara[ŋe]rü 縛る
 karakiⁿ[dzi] わがまま勝手
 karakü[zi] 口答え
 karako[ea]gü ~ kara[ko:]eagü 余計な節介
 karakop[pe] 見栄っ張り
 karaheŋ[ki] 余計な神経
 karappo(ne)ja[mi] 怠け者
 ga[ra] wa[ri] 品性が悪い
 karika[ri] 疥癬
- p.22 [ka]rü (鍵を) かける
 gawa[ri] 周辺
 gaŋküra[a]dama ぱっとしない人
 kaŋ[ŋe]rü 考える
 kantŋke[rü] なすりつける
 kan[na] 縫い糸
 ka^mpüketa[ga]ri 瘡蓋がいっぱいの人
 ga^m[be] 頭にできた瘡
 + ga^mbeta[ga]ri 頭に瘡蓋がいっぱいの人
 kikaⁿ[zü] 難聴者
 + kikaⁿzüsa[ma] 聞かない人

- p.23 kigase[rü ~ kʰikase[rü ~ kigahe[rü ~ kʰikahe[rü 聞かせる
kʰika[ne[やんちゃ、喧嘩強い
kʰi[kam]po 腕白坊や
+ [ki]ŋi 杵
kʰike[rü 聞こえる
so[ma]ɸü 杣夫
kiⁿziⁱ[ei]pa 横座の向かいの座
kaga[za] 客座の向かいの座
kʰi^ta[ŋi]rü 切る
kʰi^kkü^ra[he]ŋki ~ gikkü^ra[he]ŋki 腰痛
kʰi^t[tei] 飼い葉桶
ki[na[昨日
kinakü[se]] 焦げ臭い
ki^mbaeⁱk[ko]i 利発 (多少ずる賢い)
+ kʰi^ppaei[ne] 素早い
ki^mbi[teo[急須
kʰise[rü ~ kihe[rü 着せる
[ki]mi トウモロコシ
- p.24 ki[mo]ja[gü ~ ki[mo]jage[rü 癩に障る、心がいらだつ
ki[raⁿ]zü 豆腐の絞り滓
[ki]ri 際限
kirümo[no]] 着物
küi[bü]zi 食い分 (話者によっては küi[bü]tei)
[gü]:[gü]do 急いで、速く
kü[e]rü ~ küp[pe]rü 塞ぐ
kü[ŋo[ハマスゲ
kü^sare[e]] 古くなった家
- p.25 güⁿ[dze]rü ~ güⁿ[dzü]rü 不満をぶつぶつ言う
[kü]:eta 心配した
kü^sēja[mi[悪阻^{つわり}
kü^ta^m[ba]rü 死ぬ [俚語]
gü[da]ma[gü ~ kü[da]ma[gü, güda[me]gü 不平をいう
[kü]damonda 心配だ
kü[te^m]berü べちゃべちゃしゃべる
kü[dzi]joŋo[ei[少量の食べ物
- p.26 kübima[gi[襟巻

kübe[rü] 焼べる
+ kü^m[ba]rü 運ぶ
kümakagü[ei] 欠点隠し
kü[ma]rü もつれる、からまる
+ kügü[rü] (糸を) 繰る
kü^{rü}[bi] ~ kü^{rü}[mi] 胡桃
kü^{rü}[ma]rü (毛布に) 包まる
+ kü[ro] 畔
kü[wa]rü 塞がる
[ke:]ran 卵型の餡入り餅が入っている醤油ベースの汁
[ke:]sü 返す
ke[ga]zi 飢饉
kekka[ra] 貝殻

p.27 kek[ko] お粥
ke[ci]gi 雪除け用ショベル
geⁿda[ga] 毛虫の総称
+ kü[ma]geⁿdaga 大きくて黒い毛虫
[ke:]züigare 消えちまえ [卑語]
[ke:]tea, [kep]pa 裏返し
[gep]pa びり
+ ketsükü[se] けちな
ketsüma[zü]gü 蹴躓く
keⁿ[do] 家の戸
+ keⁿ[do] 道路
keⁿdoba[da] 路肩

p.28 [ke]na 腕
ke[ne] ひ弱い
[ke:]ne] 大したことない
ke^m[ba] 食を盛る葉
kemü[te ~ ke^mpü[te] 煙たい
ke[ra] きつつき、蓑
ke[rü] 消える、上げる、呉れる
[ke]rü 食べられる
[kem]pigi 肩の三角筋
ko[ae] ~ ko[ai] 下味をつけて煮た大根・人参などを鱈子で和えた料理

p.29 [ko]i ~ [ko]e 堆肥

koiⁿda[me]] 肥溜め

+ go:[zo:]ŋüra 飢饉に備えて食糧を蓄えた村営の蔵

+ ko[sü] 漉す

ko[we]: 疲れる

go[we]kirü 威張る

ko[ŋa]] 大樽

ko[ŋe]: お焦げ

ko[k^ɕi]tane うす汚い

[ko]gü する

[ko]ŋü 歩く

gogütsü[bü]ei 無駄飯食い

ko[gü]wa サルナシの実

p.30 gokotsü[ma]ri ~ goko^dzü[ma]ri 吃り + goko^dzü[ma]rü 吃る

koŋo[ri] 塊

[ko]sa^mbiei[ne]] どこか淋しい

goⁿza[ra]sü 恥さらし、失態

go:^dzoppa[ri] 強情を張る者 [強意]

kosae[rü] 拵える

kose[rü] ~ kohe[rü] 拵える

goda[gü] 不平不満

koⁿda[ei] 腰につける物入れ籠

godama[gü]] 内臓、がらくた不用品

+ [ko]tei 東風

koteŋa[sü] くすぐる

kok[k^ɕi]k^ɕi[gü] 気が付く

p.31 kok[ko] 子供

+ kok[ko]ü[ma] 仔馬

kotta(ra)[ni] こんなに

kot[tea] こちら

+ koppaei[ne]] 小うるさい

koppaⁿzüga[ei]] 恥ずかしい

kone[da]] この間

konobütei[ko] たったこれだけの量

ko^mbita[ga]ri 垢だらけの人

ko^mbi[ri] 軽い間食

+ ko^mbüra[ke]rü 足がつる

- ko[ma[馬
p.32 koma[rü] お辞儀する
[go]me 鷗
go[mo]küso 不平不満、ぶつぶつ
ko[ri][mi]rü こりごりする
koremi[sã]i これこれちょっと [呼びかけ]
goro^(d)zü[gü] 無理難題言っておどかす
kon^(d)zi] 小路
gon^(d)za[ra]sü 恥さらし
[ko]nta 今度は
kontsükeraga[sü] ややくしくこんがらかす
gom[pe]] ハゼの一種
gombo[ke]rü 駄々をこねる
gomboho[ri]] 駄々をこねる人
p.33 saga[ei]] 賢い
sa[ga]pera なだらかな坂
saka[mak]ko ままごと
saki[ta] さっき
sagi[no]ba[ne] 一昨日の晩
sagürado[ri] むく鳥
sa[ge] 境
saga^m[bü] ~ sage^m[bü] 叫ぶ、大声でしゃべる
mo[sü] 燃やす
[sas]sado 急いで
p.34 sa^m[bi]] 寒い
samü[ke] 寒気
sahe[rü] ~ sase[rü] させる
sa[me]rü 冷める、色あせる
sarü[ke]] 泥炭
sarükko[zi]ni 見栄すえた遠慮
[jat]to [sa]re はやく去れ [男ことば]
+ [jat]to iga[se] はやく去れ [女ことば]
san^(d)za]gü 三尺帯
[san]dansürü 計画する、あれこれ考える
san[to] 妊婦
p.35 sam[ma[, + de[ma]do 煙を出すための出窓

- ^dzeŋ[ŋo] 田舎
^dzeŋ[ko] お金
+ [^dze]ni 硬貨
ei[ŋa] つらら、水溜まりなどに張る氷
ɸkase[rü ~ ɸkahe[rü] 知らせる
eiŋamo[ri] 軒先の凍結による雨漏り
^dzi[ŋi]sürü 遠慮する
- p.36 kǐ[se]rü 煙管
^dziǵü[na]ei 意地がない
sügüdamarü 冷え切る
sü[ŋü]ri すぐり [樹]
sk[ke] ~ sk[ka]i すっぱい
ɸkota[ma] がっぼり (~儲ける)
ei^dzi[ga]rü 係わる
ei^dzi[kü]sewa[ri] 悪いくせ
+ eindzi[re]~eindzire[jü]gi 重くなって、木からばさばさと落ちる雪(春の到来の印)
^dzise[ko] 法要
- p.37 ɸta(a)ⁿ[zi] 下味
eiⁿ[da]mi どんぐり
^dzidara[gü] なまけ、だらしない
^dzit[ta]ri どっしり
[ei]pa 尻尾、端っこ、びり
^dzip[pa]ri たくさん
sp[pe] すっぱい
ep[pe] ha[rü] 指はじきをする
eido[ge] もみじがさ [山菜]
ei[na i]: 品格がいい、格好がいい
einaka[de] しぶとい
- p.38 eina^(m)bike[rü] しおれる
^dzina[rü] 怒鳴る
ei[ne] 強靱
ei[no]rü たわむ
eppakire[on]zi 男の末っ子
ɸpa[sa]mi 尻からげ
ɸpa[ne] はね水
ei^mba[ja] 芝居

ei^m[ba]r^ü 縛る、結う
eiba[re]r^ü 寒気が強い
eibitʃge[ne]] だらしない
tsüme[te] 冷たい

p.39 [sü]makko ~ [sü]ma 隅っこ

ei[ma]r^ü しまう
eimi[do]:f^ü 凍豆腐
eimi[r^ü] 凍みる
eimoja[ge] 凍傷
eimo[r^ü] 沁みる
[^dzak]ko 小魚、川魚の一種
eak[ko]i 冷たい
eabe[k^ü]r^ü 言いまくる
eabera[ç]r^ü 言われる
eabe[t^{eo}]] 多弁者

p.40 ^dz^ü:ne] 荳胡麻

+ ^dz^ü:ne[a]e 荳胡麻和え
+ ^dz^ü:ne[mo]zi 荳胡麻餅
+ ^dz^üg^ü[re]r^ü (果物が) 熟れる (膿には使わない)
[e^ü]deko シオデ [山菜]
e^oik[ko] 背負い商い
[^dzo:]i 居間の隣座敷で来客に用いる上居間
^dzo[mi] [ガマズミ [樹]
^dzo[mi]z^ü (溜めて豚にやる) 台所污水
[^dzo]:ri 草履
^dzo[sa ne]] ~ ^dzo[se ne]] 造作ない、簡単
e^ot[t^{eü}]: 始終
^dzoppa[ri] 強情を張る者
^dzoppariko[gi] 強情っ張り
e^op[pe]] 塩辛い

p.41 ^dzi[ri] 霧雨

^dz^ü[r^ü]imonda ずるいこと
^dzin[^dzo] ~ ^dzin[^dzo]: 人形
^dzin^dzoci[ba]i 人形芝居
eimba[ri]] 戸締り用の棒
s^ü[ŋa] ~ ei[ŋa] 氷柱、水たまりなどに張った氷

- süügüdamarü 冷えて縮こまる
süügü[mü 冷え切る
- p.42 sünje[rü 差し込む
eizü[ga]rü 相手になる
süsü[ha]gi 年末の大掃除
^dzüp[pa]ri たくさん
ş[to] süürüna 係わるな
^dzina[rü 大声を出す
ei[ma]sü 返す
- p.43 ^dzün[^dzün]_N どんどん
[se]: kⁱ[re]rü 精が切れる
sega[se]rü 急がせる
[se]gi 堰
[se]ko [ko]güna 節介するな
[se]koko[gi] 干涉する人
se^dzi[ne]] 切ない
semak[ko]i 狭く窮屈
san[so]: 山椒
sewaei[ne]] 忙しい
- p.44 son[^dza]eta 仕損じた
sogo[ra] その辺
sokkürü[ne]rü 反り返る
sotta(ra)[bek]ko ~ sono[bek]ko そんな少量
sotta[ra] そんな
sodo[me[ハナショウブ
sobakak[ke]] そば粉を練って伸ばして切ってゆでたもの
sobaki[ri] 細く切ったそば
- p.45 sora[sü (田畑などを) 放置する
sora[ma]do 天窓
soro[ge]rü 揃える
[da]i 誰
[ta]iⁱisase[rü 面倒をかける
tai[ne] 足りない + tai[da] 足りた + tari[rü ~ tai[rü 足りる
- p.46 tagaⁿ[^dzo[地下足袋
tagaramo[no] 役立たず、厄介者
taga[rü 集まる、強請^{ゆす}る

tagüraŋ[ke] 馬鹿者、おっちょこちよい人、常識外れのことを言う人

tagü[rü (ページを) めくる tagüre[rü (ページが) めくれる

+ tagü[rü 手繰り寄せる

doⁿ[^dzo] ドジョウ

tago[no]do[ŋü] 蛸の内臓

tago[no]bot[tei] 蛸の胴体

+ bot[tei] 頭

tago[be]ja 強制労務者の宿舎

taei[ni]na[rü 為になる、役に立つ

da^dzi[me]gü ジャージャー溢れる

da^dzints[ke] 荷方

+ da^dzin[駄賃

p.47 ta^dzü[鱈の白子

ta^dzüga[ma]rü 摺まる

ta^dzü[ga]rü 摺まる

~no[dat]ta ~の戸主

ta[de]rü (仔・卵を採るために) 飼育する

ta[na]gü 持つ + ta[na]itekoi 持って来い

dahaŋko[gi] 駄々をこねる人

+ [da]mbüri とんぼ

[da]ma よく溶けずに残っている粒状のかたまり

tama[ka]ze 北西風

p.48 tamagürame[me]⁽ⁿ⁾dzü 白い輪のある太くて長いミミズ

tama[ŋe]rü びっくりする

da[ma]sü 子供をあやす、騙す

tamami[so] ~ misoda[ma] 煮て潰した大豆をボール状に丸めて乾燥したもの

damara[ga]sü 黙らす、騙す

[ta]me 斜視

tamo^dzü[ga]rü しがみつく

tara[ga]sü 垂らす

+ da[ra]ko, dara[se]_N 硬貨

tara[po] タラの木の若芽 (食用)

ta[re] 鹽

taŋkiri[a]me 練り伸ばして白くした飴

tan[da]de[ne] 容易でない

p.49 dando[ri] 下準備

- ta[na^{おぶ}] 負い紐
teiŋa[rü] 違う
dzi[gyü na]e 意気地なし
te[ke] 近い
[tei]tei 同居する伯叔母
tein^dzi[re]ko 刺子短衣
tein^dzikü^mba[rü] 小さくなる (話者によっては tein^dziko^mba[rü])
teaka[ei] そそっかしい人
- p.50 tea[ke] ~ teak[ko]i 小さい
tea[ram]po[ra]_N 無責任
tean[tea]ŋko 袖無しの綿入半纏
+ dode[ra] 袖のある丈の長い綿入半纏
+ tan^d[ze]_N 半纏
[tea]nto ちゃんと
[teo]ŋi 尻拭き用の茎
[teo]sü いじる
teottoqi[ma] ちよつとの間
teo[pe]tto 少し、ちよつとばかり
tska[ga]rü 躓く
tskara[ma]rü (何かに) 摺まる
tske[ŋi] 火付け用の松の根
+ ke[ja]gi 櫛
tsüŋiki[re] 布切れ
[tsü]gi[ne] つまらない
- p.51 tsü[ŋü] 縫い繕う
tske[na] 漬物 (菜っ葉のに限らず)
tskkari[bo] 戸締り用の棒
tsü⁽ⁿ⁾dzüra[ŋo] 带状疱疹
ts[to] 藁苞
+ tsto[nat]to 藁苞に包んだ納豆
tsüma[gyü]rü ~ tsüma[ke]rü 躓く
tsüma[ŋo] 藁製の沓
wara^d[zi] 草鞋 (紐を足首に巻いて固定する)
wara[ŋü]tsü 藁製の長靴
waran^d[zo]ri 藁草履
tsümitsü[gyü]ri 苦勞すること

- [tsü]mi[to]ŋa 悪い行い
- p.52 tsüratsü[gi] むっとした顔つき
 tsüratske[ne] 厚かましい
 + tsü[ra] ^{つら}面
 kaŋa[mü] かじかむ
 [te]ŋi 大儀、拍子木
 + de[ga]sü 完成する
 [te⁽ⁱ⁾]go 太鼓
 de⁽ⁱ⁾[ko]_N 大根
^dzenko[te]ei お金の無駄使い
 tagiŋite[ei] 薪の無駄使い
 te^dzüdara[ga]sü 手伝わせる
 tek[ka] 手甲
 dekkaraü[so] 大きな嘘
 [det]tara 大きな
 tek[kü]i ヒラメ
- p.53 [te]ndzüma 手品
 + tendzümats[ke]] 手品師
 teip[pe] 手一杯
 teⁿ[do]wa[ri]: 手際が悪い
 de[na]^dzügi 出張り額
 + tenü[ŋü]i, te^fü[gi]] 手ぬぐい
 [de]no[e] ~ [da]no[e] 誰の家
 de[ha]rü 出る ([de]rü も同意味。「勉強などができる」の意はない)
 de^m[be]teo 出臍
 te^mbo[ge]] 不器用
 tema[da]re 手数
 temadarekü[se]] 面倒くさい
 teme[da] お前の家
 + te[na]ŋa こそ泥
 teŋ[ŋe] 大概、変わっている
 teŋ[ŋo] 同じ
 ten[de] 個々ばらばら
- p.54 tendego[de]_N ばらばら
 den[de]mmüei 蝸牛
 to:[ei]] 初めから終わりまで

- to:[ri] 土間の通路
toŋa^dzikada[ri] 他人のことを悪く言うこと
to[ŋi] ~ to[ŋe] 棘
toŋü^dzi 家の入口
to[ŋe]o, to[ŋjok]ko, toŋi^dzok]ko イトヨ [川魚]
- p.55 toke[ŋek]ko 交換し合うこと
to[ke]süü 取り返す to[ke]rüü 交換する
tokesa[e]rüü 取り返される
+ ba[güü]rüü 交換する
[do]godari[ka]^dzüüdari ~ [do]godari[ka]tsko どこでも
+ to[εo]rüü 老いる
toⁿ[^dzüü]güü 届く
totska[ma]rüü 擱まる
tokküüri[ge]rüü ひっくり返る
tokküüri[ma]rüü 包まれる
[dot]tara どんな
+ [dot]tara(da)ç[to] どんな人 (あきれていう)
+ natta[ra] どんな
+ natta[ra]ç[to] ~ nattara[da]ç[to] どんな人 (あきれていう)
- p.56 tot[tsüü]rüü 貝の中腸腺
toppaⁿ[^dzo]süü やり損なう、失敗する
toppa[na] 最先
dop[pe] びり
top[pe]rüü 塞き止める
to[na] 飼葉
dobü[to]i ~ dobü[te]: 太い
to[bo]süü 火葬する
toriei^m[ba] クロモジ [樹]
toro[ke]rüü 取り除く
+ toro[ge]rüü 溶ける
+ [φüü]güüro 梟
+ φüügü[ro] 袋
to[ra]^mba^dzi 奪い合い
- p.57 doŋko[ro]] 大きい
+ doŋkoro[i]ei 大きい石
don^dza[刺子半纏 (漁師がよく着た)

- [do]n^dzū 尻
 [to]mbi 和服の上に男性が着用するマント
 dom[be] どぶろく
 + [to]mbo 土をならす均し棒
 [na] ~ n[na] お前
 + naŋa[ma]rū 横になる
 nagibet[teo] 泣き虫
 + bet[teo]kaqū ベそをかく
 [na]gūsū 紛失する
 na[ŋū]rū 塗りたくる
- p.58 nage[te]i ~ nage[tsū] 泣き虫
 na[ŋe]rū 捨てる
 naŋewa[ra]ei 放任された子供
 nagahe[rū] 泣かせる
 nagamaha[^dzū]re 仲間外れ
 naŋa[ra] 細長い小丸太
 jama[no]naŋa[re] 稜線、尾根
 + naŋa[ma]rū 横になってくつろぐ
 nandzū[gi] 額
 [na]sū 生む
 na[^dzū]gū 慣れつく
- p.59 na[ɸa] 菜っ葉
 namakoko[gi] ふざけ者
 nama[ra] 凡そ
 namarahaŋ[ka] 中途半端
 namarahen[^dzi] 曖昧な返事
 nandzoka[ge] 謎かけ
 [na]ntakan[ta] 是が非でも
 [na]nda^dzūgo[do]a [ne] 何のことは無い
 + nam[bū] 南部 + tsū[ga]rū 津軽
 nam[bo] いくつ、いくら
- p.60 niek[ko] 大根・人参・などを切って炒め、煎り豆腐と和えながら煮る料理
 [ni]ŋa, niŋak[ko] 嬰兒
 nika[mū] いびつになる nikame[rū] 歪める
 nikūtara[ei] 憎たらしい
 niei[ma]rū 煮込んで味がよく染みる、煮込みすぎる

- ni[da]^dzũ ~ ni[da]rũ 煮立つ
nidara[ga]sũ ~ nedara[ga]sũ 煮立てる
nidoi[mo] 馬鈴薯
ni[wa] 土間
- p.61 nü[gũ]i 暖かい
nügũda[ma]rũ 温まる nügũda[me]rũ 温める
nü[gũ]rũ 拭う
nü(t)ta[gũ]rũ 塗りたい (話者によっては nüda[gũ]rũ)
[ne] 無い
[ne]go 猫、作業用背当て
+ nego[gũ]rũma, [ne]go 手押し車
ne(k)ko[ma]rũ ぬかるみにはまって動けなくなる
nesamera[ga]sũ 目覚めさせる
ne^dzi[ŋe]rũ 寝違える (話者によっては ne^dzi[ge]rũ)
ne[da]rũ 催促す
ne[da]rũ ~ ni[da]rũ 煮立つ
- p.62 nettara[me]gũ ~ nekkara[me]gũ 粘っこい
nen[o] お前の家
nep[pa]rũ 粘りつく
nepũka[ge] 眠りかけ
nepũ[te] 眠い
ne[ma]rũ (畳・板・地面などに) 坐る
nen[sa] お前の家に
nen[ne]ko 子守り用の綿入半纏
noda[ba]rũ 地面に横になる、腹ばいになる
not[ta]ri たくさん
not[ta]ŋko, not[ta]do 大量
noppe[ra] 何もない土地、平らなところ
- p.63 nohe[rũ] 乗せる
no^(m)[be]rũ 差し出す
no[me] ものもらい [眼疾]
nome[kũ]rũ つんのめる
no[ri][ka]rũ 糊付けする
no[ro]pe 十センチほどの川魚、起きるのが遅い人
ba[o]ri イグサや菅で編んだ作業帽
baori[mo]^dzi そばか麦か澱粉を取った後の芋の粕で作る黒砂糖味噌餡

- [ha]gai[gü] はかどる
- p.64 haga[εo] 墓地
- [ha]gi 箒
- bagü[ro] 馬の仲買人
- ba(ŋ)[ŋe] 暗くなってからの晩
- + baŋega[da] 夕方
- baŋe[sa] 夕方
- basa[me]gü, + basadzü[gü] うろうろ歩き回る
- ha⁽ⁿ⁾dzig[e]rü 仲間外れにされる
- ha⁽ⁿ⁾dzigaei^dzü[ra] 恥ずかしい思いをするから
- ha^dzibiko[gi] 嫉妬心が強い人
- handza[me]aü 準備ができあがる
- handzo[sü] 外す
- haeo[rü] 端を折る、省略する
- p.65 baɛi[ra]ŋü じたばた騒ぐ
- ha[he]rü, ha[ɛi]rü 走る
- + hase[ma]rü 走り回る
- + harükî[to]: 初春にお婆たちが村の各入り口で村を病気や悪霊から守るために行う祈祷
- hadaga[rü] 広く開く
- ha⁽ⁿ⁾da[ge]rü そぎ落とす
- bada^dzü[gü], bada[me]gü あわててばたばたする
- hatea[ŋe]rü 跳ね上げる
- [hak]kara こんなに早く
- hakkjo[gi] 八卦をする人、預言者
- bak[ke] 露の臺
- + bakke[mi]so 露味噌
- hak[ke]rü 走る
- [pat]tei メンコ
- p.66 bap[po] おんぶ [子供に対して使う言い方]
- ha[na] 澱粉
- hanap[pe] 鼻の先
- [ba]ba うんち [幼児語]
- ha^m[ba]gi, habagi[da]ge なら茸
- habage[rü] 喉がつまる、あふれ出す
- + baba[ja]ⁿdo お婆たちが集まる集会所
- hama[rü] 加わる

- hajaẽta[de]rũ けしかける
ha[ja]sũ 煽る
haja[ma]rũ 腹ばいする、早まる
[ha]rakũ[da]ri 下痢
[ha]ratsũ[re] 腹いっぱい、満足
[ha]rape[ra]ei 空腹
hara[bok]ke 妊婦
- p.67 haŋkakũ[se] 常識外れ
[pa]ŋko 一部禿げ
baŋkoto[ri] 場所確保
han[tea] 腰まである綿入半纏
[ha]ntske 仲間外れ
+ hampũka[ge] 中途半端
çka[gi] 十能
çka[da] 西風
çkara[bi]rũ 乾燥する
bikũtara[me]gũ びっこをひく
+ bikũ[ta]rabikũ[ta]ra ビッコビッコ [擬態語]
heta^m[ba]rũ 疲れる
çteaka^m[bü] ~ heteaka^m[bü] 膝頭
- p.68 çkkara[ma]rũ 引っ掛かり絡まる
bik[ki] 蛙、少女
[bik]ko 片ちんば
[bit]ta 女子
bit[teo]kogũ 苦勞する
sa[ga]pira 坂
[bi]ro 涎 [子供に対して使う言い方]
biro[ka]ge 涎掛け
[φũ]: wa[ri]: 風采が悪い
φ[ka]sũ 蒸す、(おならを) する
+ [he] おなら
φkidama[ri] 雪の吹き溜まり
φũgiwara[bi] 露と蕨
- p.69 φũ[ŋũ]sũ 取り壊す、ほぐす
[me] φũ[gũ]rũ 亡くなる
çkũrũ[me]rũ ~ φkũrũ[me]rũ ひっくるめる

φ[ke] さかり、発情
φ[ke]same 盛衰、上がり下がり
φ[ke]rū 発情する (五段活用)
φü^dzamake[ei] 醜態晒し
bü^dzo[ho] 失礼
φü^dzori[ge]rū 反り返る
φü[^dzi]ri 端
φs[pe]rū 密閉する、火にかけて焦がす
φ[ta]gū, φta[ra]gū 叩く
p̄[ta]gū 叩く

p.70 φta[ηü], φtaηe[rū] 塞ぐ
φ(t)ta[gü]rū ~ φ(t)ta[gü]rū ひったくる
φtei[ηe]rū 捻挫する
bü^t[tea]gū 引裂く
φts[ke]rū 吹き付ける、くつつける
bü^tta[ηi]rū 切る
φü^t[tsü]gū くつつく
bü^tto:[ei] 引き続き
φp[pa]rū 引っ張る
+ φp[pa]rū 頑張る
φtsübü[rū] 踏みつける

p.71 φtoga[da]ge ~ φtoga[da]ge 一食
φto[ge]ri ~ φto[ge]ri 一回
φ(ü)t[to]^dzi 同じ
+ φtoηoro[ei] 人殺し
φto[ne] ~ φto[ne] 他人の家
φtome[a] wa[ri]: ~ φtome[a] wa[ri]: 気恥ずかしい、人目にさらされて体裁が悪い
φtome[ko]gū ~ φtome[ko]gū 他人を気にする
φimü[gü]rū ~ φümü[gü]rū 無理に引剥る
φümü[ei]rū かきむしる
φi[mo] 紐
φüradaje[rū] (話を) 広げる

p.72 φürük̄[se]hana[ei] 古い昔の話
φürü[ei] 古い
φürütaje[rū] 広げる
φürü[ma]sü 振り回す

- φü[ro](ba) ta[de]rü 風呂を沸かす
φündama[ga]sü 騙す [強意]
φün^dzüga[ma]rü 摺まる [強意]
sega[he]rü ~ sega[se]rü 急がせる
be[go] 牛
+ a[ga]bego 赤く塗った張り子の牛
begonoε[ta] 水芭蕉、座禅草
- p.73 he^dzi[ne] ~ se^dzi[ne] 切ない
bedana[gi] 小波もない尻
heta[ba]rü くたびれる
hetεaka^m[bü] 膝頭
- p.74 hetεo[ηe]rü がっかりする
betta[ra] 平ら
het[teo] 臍
het[teo]kogü 難儀する
he[dekü]rü 連れて来る
he[de]i[gü] ~ he[degü] 連れて行く
- p.75 [be]be 着物 [幼児語]
heraga[sü] 減らす
heraka[re] いがらっぽい
[he]rü 言う
[he](rü)na 言うな、するな
henkija[mi] 神経質
getas[ke]:to ブレードが鉄製の下駄スケート
+ tageske[to] ブレードが竹製の下駄スケート
- p.76 hoi[do] 乞食
hoidokü[se] 物欲しさが強い
ho[ga] 他所
ho[ga][ne] 他所の家
bokka[ge]rü 追いかける
ho[ge] 盆供養
ho[ge]rü (薄などが) 盛りを過ぎる
so[go] 其処
hogo[rü] 騒ぐ
[ho]ⁿdzi[na]ei 愚かである
hosok[ko]i ~ hosok[ke] 細い

- p.77 boⁿ[da]süü 追い出す
boda[mo]^{dzi} おはぎ
botta[gü]rüü 法外な料金を取る、追い払う
hottara[ga]süü 放任する
bot[tei] 女性の頭巾
hottsügima[wa]rüü 徘徊する
ho[do]rüü ほてる、熱くなる
ho[nekara] がりがり痩せている状態
ho[he]rüü ~ ho[se]rüü 干せる
- p.78 [bo]bo 着物 [幼児語]
homa^{dzi} へそくり
bori^{nek}[ko] 追いかけてこ
boribo[ri] なら茸
bo[rüü] 追う
horo[güü ~ horo[rüü] 揺り動かして払い落とす、(箕で) 揺り動かす
horo[ei] 発疹
bo^{ng}[küü]ra 愚鈍
[ho]ⁿ^{dzi} o[do]süü 常識を失う
honto[^{nek}]ko 本気で
- p.79 bon[na] よぶすま草 [山菜]
bonno[küü]^{mbo}, üe^{iro}[küü]^mbi 後ろ首
ma[ga]süü (ちょっとした拍子に) こぼす
ma[ge]rüü (意志的に) こぼす
mage[rüü] 負ける、値引きする
maga[na]rüü それでし終える、装う
maga[he]rüü ~ maga[se]rüü 任せる
ma[gi] 一族の血統
ma[gi]ri 小刀
[ma]güü[ne]: うまく行かない
magüü[ne] 不味い
magüü[ra]rüü 食べる [卑語]
[ma]^{ne} 屋根裏物置
- p.80 maⁿ[^{dza}]rüü 混ざる
mandzora[ga]süü 混ぜ合わす
ma^{dzi}[no][çi] 市日
mak[ka] 豆類の脱穀などに使用するY字形の枝

- mak[ko]] お年玉、脚立
mats[ko]i 眩しい (matske の発音はしない)
ma^dzürts[kai] 周辺の里の住民が田名部の街に買い物などにでかけること
[ma]^dzübo 松藻 [海藻]
map[pi]rūma 真昼間
ma[de] 丁寧
+ ma[^dzɛ]ro 待ってくれ + [ma]tsü 待つ
- p.81 ma[na]gü 目
[ma]ma ご飯
mamata[gi] ご飯の支度をする人
[ma]mata[gü] ご飯の支度をする
+ ka[ɛi]gi, + mamaŋo[se] ご飯の支度
+ [ma]ma[hɛ]ra しゃもじ
+ ɕa[mo]^dzi おたま
mamatea[wa]_N ~ mama^dza[wa]_N 飯茶碗
ma[mi] アナグマ
mame[ɛi] 勤勉
mameeko[te]_N ~ mameeko[de]_N 足払い [子供の遊び]
+ mamema[gi] 豆まき [行事]
maja[me]gü うろうろする
marü[ŋü] 束ねる
marü[go] ムラサキイガイ [貝]
mandze[ra]gümandze[ra]gü 地震時に言うまじない
- p.82 mizükü[re] 溺れること (「～で死んだ」のように使う)
miⁿzūma[ɛi] 洪水
misokoei[za]rū 味噌漉し
+ misoka[ja]gi 味噌貝焼き (下北の名物料理)
mi[sop]pa 歯並びの悪いこと、虫歯だらけの歯
miso[de]gü 技術未熟の大工
mitagü[na]ɛi 可愛気無し
mitagü[ne] 醜い
mip[pa] 見栄え
mimida[re] 中耳炎
mügattsü[ra] 憎い奴の面 [卑語]
mügüre[rü] 機嫌を悪くする
müge[do] 出迎い人

- p.83 müeke[rü] 孵化する
 müüt[ta]ri いつもいつも
 müünts[ke]rü 機嫌を悪くする (主に子供が)
 mü[ri]kü[ri] むりやり
 [mü]rü ~ [mo]rü 漏る
 [me]: 美味しい、前
 [me] o[do]sü 死亡する
 megaeiko[gi] めかし込む人
 meka[bü] 若芽の根
 meṅü[sa]re 眼病 (目から目やにがたくさん出る)
 me[gü]^dzira ta[de]rü 目くじらを立てる
- p.84 megüre[rü] めくれる
 mek[ke]rü 見つける
 meṅ[ko]i 可愛い
 meda[ma] 繭玉 [行事]
 meⁿ[da]re 前掛け
 megü[ra] 盲
 nekkō[me]ei 焼き損ないのご飯
 me[na]güüsürü 紛失する
 me[me]⁽ⁿ⁾dzü ミミズ
 [me]rü 見える
 [me]ṅko 可愛い子
 meṅko[ga]rü 可愛いがる
- p.85 [mo]ṅü 挽ぐ、折る mo[ṅe]rü 挽げる、折れる
 müügürejojaⁿ[^dzi] へそ曲がりおやじ
 moteo[ko]i, moteo[ka]ri くすぐったい
 mokki[ri] 盛り切り酒
 monoṅü[sa] 怠け者
 monoṅü[se] 物臭な
 mono[kwa]ei 話の腰を折ること (話者によっては mono[ka]ei)
 mo[mo]ta 太腿
- p.86 mo[jo]rü 着物を着る
 mondzoka[da]ri 訳のわからないことをいう人
 [ja]:[ja]do 急いで、すぐ
 jagama[ei] うるさい
 jagi[ba] 火葬場

- p.87 ja^dzi[湿地帯
+ nüta[ba]] 湿地帯
[ja]^dza[ne] どうしようもない
ja^dzūada[ri] 八つ当たり
jakka[mi] ねたみ、嫉妬
[ja]ts(ü)kəts(ü) やれそれ (~言われて) (急かせる場合に言う)
jak[ko]i ~ jak[ke] 柔らかい
[jat]to 速く、急いで
- p.88 jana[sat]te 明明後日
+ eia[sat]te 明明明後日 (goasatte と続かない)
ja^(m)ba[tɕi] 汚い
ja^mbūka[ra] 藪中 (話者によっては ja^mpūka[ra])
ja[ma]go 杣夫
ja[ma]se 北東の風
+ [ko]tɕi 東風
ja[me] てぐす糸
jame[do] 病人
ja[me]rū ~ [ja]mū 痛む
- p.89 + jū[i] , jūi[ko] ~ jūe[ko] 力を貸し合う労務
jūgika[gi] 除雪すること、除雪用のショベル
jūgina[ŋe] (側溝などに除雪した) 雪を捨てること
jūgija^m[bū] 雪だまり
jūgūde[ne] ろくでない
[jū]:godoki[gi] 言うことを聞くいい子
jūgū[ne] 悪い
jūsū[ŋū] 濯ぐ
jūsūrbū[rū] ゆすぶる
joⁿda[re] 涎
jū[da]rū 煮立つ
jūtsūŋa[sū] 揺り動かす
jūtsū[ke]rū 結いつける
jūtsū[na]ŋū 結いつなぐ
- p.90 jūts[pa]rū 結ぶ
jū[no]go 澱粉を熱湯で練ったもの
jūpū[te] ~ jūbū[te] 煙たい
[jū]^mbena 昨夜

- jü[ma]güre 湯あたり
 jü[rü]gü[ne] 容易でない
 jo:jarajat[to] ようやく
 [jo]ga 蚊
 jokka[ga]rü 寄りかかる
 jo[gü][ko]gü 欲する
- p.91 jo[gü]ei[gi] よくよく
 jo[gü]taga[ri] 欲深、執念
 jo[gü]tage[rü] 欲深する
 jo[ge] 多い
 jogeε^m[be]ri 要らないことまで言う人
 + jogo[sü] 寄こす jogosaε[rü] 寄こされる
 jogoⁿ[^dza] 戸主が坐る座
 jogondzaha[ri] 戸主を保っていること
 jota[me]gü ~ jottara[me]gü ふらふらよろける
 + φün^dzara[me]gü ふらふらよろける
 jok[ko] 用事
- p.92 jode[ko] 末っ子
 jo^mba[rü] 招待してごちそうする jo^mbaε[rü] 招ばれる
 jü^m[bi] 指
- p.93 [ra]^dzaaga[ne] 埒があかない、はかどらない
 [ra]^dzü[ne] 本意が不明
 ran[ki]tage[rü] 乱気になる
 ran[tea] 粗暴、手荒
 [wa] 私
 [wa](:ho) 私の方、私の家
- p.94 [wa]i 私
 wagaⁿ[^dze] 若衆
 waga[ne] 駄目だ、解らない
 waε[da] ~ wahe[da] 忘れた waε[ne] ~ wahe[ne] 忘れない
 wata(ra)me[ga]sü 強行する
 + wappa[ri] 上着 (話者によっては ürwappa[ri])
 wa[ja]da 大ごと
 wa[ra] 私 [女ことば]
 wara[sa]ⁿdo ~ wara[ha]ⁿdo 子供たち
 wara[ei] 子供

- wara[rü] 笑う
warawae[rü] 笑われる
p.95 warawara[do] 早く、急いで
wa[ri]: 悪い
waⁿ[dza]to わざと
waⁿ[dza]wandza わざわざ
[wa]ntska 僅か
n[na[, η]ŋa[お前
m[ma] 馬
p.96 ü[me[梅
m[me] うまい

参考文献

- 秋田県学務部学務課（編）（1929）『秋田方言』秋田県学務部学務課。
上野善道（1991）「青森市方言の形容詞のアクセント」『アジア・アフリカ文法研究』19: 45-81.
上野善道（2019）「北奥方言の動詞のアクセント資料（1）」『国立国語研究所論集』17: 101-130.
川島柳三（編）（2002）『田名部辯語彙集』私家版。
工藤 祐（2008）『青森県南部地方の方言・民族（資料集）』（全3巻）私家版。
関谷徳夫（2013）『復刻版 吉里吉里語辞典』ハーベスト社。
成田秀秋（編）（2002）『木造町方言集—青森県西津軽郡—』青森県文芸協会出版部。
山村秀雄（1980）『青森県平内方言集』平内教育委員会。

むつ市方言の格と情報構造

中川 奈津子¹

1 はじめに

本稿では、2018年8月30～31日に行われたむつ市方言の合同調査をもとに、むつ市方言の格と情報構造に関してわかったことをまとめた²。調査は、話者に日本語の文章を彼らの方言に訳してもらうことにより進められた。主語、目的語、情報構造についての調査票があり、それぞれ別々の話者から方言を聞き取ったが、補足的に複数の話者から聞き取っている場合もある。聞き取った話者が異なる場合はその旨を明記する。例文は最もスムーズに方言で発話されているものを採用した。スムーズな発話が複数ある場合はそのすべてを採用した。

1.1 先行研究

むつ市の属する下北の格と情報構造に関する先行研究は筆者の知る限り、此島（1967）で格助詞とハに相当するものについて言及があり、平山ほか（2003）も下北方言を含む青森県全体について概観した中に格標示の記述が多少ある。青森県全域にまで視野を広げると、此島（1982）などがある。いずれの研究も、下北方言を含む青森県の方言では、主格、対格、主題標識を基本的に欠いており、主格あるいは主題標識として「名詞が半拍分延びた『ァ』」（平山ほか 2003: 33）、「いわゆる体言を強調する場合には『ゴド・トバ・バ』が現れる」（op.cit.: 34）と報告されている。いずれの文献にも例文までは載っておらず、それぞれの標識の具体的な使い方も詳しくは不明である。本論文ではむつ市方言のそれぞれの格標識の使い方について詳しく見ていく。

1.2 アウトライン

本稿は以下のように議論をすすめる。まず2節で主格標識について、次に3節で対格標識について、最後に4節で情報構造に関する標識について報告する。5節で簡単に議論をまとめ、残された課題について述べる。

2 主格標識

ここでは、他動詞文における2つの項のうち動作主性の高い方（A）、自動詞文・形容詞文・名詞述語文における唯一項（S）のことをまとめて主格と呼び、主格を表す標識を主格標識と呼ぶ。現代日本語共通語では、ガが典型的な主格標識である。

¹ なかがわ なつこ：国立国語研究所・特任助教（nakagawanatuko@gmail.com）

² 長時間の調査に協力してくださった話者の方々に感謝する。格と情報構造と一緒に調査したのは、狩俣繁久氏、ウェイン・ローレンス氏、ケナン・セリック氏、山上紗季氏であり、この成果は彼らの調査方法の工夫に依るところもある。ここに記して感謝したい。

2.1 無標識、[a]、[ŋa] の分布

1.1 節で述べたとおり、先行研究では下北方言（あるいはこれを含んだ青森の方言）は主格標識を基本的に欠いており、たまに「ア」が現れると報告されている。しかし今回の調査では共通語のガに当たる [ŋa] が、特に主語を調査した話者においては、相当の割合で現れた。表 1 に示したように、33 項目中 19 項目で [ŋa] が現れることができ、無標識 ([ϕ] で示した³) で発話されたのは 14 項目、先行研究で「ア」と報告されているもの（本稿では [a] と表記）は 3 例しか現れなかった⁴。

表 1 主格標識の現れ方

| ϕ | ϕ/a | $\phi/\eta a$ | $a/\eta a$ | ηa | 合計 |
|--------|----------|---------------|------------|----------|----|
| 11 | 2 | 1 | 1 | 17 | 32 |

東京方言では、ガは非動作主というよりは動作主的な名詞を標示することが報告されているが（影山 1993; Nakagawa 2013; 2016; 下地 2019）、むつ市方言では [ŋa] のほうが動作主的な名詞を標示しやすいという傾向は見つからなかった。表 2 に示すとおり、自動詞主格名詞のうち、動作主、非動作主的な名詞標識を調べることを目的とした例文において [ŋa, a, ϕ] の分布を見ると、[ϕ] も [ŋa] も動作主、非動作主的な名詞の両方を表示でき、どちらかが非文法的になることはないようだ⁵。

表 2 主格標識と動作主性

| | 動作主的 | 非動作主的 | 合計 |
|---------------|------|-------|----|
| ϕ | 3 | 3 | 6 |
| ϕ/a | 1 | 0 | 1 |
| $\phi/\eta a$ | 0 | 0 | 0 |
| $a/\eta a$ | 0 | 0 | 0 |
| ηa | 1 | 2 | 3 |
| 合計 | 5 | 5 | 10 |

例 (1) では、動詞「泳いでいる」が意志的であるため主格名詞「太郎」は動作主になり、(2) では「溺れて死んだ」が非意思的であるため主格名詞は非動作主になる。両方の例文で主格 [taro:] “太郎”は無標識で現れている。[] で囲まれた数字は主語調査票の例文番号を表している。

³ ここでは説明の便宜のために無標識（名詞の標識を欠いていること）を [ϕ] を用いて示すが、ゼロ助詞の存在を前提としているものではない。

⁴ 1 人の話者から複数の例文が得られた、あるいは複数の話者から例文を得られ、かつ例文間で名詞標識の使い方が違った場合のみ x/y のようにスラッシュを用いて表示している。すべての項目において複数の例文が得られたわけではないため、単一の標識が使われている例文の中にも他の標識が用いられるものもあると考えられる。

⁵ [a] に関しては 1 例しかないので言及しない。

- (1) **taro:= ϕ** **ige=de** **ojoiⁿd ϵ ru** **do** [17]
太郎 池=で 泳いでる よ

(動作主的 S)

- (2) **taro:= ϕ** **ige=de** **oborede** **sinda** **do** [18]
太郎 池=で 溺れて 死んだ よ

(非動作主的 S)

以下の例 (3)、(4) は同じ例文「(あそこに) 先生が立っていた」を別の話者に訳してもらったものである。(3) の主格 [sense] “先生” は [ŋa]、(4) は無標識で標示されている。

- (3) **are: sense=ŋa** **tatte** **ita** **jo** [2]
間投 先生=が 立って いた よ

(S)

- (4) **aŋiko=sa** **sense= ϕ** **tat:ea** **dza** [2]
あそこ=に 先生 立っている よ

(S)

また、(5) のように、他動詞の動作主性の高い項 (A) も無標識で現れることができる。

- (5) **are: sense= ϕ** **tsigue** **hagonde** **ida** [1]
間投 先生 机 運んで いた

(A)

以上の事実と先行研究の報告を考え合わせると、先行研究の調査年代において、むつ市方言は共通語のガに相当する主格標識 [ŋa] を持たなかったと考えられるが、近年は共通語の影響で [ŋa] を主格標識として用いても良いが無標識でも良い、ということが言える。東京方言を基礎とした共通語とは異なり、動作主性や、後に述べる焦点性は [ŋa] の現れる条件ではないように思われる。この方言本来の主格標識は [a] であり、[ŋa] あるいは主題標識の [wa] あるいはこの両方が変化したものと思われる。[a] の数が少ないので、今回の調査から [a] の出現条件を特定するのは困難である。今後の課題とする。

特に主格の例文を主に聞き取った話者が [ŋa] を多く発話していた。話者が女性であること⁶、合同調査における初めてのセッションであることなど、様々な要因によって [ŋa] の使用が増えた可能性がある。

2.2 [a] は主格標識なのか

上述したとおり、主に主格を標示する [a] は、[ŋa]、[wa]、あるいはこの両方から変化して [a] になったと考えられる。いわゆるハガ構文 (例：太郎は小さい音が聞こえる [目的語調査票 5]、息子はお金がない [同 12]) では、共通語のハに相当する名詞に [a] が標示されるこ

⁶ 例えば熊谷 (2018) において特に女性が方言を使いにくい社会的文脈が論じられている。

とがあるが (6)、ガに相当する名詞にも [a] が後続できる (7)。

- (6) we=no i=no **taro=a** teisaj **odo** nan=de=mo kikoerun da-t:re jo
 うち=の 家=の 太郎=が 小さい 音 何=で=も 聞こえるん だ-って よ
 ([目的語調査票 5])

- (7) ogaci **oto=a** kikeru na: [同 5]
 おかしい 音=が 聞こえる なあ

また、(8) のように、すべて無標識でも現れることができる⁷。

- (8) udzi=no **baba** **eiŋo** degiruw zi dza [同 7]
 うち=の おばあさん 英語 できる らしい よ

さらに、(9) のように、対格名詞にも [a] が後続できる。

- (9) kono **kafi=a** wa katte kija [同 61]
 この 菓子=は 私 買って 来た
 ‘(この菓子はお前が買ってきたのか?) この菓子は私が買ってきた。’

ただしこの用法はかなり限られているようで、通常、いわゆる主題化の操作を行って対格名詞を文頭に移動するときは [ba] が用いられるようで (3 節参照)、同様の例文に対して対格に [ba] を後続させていることもある。対格を標示する [a] の例はこの 1 例しかないので一般化が困難であるが、もしかしたら対比的な対格名詞に [a] が後続するのかもしれない。これに関してはさらなる調査が必要である。

助詞 [a] は共通語のハにもガにも相当する特性を持っており、主題化された (あるいは対比的な) 対格名詞も [a] で標示されることがまれにある。[a] は主格標識であるとは言いきれないが、今回の調査ではほとんど主格を標示していた。

3 対格標識

本節では、他動詞文における 2 つの項のうち動作主性の低い方 (P) を対格名詞と呼び、対格名詞の標識を議論する。表 3 において例文中に現れた対格標識の分布をまとめた。

表 3 対格標識の現れ方

| ϕ | ϕ/o | $\phi/o/ba$ | o | ba | ba/a | 合計 |
|--------|----------|-------------|---|----|------|----|
| 15 | 5 | 1 | 4 | 32 | 1 | 58 |

上述のように先行研究では、対格名詞に後続して「いわゆる体言を強調する場合には『ゴド・

⁷ ただし (8) のハに相当する経験者名詞は [a] で終わっており、この方言にはおそらく母音の長短の区別がないため、実は助詞 [a] が後続しているが表層ではわからない可能性もある。

トバ・バ』が現れる」(平山ほか 2003: 34)と報告されている。これに加えて、対格名詞の後に [o] が後続しうる例が9例あった。これも [ŋa] と同様、最近になってからの共通語からの流用であろう。

3.1 [ba] と無標識の分布

[ba] と無標識はどちらでも容認可能であることが多いと考えられるが、今回得られたデータからは、有生性によって使い分けられていることが推測される。表4では、表3のデータが有生性によって分けて示されている。この表から見て取れるように、大まかには、無生の対格名詞には無標識、有生の対格名詞には [ba] が後続することが多い。

表4 対格標識と有生性

| | ϕ | ϕ/o | ϕ/o/ba | o | ba | ba/a | 合計 |
|----|-----------|-----|--------|---|-----------|------|----|
| 有生 | 1 | 3 | 0 | 3 | 22 | 0 | 31 |
| 無生 | 14 | 2 | 1 | 1 | 10 | 1 | 27 |
| | 15 | 5 | 1 | 4 | 32 | 1 | 58 |

これをよく表しているのは、(10) と (11) の対比である。(10) の [inu] "犬" は有生で [ba] が後続しており、(11) の [sodo] "外" は無生で無標識になっている。

(10) na **inu=ba** midea-ttatte sigi danda ga [34]
お前 犬=ba 見ている-が 好き なのだ か

(11) na nagama=do ide **sodo=ϕ** midea ndaga [35]
お前 仲間=と いて 外 見ている のか

相対的な有生性の階層によって [ba] が後続するかどうかが決まることがあり得るが、今回の調査からはそのような結果は導くことができない。例えば (12) と (13) の節を構成する項は「私」と「お前」で、主格と対格が入れ替わっている。「私」のほうが「お前」よりも有生性の階層が高いがどちらが対格になっても [ba] が後続しているため、有生性の相対的な高さとは関連しないようだ。

(12) wa: **na=ba** midea [27]
私 お前=ba 見ている

(13) ome **wai=ba** midea-ttatte doŋita do [46]
お前 私=ba 見ている-が どうした か

無生名詞でも、いわゆる主題化の操作をされて文頭の位置に来ると [ba] が後続することがあるようだ ((14) 参照)。同様の環境では、[a] も使われうる ((9) 参照)。ただしこれも必須ではなく、(15) のように前置された対格名詞が無標で現れることもできる。

(14) kono **kafi=ba** na tabero kore wa taberu-*f*ite [61]
 この 菓子=**ba** お前 食べる これ 私 食べる-から

(15) **are** taro mina ku^ute *ç*imat'a no ga [18]
 あれ 太郎 みんな 食べて しまった の か

まとめると、有生あるいは主題性の高い対格名詞に [ba] が後続しやすく、それ以外は無標識になりやすいと考えられる。これは Comrie (1979)の指摘どおりに説明ができる。有生性や主題性の高い対格名詞は主格と混同されやすく、従って対格であることを明示的に標示したほうがわかりやすい。この方言でもまさにこれに従って [ba] と無標識が使い分けられていると考えられる。

3. 2 [o]

[o] に関しても少しだけ触れておきたい。本節の冒頭で述べたとおり、[o] は最近になってからの共通語の流用であると考えられる。その証拠が (16) のような例からもわかる。この例では [warasi] のようなより方言らしい語に [ba]、[kodomo] のようにより共通語らしい語に [o] が後続している。話者の方の判断によれば、[warasi=o] とは言えないらしい。

(16) wa tonari=no {**warasi=ba** / **kodomo=o**} midea [29]
 私 隣=の {子供=**ba** / 子供=**o**} 見ている

他の [o] が使われている例文はこれほど明確ではないが、使っている単語や言い回し（構文）にどことなく共通語らしさがあるのかもしれない。例文翻訳によるデータ収集の困難さを物語っているように感じたのでここで指摘した。

4 情報構造

本節では情報構造について議論する。ここでは、以前に言及されている対象を指示する名詞を主題、疑問詞やその答えを焦点と簡単に考えておく。4.1 節で主題標識について、4.2 節で焦点標識について述べる。

4. 1 主題標識

2.2 節で議論したとおり、この方言には、共通語のハとガのような区別はないと考えられ、主題、主格のどちらの名詞にも [a] あるいは無標識が後続する。2.1 節で指摘したとおり、[a] は主格標識 [ŋa] と主題標識 [wa] のどちらかあるいは両方が音変化したものと考えられる。[a] は主に主格を標示するが、例 (9) のように、主題化された対格も表示できるので、[a] を主格標識であると言い切ることはできない。また、(17) のように [a] は全く新規の指示対象を指す名詞にも後続できるので、主題標識であるとも言えない。

(17) ogaci **oto=a** kikeru na: [目 5]
 おかしい 音=**a** 聞こえる なあ

[a] は主格標識と主題標識の両方の特徴を兼ね備えた標識であると言える。

4.2 焦点標識

この方言には、他の日本語本土諸方言と同様、焦点標識もない。ガが焦点標識のような振り舞いをすることがあるが (Nakagawa 2016; to appear: 4.3.1.4)、2節で議論したとおり、この方言は本来ガに相当する標識も持たないと思われる。主格名詞が疑問詞や質問の答え、対比的であったりしても [ŋa] は必須ではない。下地 (2017) によれば、対比的焦点のときに最も有標になりやすいが、(18) のように対比焦点の場合でも [ŋa] は必須ではない。

(18) wai dɛne wai dɛne taro: aruide itta [主 25]
私 でない 私 でない 太郎 歩いて 行った

項焦点構文 (項が質問の答えになる文) や対比構文において、主格名詞が焦点化されたり対比されたりする場合、最初の回答では分裂文のほうが現れやすかった⁸。調査ではあえて目的の文にほぼ対応する文が発話されるまで何度も聞き直し、それを報告したが、本来この方言では、項焦点や対比の主格名詞は、分裂文の述語が最も自然な位置なのかもしれない。例えば「花子じゃなくて太郎が倒れていたの」[主29] に対する第1回答は、(19) のように「花子じゃなくて太郎だった」に当たる文だった。

(19) hanako dɛnakute taro: datta [主 29]
花子 でなくて 太郎 だった

一方、対格名詞を焦点化した場合は分裂文でなく普通の他動詞構文で自然に言うことができるようだ。この対比は、類型論的によく指摘される、主語は主題になりやすく、目的語は焦点になりやすい (Lee & Thompson 1976) という傾向を反映していると考えられる。

5 おわりに

本稿では、青森県むつ市方言の主格、対格、そして情報構造に関連する名詞標識を報告した。たった2日間にわたる短い調査の報告であるため、自然談話などを用いてより詳しく調べる必要がある。また、近隣の方言との比較も行っていきたい。

さらに、与格標識 [sa] の分布も青森県全域でかなり変異が見られるので興味深い。時間の都合上これに関して調査できなかったのは残念だった。稿を改めて論じることとしたい。

参考文献

Comrie, Bernard (1979) Definite and animate direct objects: A natural class. *Linguistica Silesiana* 3: 13-21.

平山輝男ほか編 (2003) 『青森県のことば』東京: 明治書院。

⁸ この傾向は、筆者が4年間調査を行っている野辺地町 (下北半島の付け根の東側、陸奥湾に面する) でも同様である。

- 此島正年 (1967) 「下北方言の文法」、九学会連合下北調査委員会『下北: 自然・文化・社会』. 東京: 平凡社.
- 此島正年 (1982) 「青森県の方言」、飯豊毅一ほか編『北海道・東北地方の方言』東京: 国書刊行会.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』東京: ひつじ書房.
- 熊谷滋子 (2018) 「『方言の価値が高まった』という言説を再考する」、静岡大学人文社会科学部『人文論集』68 (2), 93-126.
- Li, Charles N. & Thompson, Sandra A. (1976) *Subject and topic*. NY: Academic Press.
- Nakagawa, Natsuko (2013) *Discourse basis of ergativity and accusativity in spoken Japanese dialects*. MA thesis submitted to SUNY Buffalo.
- Nakagawa, Natsuko (2016) *Information structure in spoken Japanese: Particles, word order, and intonation*. PhD Thesis submitted to Kyoto University.
- Nakagawa, Natsuko (to appear) *Information structure in spoken Japanese: Particles, word order, and intonation*. Berlin: Language Science Press.
- 下地理則 (2017) 「日琉諸語における焦点化と格標示」NINJALコーパスシンポジウム発表資料 (2017/3/9、於国立国語研究所) .
- 下地理則 (2019) 「現代日本共通語 (口語) における主語の格標示と分裂自動詞性」、竹内史郎・下地理則編『日本語の格標示と分裂自動詞性』東京: くろしお出版.

青森県むつ市田名部方言の可能表現

三宅 俊浩¹

1 はじめに

本稿は、国立国語研究所「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」プロジェクトおよび人間文化研究機構広領域連携型プロジェクト「方言の記録と継承による地域文化の再構築」として、青森県むつ市田名部において2018年8月30日・31日の2日間で行われた方言調査の中から、可能表現に関する項目（調査例文は後掲）について報告するものである。ただし調査の過程で、調査票にない文についてもいくつか尋ねた。本稿ではそうした例文に対する話者の回答を含め、報告を行う。

なお、以下では当該地域の方言を「むつ市田名部方言」と称する。話者の回答を挙げる際は可能表現をカタカナ表記し、それ以外はひらがなで表記する。

2 可能表現の調査例文

2.1 調査票の調査例文

可能表現に関連する調査例文を挙げる。まずは、調査票にある例文である。

- (1) 怖いからひとりで行けない。
- (2) 体が弱いので遠くまで行けない。
- (3) 足が痛いので今日は行けない。
- (4) 雨が降っているので行けない。

- (5) 友達がいて心強いので、肝試しにも行ける。
- (6) よく知った場所なので一人で行ける。
- (7) 今日は体調がいいので行ける。
- (8) 今日は天気がいいので行ける。

- (9) 昔は早く走ることができた。（でも今は早く走れない。）
- (10) 昔は早く走ることができなかった。（でも今は早く走れる。）

- (11) このペンはまだ書ける。
- (12) このペンはよく書ける。

¹ みやけ としひろ：名古屋大学大学院生（miyake_toshihiro0510@yahoo.co.jp）

- (13) 怖いので行くことができなかった。
(14) 歩くのが遅いので遠くまで行くことができなかった。
(15) 体調が悪かったので行くことができなかった。
(16) 天気が悪かったので行くことができなかった。

(17) 歌ったら怖くなくなって、ひとりで行くことができた。
(18) 歩くのが早いので遠くまで行くことができた。
(19) 体調がよかったので行くことができた。
(20) 天気がよかったので行くことができた。

次にこれらの分類枠について記しておく。分類枠は次のような組み合わせで得られる。

- ①潜在可能か実現可能か
- ②肯定か否定か
- ③可能の意味は心情可能／能力可能／内的状態条件可能／外的条件可能のいずれか

②については可能か不可能かと言い換えられる。①と③は渋谷（1993）の分類基準によったものであるため、これら2つの観点については渋谷（1993）を援用して説明する。

①の分類枠は、可能の意味を「ある動作が実現することを含意するか否か」によって分けたものである。「実現可能」は動作の実現（非実現）を含意するもの、「潜在可能」は動作の実現（非実現）を含意しないものである。

実現可能の例としては、「三日かかってようやくレポートが書けた」（つまり実現）や「三日かけても結局レポートは書けなかった」（「非実現」という形で既実現である）などがある。これらはいずれもレポートを書くための何らかの動作が発動（試行）されているため、実現可能に分類されることになる。したがって、調査例文では（13）～（20）が実現可能に該当する。なお、（9）と（10）はタ形で現れてはいるものの実現可能には分類されず、潜在可能に分類される。それについては次に潜在可能の説明をする中で述べる。

潜在可能の例としては、「僕にはたとえ三日かけてもレポートなんか書けない」や「最近忙しいから、悠長にレポートなんか書いてもらえない」「太郎はその時レポートが書けたはずだ（実際に書いたかどうかは知らないが）」などがある。これらはいずれも、「書く」という動作を実行に移す（移した）かどうかについては言及せず、動作主体の潜在的な実現可能性を述べているだけのもの」（渋谷 1993:14）である。そのため、調査例文（9）・（10）はタ形で現れてはいるものの過去の潜在的状態を言うものであるから、潜在可能に分類されることになる。したがって、調査例文では（1）～（12）が潜在可能に分類される。

次に③の「可能の意味」の分類枠について述べる。この観点は、可能の意味を「ある動作を行うことがなぜ（不）可能である（あった）のかという、その（不）可能であることの制約条件」によって分けたものである。渋谷（1993）は心情可能／能力可能／内的条件可能／外的条件可能に分けている。それぞれの内実についての渋谷（1993）の説明を以下に引用する。

- (i) 心情可能…動作実現のための条件が、主体の心情・性格・勇気などにある場合
- (ii) 能力可能…動作実現のための条件が、主体のもつ(体力・技術的な)能力にある場合
- (iii) 内的条件可能…動作実現のための条件が、主体内部の「一時的な」気分的・肉体的条件にある場合
- (iv) 外的条件可能…動作主体の能力いかんにかかわらず(一般には前提とされる。(略))、動作実現のための条件が、主体を取り巻く外的世界にある場合

なお、これらの分類は潜在可能／実現可能のいずれにも適用されるものである。したがって、本調査票では、(1)・(5)・(13)・(17)が心情可能に、(2)・(6)・(9)・(10)・(14)・(18)が能力可能に、(3)・(7)・(15)・(19)が内的条件可能に、(4)・(8)・(11)・(12)・(16)・(20)が外的条件可能に該当する。

以上の①②③の観点を組み合わせて表の形に整理したものが、以下の表1である。

表1 可能表現の分類と調査番号の対応

| 条件の所在 | 潜在可能 | | 実現可能 | |
|-------|------|------|------|----|
| | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 |
| 心情 | 5 | 1 | 17 | 13 |
| 能力 | 6・9 | 2・10 | 18 | 14 |
| 内的条件 | 7 | 3 | 19 | 15 |
| 外的条件 | 8 | 4 | 20 | 16 |

調査例文(11)・(12)は国立国語研究所『方言文法全国地図』(GAJ)で「属性可能」として立てられている項目に該当する。渋谷(1993)を元とした表1では位置づけが難しいため表1には入れていないが、渋谷(1993)には「外的条件可能」の説明の中で「外的条件には(略)動作を行うための手段など、多くのものがある」という記述があるため、「書く」ための「手段」としての「ペン」の状態と考え、外的条件可能・潜在可能・肯定の枠に入れて考えることができるかもしれない。なお調査例文(11)・(12)は、(11)が一時的な性質であるのに対し(12)は恒常的な性質である点に違いがある。

2. 1. 1 先行研究の記述について

以上で可能の意味による分類を設けたのは、青森県方言では可能の意味によって形式を使い分けるといふ報告が既にあるからである。青森県方言の概観を行った此島正年(1982)では、青森県方言は「能力可能」と「条件可能」を形式で区別することが述べられる。

受身はエル・ラエルを付けて、打タエル・投ゲラエル・来ラエル・サエルのように表わす。この形はそのまま可能にも用いられるが、(中略)たとえば、読メル・起キレルと読マエル・起キラエルとでは、前者が「能力可能」で、たとえば教養があるからむずかしい本も読メルのように、後者が「条件可能」で、周囲が静かになったから落ち着いて本が読マエルのように、区別するばあいが少ない。

つまり五段動詞では可能動詞とレルとで、一段・カ変動詞ではいわゆるラ抜き言葉とラレル

とで区別するようである。なお、本稿では一段・カ変動詞のもの（起キレルや来レル）も含めて「可能動詞」と呼び、専ら形態を問題とする場合は「可能動詞形」と呼ぶ。

此島（1982）の言う「能力可能」「条件可能」が、今回の調査における「心情可能」「能力可能」「内的条件可能」「外的条件可能」のどこまでを含むかが注意される。

2. 2 調査票外の調査例文

2.1 節で挙げた調査例文は「行く」「走る」「書く」を用いた例文であり、いずれも五段動詞である。つまり、一段動詞・カ変動詞の可能形はわからない。そこで、一段動詞やカ変動詞を用いた例文も調査の過程でいくつか尋ねた。尋ねることのできた例文は以下のようである。

(21) (派手な服を見ながら) 恥ずかしくて着ることができない

(22) 孫はまだ小さいので一人で服を着ることができない

(23) この服はもう小さくなったので着ることができない

(24) 孫は大きくなって一人で服を着ることができるようになった

(25) この服は昔のものだけどまだ着ることができる

(26) 目覚まし時計があるからちゃんと起きることができる

(27) 嵐がひどくて一歩も外に出られなかった

(28) 天気がよかったのでやっとここに来ることができた

(21)～(23) は一段動詞「着る」を用いた否定の潜在可能で、順に心情可能・能力可能・外的条件可能である。内的条件可能は尋ねることはできなかった。

(24) と (25) は一段動詞「着る」を用いた肯定の潜在可能で、順に能力可能・外的条件可能である。心情可能・内的条件可能は尋ねることはできなかった²。なお共通語では、一段動詞は動詞の音節数によって可能動詞形の許容度が異なることが知られている。具体的には、音節数が少ないほど許容しやすく、逆に長いほど許容しにくい（「着れる」は許容しやすく「信じれる」は許容しにくい、など）。そこで例文 (26) では3音節動詞「起きる」も尋ねることにした。なお (26) は、潜在可能で、可能の条件は外的条件である。

(27) と (28) はそれぞれ否定の実現可能、肯定の実現可能である。可能の条件はともに外的条件可能である。心情可能・能力可能・内的条件可能も尋ねるべきであるが、今回の調査では尋ねられなかった。

以上、一段動詞・カ変動詞を用いた例文番号を先の表1に倣って位置づけると、以下の表2のようになる。空欄は未調査箇所であり、今後の課題としたい。

² 「着る」の心情可能（肯定形）は想定しにくい。

表2 一段動詞・力変動詞を用いた可能表現の分類と調査番号の対応

| 条件の所在 | 潜在可能 | | 実現可能 | |
|-------|-------|----|------|----|
| | 肯定 | 否定 | 肯定 | 否定 |
| 心情 | | 21 | | |
| 能力 | 24 | 22 | | |
| 内的条件 | | | | |
| 外的条件 | 25・26 | 23 | 28 | 27 |

2.3 調査票内で「自発」に分類されるものについて

調査票内では（「可能」ではなく）「自発」として分類されている例文がいくつかある。これらは標準語では可能形式で表現されるものであるが、東北方言では自発形式（青森県方言ではサル・ラサル）を用いて表現される可能性がある。これらの例文についての回答も、本稿では記述することにした。

調査票内で「自発」に分類され、かつ標準語では可能形式で表現される例文は以下の通りである。

- (29) 酒が飲みたいのにコップがなくて飲めない
- (30) 酒を飲みたいがコップを探すのが億劫で飲めない
- (31) 嫁がコップをもってきてくれて、やっと酒が飲めた
- (32) 昨日は気分よく酒が飲めた
- (33) 私は強い酒でも飲める
- (34) 私は上手に字を書ける

なお(34)は「自発」ではなく「逆使役」として立てられている調査例文である。

青森県方言の自発表現についても此島(1982)に指摘があり、「自発には、可能形の兼用よりも、読マサル・起キラサル・見ラサル・来(コ)ラサル・ササルのようにサル(四段活用)を付ける形式が普通である」と述べられる。しかしこれ以上の詳細な分析はなく、可能表現を記述する本稿の観点から言えば、サル・ラサルと可能表現の範囲の共通点・相違点について観察したい。したがって、上の例文にサルが出現するか否かに注目する。

以上の計34の例文に対する話者の回答(および話者による調査者への解説の中で発せられた発話)を元に、むつ市方言の可能表現について記述する。以降の記述は、潜在可能(3節)、実現可能(4節)の順に進める。

3 潜在可能について

3.1 五段動詞の場合

本節では、調査番号(1)~(12)について記述する。まずは否定の潜在可能(1)~(4)から見ていく。心情可能・能力可能・内的条件可能の(1)・(2)・(3)は、次のように回答された。

- (1) 怖いからひとりで行けない → おっかねふて ひとりで イゲネ
- (2) 体が弱いので遠くまで行けない → わら からだ わるふて とーく さ イゲネ
- (3) 足が痛いので今日は行けない → あし いたくした して きょー イゲネ

すなわちいずれも可能動詞「行ける」を用いており、可能動詞以外の回答は得られなかった。
次に外的条件可能の(4)は、次のように回答された。

- (4) 雨が降っているので行けない → あめ ふっちゃーして イガイネ

これは助動詞レルの接続した /igarene/ の転訛形であると考えられる。なお話者は「雨が降っている」などの状況では「イゲネ」とは言わないと回答した。つまりレルは外的条件可能に用いる可能形式で、可能動詞はそれ以外(心情・能力・内的条件)の可能に用いる可能形式であると認識しているようである。此島(1982)のいう「能力可能」は、本調査の心情可能・能力可能・内的条件可能を覆う概念である可能性がある。また此島(1982)の「条件可能」には、本調査の「外的条件可能」が該当すると考えられる。

次に肯定の潜在可能(5)~(8)を見ていくが、肯定形では否定形の場合と異なりが認められる。心情可能・能力可能・内的条件可能・外的条件可能のいずれにおいても、可能動詞「行ける」が回答された。回答を以下に挙げておく。

- (5) 友達がいて心強いので、肝試しにも行ける
→ ともだち いるして ここづよいして きもだめしにも イゲル
- (6) よく知った場所なので一人で行ける
→ よく おんべだ とご だして ひとりで イゲル
- (7) 今日は体調がいいので行ける → きょー あんべ いーして イゲル
- (8) 今日は天気がいいので行ける → きょー てんき いーして イゲル

ここでは、(8)の外的条件可能でも可能動詞が用いられ、また話者からは /igairu/ あるいは /igaeru/ は言わない、と回答された。つまり否定形では外的条件可能とそれ以外を区別するが、肯定形では区別していないようである。

次に、過去の潜在的能力を述べる(9)と(10)について述べる。この2つの例文では、いずれも可能動詞形「走れる」が回答された。

- (9) 昔は早く走ることができた。(でも今は早く走れない。)
→ まえは はやく ハシレダ
- (10) 昔は早く走ることができなかった。(でも今は早く走れる。)
→ ハシレネガッタ けど いまは ハシレル

ともに能力可能の領域であるため、可能動詞が用いられていると考えられる。

(11) と (12) では、以下のように回答された。

(11) このペンはまだ書ける → まだ ツガエル / まだ カゲル

(12) このペンはよく書ける → カギヤスイ

(11) は、「使える」または「書ける」と言う、と回答された。動詞の違いはあるが、いずれも可能動詞であり、「書かレル」は回答されなかった。既に述べたように、肯定形では外的条件可能にも可能動詞が使用できるようであった(→(8))。そのため、動作主の能力とは言い難い(11)でも、肯定形であるために使用できたものと考えられる³。(12)では難易形容詞「ヤスイ」が後接したものしか回答されなかった。

3.2 一段動詞の場合

次に、一段動詞の潜在可能の回答について取り上げる。まずは否定形の(21)~(23)を見る。

(21) (派手な服を見ながら) 恥ずかしくて着ることができない
→ はですぎて キライネ

(22) 孫はまだ小さいので一人で服を着ることができない
→ まだ ひとりで キレネ

(23) この服はもう小さくなったので着ることができない
→ ちゃっこふて キライネ

心情可能である(21)では可能動詞形「キレネ」が回答されると予想されたが、話者はラレルの転訛形「キライネ」を回答した。これは、あるいは「服の派手さ」という外的な要因を重視した可能性があり、「心情による」という条件を引き出せなかった可能性がある。判断を保留しておきたい。

能力可能である(22)にキレネが回答され、外的条件可能である(23)にキライネが回答されたのは予測に沿った形であり、むつ市田名部方言では概ね能力可能と外的条件可能とで形式を使い分ける表現方法が採られていると考えられる。

次に、肯定形である(24)~(26)を取り上げる。

(24) 孫は大きくなって一人で服を着ることができるようになった
→ ひとりで ふく キレル よーになった

(25) この服は昔のものだけどまだ着ることができる
→ まんだ キルニイー / まんだ キレル

³ 否定形(例:このペンはもう書けない)の場合は確認できていない。

(26) 目覚まし時計があるからちゃんと起きることができる

→ オギレル

能力可能である(24)にキレルが回答されたのは予測に沿っている。外的条件可能の肯定形である(25)では、スルニイーが回答された。その他の回答として、この場合もキレルが使えると回答され、また話者の内省によれば(25)では /kiraeru/ (ラレル形) とは言わない、とのことであった。

(26) は外的条件可能で、「着る」よりも1音節多い「起きる」で尋ねたものであったが、ここでも可能動詞形が回答された。話者の内省によると、この場合も /ogiraeru/ (ラレル形) とは言わない、とのことであった。やはり肯定形では(ラ)レル形が衰退し、可能動詞形に統一される方向に変化が進行していると考えられる。

4 実現可能について

4.1 五段動詞の場合

本節では、まず調査番号(13)～(20)について記述する。まずは否定の実現可能(13)～(16)から見ていこう。否定の実現可能では、全て可能動詞形「行ける」が回答された。

(13) 怖いので行くことができなかった。

→ おっかねふて イゲネガッタ

(14) 歩くのが遅いので遠くまで行くことができなかった。

→ あるぐの おそいして とーくまで イゲネガッタ

(15) 体調が悪かったので行くことができなかった

→ あんべ わるして イゲネガッタ

(16) 天気が悪かったので行くことができなかった

→ イゲネガッタ

外的条件可能である(16)ではレル形が回答されることが予測されたが、レル形は出なかった。潜在可能と実現可能との相違である可能性があり、追調査が望まれる。

次に、肯定の実現可能である(17)～(20)を見る。ここでは、心情可能・能力可能の(17)と(18)では可能動詞「行ける」が回答されたが、内的条件可能の(19)と外的条件可能の(20)では可能形式が回答されず、無標の動詞過去形が回答された。話者の内省によると、(19)・(20)の場合では「行けた」のように言わないとのことだった。

(17) 歌ったら怖くなくなって、ひとりで行くことができた

→ うたながら あるいたっきゃ ひとりで イゲダ

(18) 歩くのが早いので遠くまで行くことができた
→ あるくの はやいして と一くまで イゲダ

(19) 体調がよかったので行くことができた
→ あんべ いふたっして イッタ/イッテキタ

(20) 天気がよかったので行くことができた
→ てんき いふて イッタ/イッテキタ

可能表現が肯定と否定とで非対称性を見せることは渋谷（1993）が指摘している（例えば、否定可能の方が肯定可能よりも使用率が高いこと）。その理由の一つとして渋谷（1993）は、無標の意志動詞との意味上の距離の大小という観点から説明する。意志動詞の、①無標の肯定形・②無標の否定形・③可能形式の肯定形はいずれも動作主体の期待する動作と実現する動作とが一致するため、無標の動詞述語文と可能文との間の意味上の距離が小さい。

- ① あした東京へ行く （期待する動詞・実現する動作＝行くこと）
- ② あしたは東京へ行かない （期待する動詞・実現する動作＝行かないこと）
- ③ あしたは東京へ行ける （期待する動詞・実現する動作＝行くこと）

一方で、④可能形式の否定形は動作主体の期待する動作と実現する動作とが一致しない。そのため、無標の否定形と可能形式の否定形とでは意味上の距離が大きいと指摘する。

- ④ 行きたいけど、用事があって東京へは行けない
（期待する動作＝行くこと）（実現しない動作＝行かないこと）

つまり「行く」と「行ける」との違いよりも、「行かない」と「行けない」との違いの方が大きい、ということである。

ただし今回の調査では、潜在可能・肯定形の調査例文（(5)～(8) や (11)・(12)）では無標形は回答されなかった。そのため、実現可能（特に過去形）の場合に、中でも内的条件可能・外的条件可能の場合に、無標の肯定形（行った）との距離が小さい（と話者は認識している）と考えられる。その理由についての具体的説明にはまだ至っていない。また (19)・(20) のような例文で無標形が回答されることがむつ市方言だけの特徴であるのかも不明である。現時点では現象の報告に留め、理由解明については今後の課題としたい。

4. 2 一段動詞・カ変の場合

次に一段動詞・カ変動詞の場合を見る。調査例文はわずか2文であり不十分の感は否めないが、この2文に対する話者の回答から推定されることを述べる。

(27) 嵐がひどくて一歩も外に出られなかった
→ いっぽも そと え デラエネガッタ

- (28) 天気がよかったのでやっところこに来ることができた
→ やっど コレダ (のー)

(27)ではラレル形が回答され、(28)では可能動詞形が回答され、異なっている。(27)と(28)は、一段動詞かカ変動詞か、肯定か否定か、という二つの違いがあり、故に二つの回答の違いが動詞の活用によるものか肯否によるものであるかが明確にはわからない。追加調査が望まれる。

ここでは肯定否定の違いに注目して述べる。まず(27)ではラレル形が回答されるが、これは「嵐」という外的条件により阻まれたことが意識された結果ではないかと思われる。一方(28)では同じく気候条件を設定したが、ここではラレル形「コラエル」が回答されず(「コラエル」と言うかどうか尋ねたが「言わない」とのことだった)、可能動詞が回答された。これは、3.1節・3.2節で述べたことの一環として理解できるのではないかと考えられる。つまり、外的条件可能以外=可能動詞形/外的条件可能=レル・ラレルという意味的な区別は、否定形では保存されているが、肯定形では外的条件可能でもレル・ラレルが衰退し、可能動詞に統一され始めている、と考えられる。

今回の調査で得られたデータでは十分な論証が難しい。以上の推定に説得性を持たせるための追調査が必要となる。

5 自発形式について

次に、共通語では可能形式で表されるが、調査例文で「自発」にカテゴライズされた例文の回答を見る。「自発」文では以下のように回答された。

- (29) 酒が飲みたいのにコップがなくて飲めない
→ こっぷ いねして ノマエネ/*ノマサラネ
- (30) 酒を飲みたいがコップを探すのが億劫で飲めない
→ こっぷさがすの めんどくせして ノマネ/*ノマサラネ
- (31) 嫁がコップをもってきてくれて、やっ酒が飲めた
→ やっど ノメダ/*ノマサッタ
- (32) 昨日は気分よく酒が飲めた
→ ゆんべなー きもちーぐ ノメダ/?ノマサッタ
- (33) 私は強い酒でも飲める
→ わら なんでも ノメル
- (34) 私は上手に字を書ける
→ わ じょんずに じ カゲル

まず(29)では外的条件可能の否定形であり、これまでの回答から推測される通り、レル形

が使用されている。話者の内省によれば、ここではサルは使用できないようである。

(30) では、状況が想定しにくかったためか可能形式は回答されず無標の否定形が回答された。ここでは、話者が「コップを探すのが億劫だから意図的に飲まなかった」という状況を想定していた可能性がある。ここでもサルは使用できないようである。

(31) は外的条件可能であるが、肯定形であるためかやはり可能動詞が回答された。これまでの考察で述べた通り、やはり肯定形ではレル・ラレルが衰退している可能性が高い。ここでもサルは使用できないようである。

(32) では、話者からは「ノメダ」がすぐに回答され、その後のやりとりの中で話者から「ノマサッタ」も聞かれた。そこで「「ノメダ」だけでなく「ノマサッタ」も言えるのか」と改めて尋ねたところ、話者からは「ノマサッタとは言わない」と返答された。サルは方言話者にとっても内省の難しい形式のようである。調査者とのやり取りの中で聞かれたため例文中には「?」を付しておいた。

(33)・(34) は能力可能（肯定）であり、可能動詞が回答されている。ここでも自発形式は回答されなかった。

以上、3節・4節で見た可能表現の調査項目と概ね同様の回答がなされたと言える。一方で当該方言における自発形式サル・ラサルの表現範囲を明らかにすることはできなかった。話者の内省ではサル・ラサルが使用できないとするものの、調査者との談話の中ではサル・ラサルの使用例が聞かれるなど、例文翻訳調査では解明が難しいのかもしれない。今後、調査方法の検討も視野に入れる必要がある⁴。

6 おわりに

本稿では、むつ市田名部方言の可能表現を取り上げ、その使用実態を記述的に整理した。調査不足の項目があり網羅的に整理できたとは言いがたいが、調査結果、次の点が確認された。

- 否定形では外的条件可能以外は可能動詞形で表され、外的条件可能はレル・ラレルで表されるのが専らである（例外は(16)）。
- 一方、肯定形では上の使い分けが弱化し、可能の条件のすべてが可能動詞で一本化されている様相が観察される。
- 実現可能（過去形）の肯定形では無標のタ形が回答されることがあり、可能形式が選択されない場合がある。

今後は、部分的に回答されるに過ぎなかったスルニーの使用範囲や他の可能形式との使い分け、サル・ラサルの使用範囲などを調査する必要がある。また一段動詞・カ変動詞では調査量が不足しているため、調査例文を増やして記述の精緻化を行う必要がある。すべて今後の課題である。

⁴ サル・ラサルは東日本の各地に見られるようである（特に東北には広く分布する）。サル・ラサル研究はある程度蓄積もあり、北海道方言を分析した円山（2016）、岩手県盛岡方言を分析した竹田（1998）、静岡県大井川流域方言を分析した中田（1981）、栃木県宇都宮方言を分析した加藤（2000）等がある。サル・ラサルは地域によって表せる範囲が異なるようであり、これらの先行研究を基に分析軸を立てる必要があると思われる。

参考文献

- 加藤昌彦（2000）「宇都宮方言におけるいわゆる自発を表す形式の意味的および形態統語的特徴」『国立民族学博物館研究報告』25(1).
- 此島正年（1982）「青森県の方言」（飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4—北海道・東北地方の方言—』国書刊行会に所収）.
- 渋谷勝己（1993）「日本語可能表現の諸相と発展」『大阪大学文学部紀要』33(1).
- 竹田晃子（1998）「岩手県盛岡市方言におけるサル形式の意味的特徴」『国語学研究』37.
- 中田敏夫（1981）「静岡県大井川流域方言におけるサル形動詞」『都大論究』18.
- 円山拓子（2016）『韓国語 cita と北海道方言ラサルと日本語ラレルの研究』ひつじ書房.

むつ市田名部方言の行為指示表現

川瀬 卓¹

1 はじめに

むつ市^{たなぶ}田名部方言は青森県下北地域で話される方言の一つである。下北方言では、動詞に複数の命令形があることが知られている。たとえば、見ルの命令形の見口、見レ以外に見セ、見サイ（見サイン）、見サマエ（見サマイ）という形式がある。これらの一セ、一サイ（サイン）、一サマエ（サマイ）を尊敬命令形と呼ぶことにする。佐藤編（2003）によれば、現代は尊敬命令形を使う人はほとんどいなくなっているとのことだが、地元の人でも伝統的な下北方言における特徴的な表現として意識しており、むつ下北観光物産館「まさかりプラザ」の向かいに「むつ来^かさまい館」というイベント施設があるし、交通標語に「シートベルトをつけてください」というようなものも見られる。

下北方言の行為指示表現（聞き手に行為を要求する表現）については、一セ、一サイ（サイン）、一サマエ（サマイ）とするにしたがって、より丁寧な言い方になることが指摘されているが、大まかな把握にとどまり、《勧め》《依頼》といった発話機能の観点からは記述されていない。また、これまでは尊敬命令形にばかり注目が集まっており、行為指示表現の運用に欠かせない授受表現についてはあまり注意が払われていない。諸方言の行為指示表現の記述に目を向けると、牧野（2008）を始めとして、発話機能の観点からいくつかの方言の記述がなされているが、それらは西日本の方言に偏っている。以上のように、下北方言の行為指示表現の記述という点からも、諸方言の行為指示表現の記述という点からも、ある程度普遍的な枠組みを利用してむつ市田名部方言の行為指示表現の運用を記述することには、一定の意味があると思われる。

本稿では、2018年8月30日、および31日に青森県むつ市で行われたフィールドワークの調査結果に基づき、むつ市田名部方言の行為指示表現がどのように運用されているのかについて、発話機能の観点から記述する。

2 下北方言の待遇表現、行為指示表現の概要

総合調査として50年ほど前に行われた九学会連合下北調査委員会編（1967）があるものの、下北方言の研究はあまりなされていない。文法に関していえば、此島（1965）および、それに基づいて記述された九学会連合下北調査委員会編（1967）第3章第2節「下北方言の文法」（執

¹ かわせ すぐる：白百合女子大学・准教授（skawase@shirayuri.ac.jp）

筆者は此島正年)がもっとも詳しいものである。また、青森県の方言について記述した此島(1968)にも、津軽方言や南部方言と合わせて、下北方言に関する記述がある。これらは品詞別に特徴的な事項を取り上げているにとどまり、あくまで概説である。

下北方言の待遇表現については、九学会連合下北調査委員会編(1967)で、動詞の主語尊敬形は見られないことが指摘されている。2018年フィールドワークの調査結果でも、聞き手待遇を確認する項目、第三者待遇を確認する項目、丁寧語の有無を確認する項目において、動詞の敬語形式は得られなかった²。

しかし、行為指示の場合については事情が異なる。その他の場合には動詞の敬語形式が発達していなくても、直接聞き手に働きかける行為指示の場合、全国的に敬語的な表現が発達していることが知られているが(加藤1973)、下北方言にも主に女性が用いるとされる尊敬命令形がある。九学会連合下北調査委員会編(1967)では、田名部や大畑には動詞の命令形の他に、敬意の最も軽い一セ、中位の一サイン、最高敬語の一サマエの3段階があることが指摘されている(読ムの場合は読マセ、読マサイン、読マサマエとなる)。

これらの尊敬命令形には地域差がある。九学会連合下北調査委員会編(1967)によれば、以下のとおりである。



図1 下北地域の地図(此島1968より)

(1) 下北方言における動詞尊敬命令形の地域差

田名部、大畑…一セ、一サイン、一サマエの3段階

川内、脇野沢、佐井、大間…一セ、一サマエの2段階

東通村の尻屋、小田野沢…尊敬命令形は無し

なお、一セは上北、三戸など南部方言にも見られるという³。

尊敬命令形の地域差については『方言文法全国地図(GAJ)』からもうかがうことができる。GAJ第297図「あそこへは、バスで行きなさい」、第300図「こちらの方へ来なさい」、第303図「この部屋にいなさい」が尊敬命令形と関わる項目である。ただし、地図化されているのはB場面(「この土地の目上の人にむかって、ひじょうにていねいに」言うとき)だけである。

² 待遇表現に関する調査結果については、本報告書の145~154頁を参照されたい。なお、待遇的意味を示す手段が全くないわけではない点には注意が必要である。たとえば、聞き手の動作に関する質問で聞き手が目上るとき、動詞が主語尊敬形になるわけではないが、推量のべが付加される傾向にあった。べを用いて婉曲的にすることで、配慮を示しているものと思われる。その他に、対称代名詞オメ、ナについて、友人には言えるが、目上に対しては言えないという内省も得られた。九学会連合下北調査委員会編(1967)でも代名詞や助詞等、待遇に関わる形式が紹介されている。

³ これらの形式の語源は必ずしも明らかではない。此島(1968)では「セ」の由来について、「サイ」の転音で敬意が下がったものと推測されている。「サイ」は自発の「サル」がかつては尊敬を表すことがあり、その命令形と推測されている。「サマエ」については不明であるという。なお、これらに対応する禁止表現もあるらしく、畑井(1981)では、川内の禁止表現としてオギナ(禁止命令)の他に、オギサナ(「セ」の禁止)、オギサマシナ(「サマイ」の禁止)があるという(他の地域の禁止については触れられていない)。

幸い、地図化されていないものの、A場面（「近所の知り合いの人にむかって、ややていねいに」言うとき）のデータも利用することができるので、それを利用して整理すると表1のようになる⁴。GAJで調査された大畑、大間、脇野沢、川内、蒲野沢の5つの下北方言地域について、尊敬命令形が回答されたもののみ、その語形の語尾をカタカナ表記にして示した。地域名の下に括弧で示してあるのは話者の生年である。なお、空白の箇所は回答がなかったわけではない。たとえば、一テクダサイのような標準語的語形やシタホーガイイのような間接的表現などが回答されている。

表1 GAJの調査で見られた尊敬命令形

| | | 行きなさい | 来なさい | いなさい |
|---------------|-----|-------|-------|-------|
| 大畑 (1912) | A場面 | サイン | セ、サイン | サイン |
| | B場面 | サマエ | サマエ | サマエ |
| 大間 (1902) | A場面 | セ | セ | セ |
| | B場面 | サマエ | サマエ | サマエ |
| 脇野沢 (1920) | A場面 | サマエ | サマエ | サマエ |
| | B場面 | サマエ | | |
| 川内 (1908) | A場面 | | サマエ | テケサマエ |
| | B場面 | | | |
| 蒲野沢 (1919) | A場面 | | | サマエ |
| | B場面 | サマエ | | サマエ |

この表から、大畑では尊敬命令形に一セ、一サイン、一サマエの3段階があることや、大間では一セ、一サマエの2段階であること、その他の地域では一サマエしか出てこない（川内では一テケサマエという授受表現尊敬命令形も見られる）ことなどがうかがわれる。

その他、一つの地域について、世代の異なる複数の話者を対象に待遇表現調査をしたものとして川嶋（1989）がある。川嶋（1989）は大間の東に隣接する風間浦村の易国間地区の話者を対象として、命令、同意、推量伝達、挨拶、疑問といった複数の表現について、聞き手によってどのように言い方が異なるかを調査した貴重な報告である。本稿で扱う行為指示表現についても、「命令形 → 一セ → 一サマイ」という丁寧さの段階や、その使い分けに個人差があることがわかるデータが示されている。ただし、「行け」「来い」「読め」という命令を家族に対してはどうか、目下に対してはどう言うかといった調査の仕方になっており、具体的な文脈を提示したものではない。

以上見てきたように、下北方言における尊敬命令形の丁寧さの段階やその地域差について、大まかにはつかめるようになっているものの、各地域いずれにおいても、どのような行為指示の場合にどのような形式を用いるのか、十分にわかる形では記述されていない。また、GAJに

⁴ データは国立国語研究所「方言研究の部屋」<https://www2.ninjal.ac.jp/hogen/index.html>で公開されているものによる（2019年9月4日アクセス）。

おける川内の回答からも知られるように、実際には尊敬命令形だけでなく、授受表現尊敬命令形も視野に入れる必要がある。以上の点を踏まえ、本稿ではむつ市田名部一地域を取り上げ、行為指示表現の運用を発話機能の観点から記述する。

3 行為指示表現の調査方法

3.1 調査の枠組み

「行為指示」は聞き手に対してある行為を要求する発話行為のことで、「依頼」「勧め」「命令」などの総称である。聞き手に対してある行為を要求する言語形式のことは「行為指示表現」と呼ぶ。熊取谷（1995）が述べるように、行為指示は「典型的な「依頼」と典型的な「命令」を両端に持つ連続体」（熊取谷 1995:14）である。

姫野（1997）は「決定権者」「受益者」という2つの分類軸をもとに行為指示を4タイプに整理した。決定権者とは、その行為を行うかどうかを決める権利が話し手と聞き手のどちらにあるかという基準である。受益者とは、その行為の結果、利益や恩恵を受けるのが話し手と聞き手のどちらであるかという基準である。牧野（2008）は熊取谷（1995）、姫野（1997）を踏まえ、発話機能の観点から大阪方言の命令形を記述している。ほぼ同様の枠組みを利用して方言の命令形を記述したものとしては、酒井（2012; 2013）、森・平塚・中村（2012）等がある。本稿でもそれらの枠組みを踏まえてむつ市田名部方言の行為指示表現を記述する。

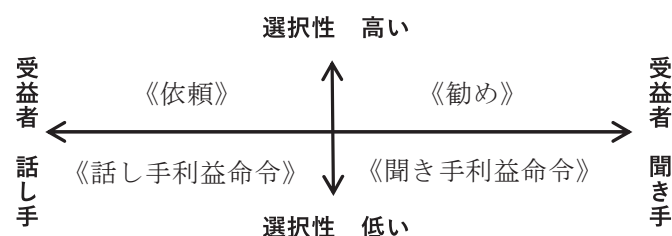


図2 行為指示の枠組み

図2は森・平塚・中村（2012）に基づく行為指示の分類図である。基本的には牧野（2008）に従っているものだが、用語や考え方が若干異なっている。まず分類の軸について「決定権者」の軸が行為の「選択性」になっている。これは行為指示において、行為をするかしないかの決定権は、話し手と聞き手のどちらにあるかという二者択一のものでなく、程度の違いだからである。選択性が高いというのは言い換えれば聞き手への拘束力が弱く、選択性が低いというのは言い換えれば聞き手への拘束力が強いということになる。

次に、受益者について、牧野（2008）では「非聞き手」と「聞き手」という対立になっているが、森・平塚・中村（2012）に基づく図2では「話し手」と「聞き手」という対立になっている。出来事の恩恵を受けるのは誰かということ考えた場合、典型的には話し手と聞き手のどちらかであるが、必ずしもそうとは限らず、第三者であったり、当該コミュニティであった

りすることがある。このことを考慮して牧野（2008）では非聞き手と聞き手の対立としているが、図2ではあくまで理念的な枠組みとして、受益者の軸を話し手と聞き手の対立と設定している。

以上のようにして行為指示の4つのタイプが取り出せるわけだが、選択性の低い（拘束力の強い）行為指示には、《話し手利益命令》《聞き手利益命令》と区別すべきものとして、話し手がある場における、ある種の権威的立場から第三者や公のために行為を要求するものが想定できる。これを《公のための命令》⁵と呼ぶ。そもそも《話し手利益命令》にしる、《聞き手利益命令》にしる、立場が上の相手に対しては命令しにくい。それに対して、その場の責任者としてであったり、公のための要求であったりすれば、比較的どのような相手に対しても、言わばその場での臨時的な上位者として、多少は命令しやすくなる。このような事情から、選択性の低い（拘束力の強い）行為指示としては、《公のための命令》を取り出して扱うことにする。

以上のことを踏まえて、本稿では、特に配慮が求められる《勧め》《依頼》、および公的な立場から行為を要求する《公のための命令》を調査した。

3. 2 調査文について

以上の枠組みに基づいて調査を行った。今回ご協力いただいた話者は78歳・女性である。まず想定される聞き手を設定してもらい、その上でこちらから具体的な場面を提示して行為指示表現の方言訳を答えてもらった。聞き手の設定と提示した文脈については以下のとおりである。

3. 2. 1 想定される聞き手

聞き手について、「ウチ・ソト」「親疎」「上下」の観点から、5人の人物を想定してもらった。

表2 想定される聞き手

| 話し手と 聞き手の関係 | ウチ | | ソト | | |
|----------------|----|----|--------|-----|----|
| | 目下 | 目上 | 親しい | 親しい | 疎 |
| | | | 同等（目下） | 目上 | 目上 |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |

聞き手①は家族の中で目下の人物【ウチ・目下】、聞き手②は家族の中でその人に対して一番丁寧なことばづかいをする人物【ウチ・目上】、聞き手③は非常に親しい友人【ソト・親・同等（目下でも可）】、聞き手④は親しい人の中でその人に対して一番丁寧なことばづかいをする人物【ソト・親・目上】、聞き手⑤は集落（地域・職場等）でその人に対して一番丁寧なことばづかいをする人物【ソト・疎・目上】である。

⁵ 森・平塚・中村(2012)では《権威的命令》としている。

今回、実際に想定してもらった結果、聞き手①は一番下の弟、聞き手②は配偶者の母、聞き手③は幼馴染、聞き手④は近所の年上の女性、聞き手⑤は町内会長であった。

3. 2. 2 調査文の文脈

勧め場面 2つ、依頼場面 2つ、公のための命令（権威的命令）場面 2つの計 6つの場面において、聞き手①～⑤に対してどのように言うかを答えてもらった。具体的には表3のとおりである。

表3 提示した文脈と例文

| 発話機能 | 文脈 | 例文 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|
| 《勧め》1 | (相手が家族の場合)今日は天気予報で雨だと言っている。相手が家を出ようとしているが傘を持っていくそぶりが無い。 | 一応、傘を持っていけ。 |
| | (相手が家族以外の場合)相手があなたの家に来ました。相手が家を出ようとしたところ、今にも雨が降りそうな雲が近づいてきているのが見えた。 | |
| 《勧め》2 | 相手が「お腹がすいた」と言っている。あなたはちょうど別の人からもらったお菓子を持っていることに気づいた。 | よかったらこのお菓子、食べろ。 |
| 《依頼》1 | (相手が家族の場合)相手がAさんの家へ遊びに行こうとしている。あなたはAさんの家から借りたものがあったのを思い出した。 | ついでにこれ（借りたもの）を持って行け。 |
| | (相手が家族以外の場合)相手があなたの家に来ている。相手はAさんの家に寄ってから帰るといふ。そのとき、あなたはAさんの家から借りたものがあったのを思い出した。 | |
| 《依頼》2 | あなたは今ひとりで作業（家事、料理等）をしている。しかし、ある機械が使えなくて困っている。そこへ相手がやってきた。 | これの使い方（～のやり方）を教えろ。 |
| 《公のための命令》1 | (相手が家族の場合)あなたは相手と一緒に家にいて、大掃除をしている。別の家族が手伝いを呼ぶ声が聞こえるが、あなたは手が離せない。 | ちょっと応援に（手伝いに）行け。 |
| | (相手が家族以外の場合)あなたは地域・職場等の行事の責任者である。相手と一緒に行事の準備をしている。どこかで応援を求める声が聞こえるが、自分は別の仕事で手が離せない。 | |
| 《公のための命令》2 | (相手が家族の場合)あなたは相手と一緒に家にいる。今、大事な客が来ているが、相手が気づかず、大声で電話でしゃべっている。 | 静かにしろ。 |
| | (相手が家族以外の場合)あなたは地域・職場等の行事の責任者である。相手と一緒に行事の準備をしている。音響機器のテストをしているが、相手が気づかず、大声で電話でしゃべっている。 | |

4 行為指示表現に関する調査結果

4.1 全体的傾向

佐藤編（2003）によれば、現代は尊敬命令形を使う人はほとんどいなくなっているとのことだが、今回協力していただいた話者の女性は、尊敬命令形の明確な使い分けがあった。調査結果をまとめると表4のようになる。全体的傾向を確認するため、各発話機能における文脈の違いはいったん捨象した。調査の結果、形式の使い分けにおいて、ウチとソトの違いはあまり関与せず、それよりも上下の違いのほうが関与することがわかったため、表にまとめる際には、左から目下、同等、目上となるように並べた。また、話者が今回の調査で想定した聞き手の場合、聞き手②よりも聞き手④のほうがやや距離的に近い（拘束力の強い形式を用いることができる）と思われたため、聞き手④を聞き手②よりも左側に配置した。

表4 行為指示表現の使い分け

| | | 聞き手① ウチ 目下 | 聞き手③ ソト・親 同等 | 聞き手④ ソト・親 目上 | 聞き手② ウチ 目上 | 聞き手⑤ ソト・疎 目上 |
|-------|--------------------------|------------------|--------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| 《勧め》 | セ | ○ | ○ | | | |
| | サイ（ン） | ○ | ○ | | | |
| | サマイ | | | ○ | ○ | ○ |
| | 授受・セ 授受・サイン 授受・サマイ | | | | | ○ |
| | テ | | | ○ | | ○ |
| 《依頼》 | セ | ○ | | | | |
| | サイ（ン） | | | | | |
| | サマイ | | | | | |
| | 授受・セ 授受・サイン 授受・サマイ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | テ チャーダイ | | | | ○ | |
| 《公命令》 | セ | ○ | ○ | | | |
| | サイ（ン） | | | | | |
| | サマイ | | | ○ | | |
| | 授受・セ 授受・サイン 授受・サマイ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | テ | | ○ | | | |

セ、サイ（ン）、サマイは尊敬命令形のことである。サイ（ン）としているのは、サイとサインで語形にゆれが見られたためである。授受・セ、授受・サイン、授受・サマイは授受表現補助動詞用法の尊敬命令形のことを指す。本方言では、標準語の授受表現「くれる」に相当す

る語形はケルであり、標準語の「一てください」に相当する語形として一テケセ、一テケサイン、一テケサマイが現れる。表では、尊敬命令形、および授受表現尊敬命令形を網掛けした。その他、標準語的な語形として、一テ（動詞のテ形）、一テチョーダイも見られた。

表4からうかがわれる全体的な傾向を確認する。まず、動詞の命令形は現れない。話者の女性によれば、命令形は男性の言い方であり、女性は言わないとのことである。例えば、「食べる」について、「食べる」に相当する本方言のクの命令形クエ、ケではなく、カセ、カサイ(ン)、カサマイという尊敬命令形が用いられる。

聞き手に利益があるか否かは基本的に授受表現の有無によって表し分けられている。聞き手利益である《勧め》において主に尊敬命令形が用いられ、そうでない《依頼》や《公のための命令》では、主に授受表現尊敬命令形が用いられている。なお、一部、そのような使い分けになっていない点については後述する。

上下関係はセ、サイ(ン)、サマイによって表し分けられている。大きくは目下、同等に対してセ、サイ(ン)が使用され、目上に対してサマイが使用されている。話者の言語意識としても、目上にはサマイを使うという意識がはっきりしていた。やや細かく見ると、授受表現尊敬命令形のテケサインが目上に対して用いられることもあるという点などから、セよりもサイ(ン)のほうがやや丁寧な言い方と言える。《勧め》と《依頼》《公のための命令》は、授受表現を伴うかどうかという点では異なるが、聞き手との上下関係によってセ、サイ(ン)、サマイが使い分けられるという点は共通している。

以下、文脈の違いによる行為指示表現の異なりにも注意を払いつつ、発話機能ごとの特徴を見ていく。

4.2 《勧め》における行為指示表現

《勧め》の文脈ごとの違いは表5のとおりである。《勧め》1では授受表現尊敬命令形、およびテ形は現れなかったため、その部分は削除している。

表5 《勧め》における行為指示表現

| | | 聞き手① ウチ 目下 | 聞き手③ ソト・親 同等 | 聞き手④ ソト・親 目上 | 聞き手② ウチ 目上 | 聞き手⑤ ソト・疎 目上 |
|-------|--------------------------|------------------|--------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| 《勧め》1 | セ サイ(ン) サマイ | ○ ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 《勧め》2 | セ サイ(ン) サマイ | ○ ○ | ○ | | ○ | |
| | 授受・セ 授受・サイン 授受・サマイ | | | | | ○ |
| | テ | | | ○ | | ○ |
| | | | | | | |

それぞれ得られた例文は以下のとおりである⁶。

- (2) 《勧め》1 一応、傘を持っていけ。
- a. kasa motte {igasse / igassain}. 【聞き手①ウチ・目下】
 b. kasa motte igasse. 【聞き手③ソト・親・同等】
 c. kasa motte ikasamai. 【聞き手④ソト・親・目上】
 d. oba:tcav kasa motte {ittaho:ga ito omoujo / ikasamai}. 【聞き手②ウチ・目上】
 e. kasa motte igasamai. 【聞き手⑤ソト・疎・目上】
- (3) 《勧め》2 よかったらこのお菓子、食べる。
- a. kore {kase: / kasai}. 【聞き手①ウチ・目下】
 b. kore 《oici:jo》 kasain. 【聞き手③ソト・親・同等】
 c. kore {tabete mite ~ tabede mide}. 【聞き手④ソト・親・目上】
 d. oba:tcav kore kasamai. 【聞き手②ウチ・目上】
 e. tabede {mite ~ mide / kesamai}. 【聞き手⑤ソト・疎・目上】

《勧め》では主に尊敬命令形が使用される。一セと一サインは同等もしくは目下に対して、一サマイは目上に対して用いられている。《勧め》1と《勧め》2には若干の違いがある。《勧め》1の(2d)で標準語的な間接的形式イッタホーガイトオモウヨが現れた点を除けば、《勧め》1よりも《勧め》2のほうが、やや選択性の高い表現が用いられているようにも見える。具体的には、同じ聞き手に対して、(2e)では一サマイだが、(3e)では授受表現尊敬命令形一テケサマイを用いている。また、(3c, e)では標準語的と思われる動詞のテ形が現れている。《勧め》1と《勧め》2の違いが何によるものかは不明だが、《勧め》2で提示した元の標準語にあ

⁶ 例文中の記号は、「~」は音声的と思われる揺れ、「/」は複数の形式で言いかえが可能な場合、「《 》」はそれが任意の要素であることを示す。

る「よかったら」が話者の回答に影響を与えたのかもしれない。

4. 3 《依頼》における行為指示表現

《依頼》の文脈ごとの違いは表6のとおりである。《依頼》1では尊敬命令形、およびテ形は現れなかったため、その部分は削除している。

表6 《依頼》における行為指示表現

| | | 聞き手① ウチ 目下 | 聞き手③ ソト・親 同等 | 聞き手④ ソト・親 目上 | 聞き手② ウチ 目上 | 聞き手⑤ ソト・疎 目上 |
|-------|--------|------------------|--------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| 《依頼》1 | 授受・セ | ○ | ○ | | | |
| | 授受・サイン | ○ | ○ | | | |
| | 授受・サマイ | | | ○ | ○ | ○ |
| 《依頼》2 | セ | ○ | | | | |
| | サイ(ン) | | | | | |
| | サマイ | | | | | |
| | 授受・セ | | ○ | | | |
| | 授受・サイン | | | ○ | | |
| | 授受・サマイ | | | ○ | ○ | ○ |
| | テチョーダイ | | | | ○ | |

それぞれ得られた例文は以下のとおりである。

(4) 《依頼》1 ついでにこれ(借りたもの)を持って行け。

- a. ome igundattara wai {kaiderano ~ kariderano} arucite mottette {kese / kesain}. 【聞き手①ウチ・目下】
- b. karideruno arucite mottette {kesain / kese}. 【聞き手③ソト・親・同等】
- c. kariteruno arucite mottette kesamai. 【聞き手④ソト・親・目上】
- d. oba:tcan 《wataci》 kariderano arucite mottette kesamai. 【聞き手②ウチ・目上】
- e. mottette kesamai. 【聞き手⑤ソト・疎・目上】

(5) 《依頼》2 この使い方(～のやり方)を教えろ。

- a. ja: wai kogondoko tcotto wagannendakedo waisa ociese. 【聞き手①ウチ・目下】
- b. kogo wagannaindakedo tcotto ociete kese. 【聞き手③ソト・親・同等】
- c. ociete {kesain / kesamai}. 【聞き手④ソト・親・目上】
- d. ja: kogo tcotto wagannaindakedo ociete {tco:dai / kesamai}. 【聞き手②ウチ・目上】
- e. ociete kesamai. 【聞き手⑤ソト・疎・目上】

《依頼》では主に授受表現尊敬命令形が使用される。《依頼》1では、目下、同等には一テケセ、一テケサインを、目上には一テケサマイを用いている。《依頼》2では、全体的に《依頼》1よりも比較的選択性の低い（拘束力の強い）形式を用いている。(5a)に尊敬命令形セが、(5b)では授受表現尊敬命令形の中でも一テケサインではなく一テケセが、(5c)には一テケサマイ以外に一テケサインも現れた。《依頼》1と《依頼》2の違いは場面の違いによるものであろう。《依頼》と言っても、1と2では相手に与える負担が異なる。本来自分ですべき行為である物の返却よりも、たまたま通りかかった相手にその場で機械の使い方を教えてもらうほうが、相手の負担が小さく頼みやすいため、より選択性の低い（拘束力の強い）形式が用いられたと考えられる。

なお、目上の中で、聞き手②ウチ・目上に対しては、《依頼》2で標準語的な言い方と思われる一テチャーダイが現れている。先の《勧め》1でも聞き手②に対して標準語的な間接的形式イッタホーガイイトオモウヨが現れていることともあわせると、今回想定した聞き手の中では、ややあらたまった話し方が選ばれやすいようである。

4.4 《公のための命令》における行為指示表現

《公のための命令》の文脈ごとの違いは表7のとおりである。《公のための命令》1では尊敬命令形は現れず、《公のための命令》2ではテ形は現れなかったため、その部分は削除している。

表7 《公のための命令》における行為指示表現

| | | 聞き手① ウチ 目下 | 聞き手③ ソト・親 同等 | 聞き手④ ソト・親 目上 | 聞き手② ウチ 目上 | 聞き手⑤ ソト・疎 目上 |
|--------|--------|------------------|--------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| 《公命令》1 | 授受・セ | ○ | ○ | | | |
| | 授受・サイン | | | | | |
| | 授受・サマイ | | | ○ | ○ | ○ |
| | テ | | ○ | | | |
| 《公命令》2 | セ | ○ | ○ | | | |
| | サイ(ン) | | | | | |
| | サマイ | | | ○ | | |
| | 授受・セ | | ○ | | | |
| | 授受・サイン | | | ○ | | |
| | 授受・サマイ | | | | ○ | ○ |

それぞれ得られた例文は以下のとおりである。

- (6) 《公のための命令》1 ちょっと応援に（手伝いに）行け。
- a. ima tɕotto te hanasenaicite ome itte 《mide》 kese. 【聞き手①ウチ・目下】
 - b. ɕirotɕan tɕotto waisa te hanasenaicite mide {jatte / kese}. 【聞き手③ソト・親・同等】
 - c. ka:san ima tɕotto kottci te ippai dacite ka:san mide jatte kesamai. 【聞き手④ソト・親・目上】
 - d. oba:tɕan 《ima》 tɕotto te hanasenaicite itte mide kesamai. 【聞き手②ウチ・目上】
 - e. kottci te ippai dacite mide jatte kesamai. 【聞き手⑤ソト・疎・目上】
- (7) 《公のための命令》2 静かにしろ。
- a. ima ogjakusan kitacite ome tɕittcai koede ɕabesse. 【聞き手①ウチ・目下】
 - b. ome: tɕotto ɕizukapi {se ~ se? ~ sse ~ sse? / cite kese}. 【聞き手③ソト・親・同等】
 - c. {ɕizukapi ~ ɕi~zukapi} {ɕisamai / cite kesain}. 【聞き手④ソト・親・目上】
 - d. oba:tɕan ogjakusan kitacite tɕotto tɕittcai koede ɕa~bette kesamai. 【聞き手②ウチ・目上】
 - e. ɕizukapi cite kesamai. 【聞き手⑤ソト・疎・目上】

《公のための命令》は《依頼》の分布と似ている。公の立場からとは言え、相手に負担を要求するため、授受表現尊敬命令形を用いるということだろう。ただし、《公のための命令》1で目下、同等に対して一テケサインが用いられていないという点や《公のための命令》2では尊敬命令形が複数見られるという点で、全体的に《依頼》よりも《公のための命令》のほうが、選択性の低い（拘束力の強い）形式が選ばれている。

《公のための命令》1と《公のための命令》2を比べると、後者は尊敬命令形も見られることや、聞き手④ソトの親しい目上に対して授受表現尊敬命令形が一テケサマイではなく一テケサインとなっていることが指摘できる。これらは場面による違いだろう。《公のための命令》2は本来静かにすべきである状況なのに、相手はそうしていないという場面での行為指示である。一方、《公のための命令》1は誰かが手伝いに行けばいいのであって、そこにいる相手がやって当然というわけではない。このように《公のための命令》2のほうが、相手がそうすべきという度合いが強い場面のため、選択性の低い（拘束力の強い）形式が選ばれているのだと思われる。

5 各形式の使用範囲

4節では発話機能別に、尊敬命令形、および授受表現尊敬命令形の使用を見てきた。あらためて形式ごとに使用範囲をまとめなおすと表8のようになる。《依頼》と《公のための命令》については、それぞれ2のほうにしか現れなかったもの、すなわち、今回設定した文脈で、より選択性の低い（拘束力の強い）形式が選ばれやすい《依頼》《公のための命令》にしか現れ

なかったものを（ ）に入れて示している。そのうえで、（ ）以外に網掛けをした。なお、発話機能を表す《 》については煩雑さを避けるため表中では省略した。

尊敬命令形は主に《勧め》で用いられる。一セ、一サイ（ン）、一サマイとなるにつれて、より丁寧な言い方になることが見て取れる。とくに目上に対する《勧め》は一サマイしか使えない。一セ、一サイ（ン）は目下、同等に対する《勧め》で用いられる点では共通するが、一セは場面によって《公のための命令》でも用いられ、ウチの目下に対しては《依頼》でも用いられる。

授受表現尊敬命令形は主に《依頼》《公のための命令》で用いられる。一テケセ、一テケサイン、一テケサマイとなるにつれて、より丁寧な言い方になることが見て取れる。とくに目上に対する《依頼》《公のための命令》は基本的に一テケサマイが用いられる。一テケセ、一テケサインは目下、同等に対する《依頼》で用いられる点は共通するが、一テケセは目下、同等に対する《公のための命令》でも用いられ、一方、一テケサインは関係性や場面によっては目上に対する《依頼》《公のための命令》でも用いられる。

表8 各形式の使用範囲

| | 聞き手① ウチ 目下 | 聞き手③ ソト・親 同等 | 聞き手④ ソト・親 目上 | 聞き手② ウチ 目上 | 聞き手⑤ ソト・疎 目上 |
|--------|---------------------|--------------------|--------------------|------------------|--------------------|
| セ | 勧め (依頼) (公命令) | 勧め (公命令) | | | |
| サイ（ン） | 勧め | 勧め | | | |
| サマイ | | | 勧め (公命令) | 勧め | 勧め |
| 授受・セ | 依頼 公命令 | 依頼 公命令 | | | |
| 授受・サイン | 依頼 | 依頼 | (依頼) (公命令) | | |
| 授受・サマイ | | | 依頼 公命令 | 依頼 公命令 | 勧め 依頼 公命令 |

6 今後の記述に向けて

本稿では、発話機能の観点から、むつ市田名部方言の行為指示表現の運用を記述した。5節で結論を示したため、それをここで繰り返して述べることはしないが、最後に本稿の限界と今後検討すべき点を整理しておく。

本稿の記述は話者一人の内省によるものである。当然、この話者一人でむつ市田名部方言の

行為指示表現が十分に記述できているのかという懸念があろう。行為指示表現の運用には性差のあることが多い。今回の話者の内省にもあったように、むつ市田名部方言でも、男性では動詞の命令形が普通に用いられる。まず男女ともに複数の話者を対象として、追加調査する必要がある。また、先行研究で指摘されているように、下北方言内部での地域差も大きい。下北方言全体のありようを明らかにするならば、地域間の対照も必要になってくるだろう。このように、本稿の記述に不十分な点があることは否めない。

一方で、次のような事情を考えたとき、本稿の記述もそれなりの価値を持つのではないかと思われる。当該方言において、今回記述した尊敬命令形(授受表現尊敬命令形も含む)はもはやあまり保持されていない可能性がある。佐藤編(2003)で尊敬命令形がほぼ失われていることが指摘されているし、2018年のフィールドワークにさきがけて2016年と2017年に筆者が行った予備的な調査でも、今回の話者と同世代の田名部方言話者数名からはほとんど尊敬命令形が出てこず、《勧め》《公のための命令》で場面や聞き手によってはわずかに現れるという状況であった。話者の言語意識として、母の世代ではよくサマイを使っていた(74歳・女性)、幼い頃、近所のおばさんたちがサマイをよく使っていた(76歳・男性)というコメントも聞かれた。こうした状況を踏まえると、今回、尊敬命令形を保持している方に話をうかがえたことはまことに幸運であった。

今後、同世代の男女、世代の異なる男女複数に対する調査を行い、尊敬命令形の衰退状況を明らかにする必要があるだろう。どういう場面で残るのか、衰退した場合はどういう形式が代わりに用いられるのか検討していくことになるだろう。また、そういった検討を進めていくことで、方言の現状が記録できるだけでなく、五箇山方言の命令形の動態を明らかにした牧野(2018)のように、言語変化について興味深い知見が得られる可能性もある。今後、さらなる追求が望まれる。

参考文献

- 加藤正信(1973)「全国方言の敬語概観」林四郎・南不二男(編)『現代の敬語』25-83, 敬語講座第6巻, 東京: 明治書院.
- 川嶋瑞美(1989)「下北方言 待遇表現に於ける社会言語学的考察」『方言誌あおもりけん』7: 3-31.
- 九学会連合下北調査委員会編(1967)『下北一自然・文化・社会』東京: 平凡社.
- 熊取谷哲夫(1995)「発話行為理論から見た依頼表現—発話行為から談話行動へ—」『日本語学』14(11): 12-21.
- 此島正年(1965)「下北方言語法考」『弘前大学人文社会』35: 53-65.
- 此島正年(1968)『青森県の方言』青森: 津軽書房.
- 酒井雅史(2012)「兵庫県神戸市方言における命令表現」『阪大社会言語学研究ノート』10: 18-29.
- 酒井雅史(2013)「高知県四万十市西土佐大宮における行為指示表現」『阪大社会言語学研究ノート』11: 28-41.

- 佐藤和之編 (2003)『青森県のことば』東京：明治書院。
- 畑井千佳子 (1981)「下北の方言についての一考察」『弘前学院大学国語国文学会学会誌』7: 56-62.
- 姫野伴子 (1997)「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要 教養学部』33(1): 169-178.
- 牧野由紀子 (2008)「大阪方言における命令形の使用範囲—セエ・シ・シテをめぐる—」『阪大社会言語学研究ノート』8: 55-74.
- 牧野由紀子 (2018)「命令形の使用範囲とその変化—五箇山方言から見る—」『社会言語科学』21(1): 317-334.
- 森勇太・平塚雄亮・中村光 (2012)「若年層の命令形の使用範囲—栗東市方言・福岡市方言・湖西市方言の対照から—」『阪大社会言語学研究ノート』10: 1-17.

【付記】

本稿の直接的なデータは国立国語研究所「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」プロジェクトと人間文化研究機構広領域連携型プロジェクト「方言の記録と継承による地域文化の再構築」の事業による2018年のフィールドワークに基づくものだが、そこでの行為指示表現調査の実施、および分析にあたっては、2016年度、および2017年度「弘前大学サテライトキャンパス滞在型学習支援事業」の助成を受けて行ったフィールドワークが参考になったところが多い。むつ市企画政策部市民連携課担当者、およびご協力いただいた多くのむつ市田名部方言話者の方々に感謝申し上げます。

方言と民俗文化史—産婆の呼称とその背景

小池 淳一¹

はじめに

言語と民俗、あるいはもう少し具体的に、方言と民俗文化史とはどのようにかかわるのであるだろうか。本稿はそれを模索する試みの一端である。

言語が音声表現であることは近代科学としての言語学の大前提であろう。しかし、それは社会的なものでもあり、ヒトの発した音声がどのような意味として捉えられるかは、音声としての性質以外にもさまざまに考慮しなければならない要素があることも明らかである。

ここでは日本の民俗学がかつて方言、その中でもとりわけ名詞に強い関心を寄せていたことをふり返り、その関心の根底にはどのような意識があったかを最初に確認してみたい。第1節は主としてその検討にあてられる。第2節では産育習俗に関わる名詞と関連する生活文化のデータを整理する。そして第3節で、そこから引き出せる民俗的な心意について確認し、方言と民俗文化史との関係を明らかにしたいと考える。

本稿でとりあげる産育習俗は主として東北地方の資料であり、本稿のきっかけとなった調査も2018年8月に青森県むつ市においておこなったものである。本稿の問題意識は、その際に方言調査と並行しておこなった民俗調査に起因している。内容・分析方法の面で言語学的な考察とは全く無関係ではあるものの、調査の場、資料の把握の時点での“始原”を共有していることをまず、確認しておきたい²。

その際に筆者は、昭和21（1946）年生まれのS.S氏（女性）から産育習俗に関する聞き取りをおこなった。病院での出産の経験者であり、かつて1960年代に行われた方言調査で確認された産婆（助産婦）を示す語であるテンニャクババ、もしくはテンガクババを確認することはできなかった。この語については、1967年の方言調査の結果報告では漢語語彙とされており、また既に若年層からの聞き取りはできていない（日野 1967: 171-173）。一方、下北半島をはじめとする青森県域の民俗調査でも注目されており、関連する産育習俗のデータが蓄積されている（例えば長谷川（2007: 217））。テンニャクババ・テンガクババという単語自体は、生活の中から忘却されかかっているものの、関連する民俗事象とともに、この単語とそれに関連する地域の民俗文化を探る手がかりは残されているとあってよい。以下、そのことを確認しつつ、論を進めていきたい。

¹ こいけ じゅんいち：国立歴史民俗博物館・教授（koikej@rekihaku.ac.jp）

² 調査が行われた「場」が、地域における歴史文化を伝え、育む「場」でもあることについては既に指摘している。小池（2019）を参照されたい。

1 方言と民俗学—民俗語彙の意図と可能性

民俗学において、その対象となる民俗事象の整理と分析に、地域の生活のなかで用いられる名詞が指標とされてきたことは既に忘れられつつある。しかし、『総合日本民俗語彙』（1955年）に明らかのように、多くの民俗データが名詞、すなわち民俗語彙として把握され、蓄積されていることは、民俗学の形成期における顕著な特色であった。それはこの書の序文では「もう文献の上からは中世以後消え果てたと思う古語が、辺土において口言葉に残っているということは勿論、単なる文献上の古語を保存するだけでなく、昔から我々の知識の、殊に文化人の文字を取り扱う者の知識の中から、逸脱してしまった言葉が、現在はまだ長い間の伝統を負うて、直接に関係のある人ばかりの間に持ち伝えているという事実気づいたのであります」（柳田 1955: 3-4）と述べられている。すなわち古語の残存という方言の価値や意義として知られている点にとどまらず、文字に記録されにくい知識の指標としての意義があるという主張であった。

この民俗語彙について日本における民俗学を創唱し、数多くの基盤作りに寄与した柳田國男は、その収集、編纂にあたっての基礎的な態度について、以下のように述べている。

第一には生きて居る言葉でないと採らない。以前老人などがさう謂つて居たといふだけのものは、何か解説の参考になると思ふ場合の外は、別に控へて置くまでも此中には入れない。…（中略）…第二には大槻氏松井氏などの最大の辞典に出て居る言葉は、意味がちがつて居るか又は誤つて居らぬ限り、もう一ぺん此方に載せようとはしなかつた。…（中略）…それから第三には形容詞や動詞副詞、殊に感動詞と呼ばれる短い語や文句には、可なり古来の精神生活を、確かに運搬して居るなと感ずるものがあるつても、他にも是からも自在に使用せられるものだから、この民俗語彙の中に入れるのは不当だと思つて、別にこればかりを蒐録しなければならぬと認めつゝも、解説以外の目的には是を並べて置かうとしなかつた。（柳田 1999[1947]: 346-347）

すなわち、生活の中で用いられている語で、国語辞典類に採られていないもの、そのなかでも形容詞や動詞、副詞、感動詞などは最初から除外しての編纂事業であった。必然的に民俗事象の名詞に表現されるものが対象となり、その名詞を手がかりにして、民俗をとらえようとするのが、民俗学の基礎的な態度となっていたのである。

そしてこのことは、戦前の民俗学が、方言研究とある面では軌を一にしつつも、別の志向を持っていたことをよく示している。例えば柳田國男の還暦を記念して開催された日本民俗学講習会でも「方言研究は常民生活およびその背景—歴史的背景をまで窺はしめる可能性を有つてゐることがわかるのである。文献を絶した彼等の生活の今日までの道筋が、彼等の言語によつて遡り得られる部分も少くはないであらうといふ推測もこゝからつけられるのである。」（後藤1935: 237）とされ、「民俗学と方言研究との関係は、前述の如く密接にして不離である。柳田先生は民俗学の資料の分類に（採集にも）方言を利用しようといふ念願を持つて居られるが、

今日町の者が忘れて了つてゐる語で農民だけが使用してゐる語や、信仰や道義観念、或ひは細かい心意上の内容の区別のついてゐる語は可なり多いのである。要するに方言そのものに民俗学の対象としての価値があるばかりでなく、それを利用応用する方面にも、役立つ可能性があるのだから、民俗学徒は是を閑却してはならないのである。民俗学の調査及び研究に方言名辞を援用することは、日本民俗学徒の忘れてならぬ金鍵である。」（後藤 1935: 241）と述べられたように、方言の調査研究と近接しながら、その応用やそれ以上の可能性を見出していたのである。

しかし、こうした日本列島全体を視野に入れて、民俗語彙を指標として民俗事象そのものの分析、特にその史的変遷の解明を行う方法は、一定の地域社会のなかで、民俗事象相互の有機的な連関を重視し、地域共同体という限定のもとに、民俗を把握するという方法が主流を占めていくなかで、顧みられなくなっていった。それは民俗の形成や存続の社会的な基盤を精緻にとらえようとする問題意識に支えられていたといえよう。民俗事象の指標としての民俗語彙にこだわることよりも、より民俗事象の内容とその構成に踏み込むという研究の進展ということもできるだろう³。

そのなかで、民俗語彙の復権を主張する立場もないわけではない。そのいくつかの主張は、傾聴に値するものがある。以下、検討しておこう。

岩本通弥は、「現代民俗学への方法論的転回」（岩本 1980）なる論考において、日本民俗学の方法論は民俗語彙による資料操作がその本質であるという立場から、その見直し、復権を説いている。ただし、岩本は民俗事象の指標として民俗語彙に着目するのではなく、「習俗の一要素である言葉を、その「命名の動機」を通して比較することによってはじめて民俗の本質なる部分が浮び上がってくる。」（岩本 1980: 67）と主張する。「単に言語を民俗の指標つまり「記号」として扱うのではなく、そこに命名といった常民の心意すなわち「ものの見方」を分析することによって日本人の考え方や感情（およびその変遷）が把握されてくるのである。」（岩本 1980: 68）という見解は、日本人なる範疇がどのように設定され、その「ものの見方」の分析がどのようになされるのか、といった点により考究を深めていく余地があるが、指標として民俗語彙をとらえるのではなく、ある視点の象徴として民俗語彙が存在するのだという提言は注目すべきであろう。

岩本のここでの議論は、民俗の内面化とその主体である個人への注目というかたちで伸びていくが、そのなかで民俗語彙も一定の場所を占めることになる。「実は民俗語彙による方法とは客観と主観とを結ぶ「認識」そのものを分析するものであり、また民衆の「語源を知らんとする欲求」とは民俗の価値の内面化つまり民俗を合理的に行為するための意味付けにほかならない」（岩本 1980: 82）という注意は、民俗語彙をめぐる認識として、多くの可能性を引き出すものとして銘記されなければならない。その際に豊富に蓄積された名詞を中心とする民俗語彙の記録との接続を意識することが求められるだろう。

³ 民俗学が民俗語彙を積極的に用いなくなっていく過程については福田（1984）を参照。

その点を具体的に考える前に、民俗語彙をめぐる方法的な議論についてもう少しみておこう。鎌田久子は「民俗学と方言」（鎌田 1986）という言語学の講座に執筆した論考において、民俗語彙に柳田國男が込めた研究上の意図を確認、参照し、語彙と習俗の内容との関係に留意して、検討の可能性について述べている。ここで鎌田は、民俗語彙は同一でもそれが示す習俗は多様な場合と、それとは逆に、習俗は類似していてもそれを示す民俗語彙が多様なものとなっている場合を具体的に取り上げ（前者は婚姻習俗における嫁・婿の同行者である「ツレ嫁・婿」、後者は呪文・呪詞である「クチ」「フツ」）、その奥に地域社会の人々の意識を見出すことを主張している（鎌田1985: 238-252）。

鈴木寛之も民俗学における語彙研究に新たな可能性を見出す作業をおこなっている。「民俗学における語彙研究の視点について」（鈴木 1995）は、語彙偏重への批判に対しての反批判を意図し、柳田の言語論全体を参照し直しながら、「言葉にまつわる『細々とした分化』の追究」（鈴木 1995: 41）が課題であると述べている。それは「ある個人の中での標準語と方言という二種の言葉のせめぎ合いの問題」（鈴木 1995: 43）として、民俗学の重要な課題として浮上する。ここでも改めて民俗語彙に着目することで、民俗学的な認識が革新されるという主張がなされている。

以上、民俗語彙、すなわち地域社会で一定の民俗事象を背景とする方言（名詞）を考える視点について、これまでの民俗学における問題意識を取り上げ、確認してきた。ここでの検討からは、民俗語彙を人間から切り離すのではなく、地域や人間主体と関わらせてとらえていくべきであるという姿勢が示されている、と集約できよう。冒頭でふれたように次節では具体的に産婆をさす民俗語彙を対象に考察を進めていきたい。

2 産婆の呼称—基本的な視点と下北半島の伝承例

産婆を出産における介助者として位置づける医学的近代的な視点は、民俗学の立場からすると不十分であるとされている。柳田國男は、はやくこのことを、産婆をさす方言に着目することで指摘していた。柳田によれば各地の産婆をさす名前は、この職業の発生や社会的な地位を推定する材料であるだけでなく、誕生をどのようなものととらえていたか、を知る手がかりになるとされている（柳田 1927）。この指摘に沿って産婆をさす方言、民俗語彙が収集され、（柳田・橋浦 1935: 26-31）では、18の名詞と関連する2つの習俗が集められている。さらに各県ごとの産婆の呼称と関連する習俗については（恩賜財団母子愛育会編 1975: 219-221）にまとめられている。

これらの資料集成をふまえて、鎌田久子（鎌田 1966）が産婆の民俗学的な位置づけについて考察し、民俗文化のなかの産婆は、職業的な助産婦だけではなく、生まれてくる子供と何らかの呪術的社会的な関係を持つものがあることを指摘している。さらに後者の産婆は呪力を持つもの、産神の司祭者、あるいは産神の憑代となる巫女的な性格を持つといってもよいかもしれないとした（鎌田 1966: 57）。この産婆が、かつては実際的な技術だけでなく、それに加

えて呪術にもかかわる存在であった、という見解は、基本的にはその後の産育習俗研究でも踏襲されている（鎌田ほか 1990: 145-156；湯川 1990；板橋 2007: 89-110；板橋 2013）。

産婆の呼称の変化、平準化はこうした産婆の民俗的な役割を考える手がかりの消滅でもあったといえる。そしてそのことは地域における民俗文化史の問題とも関わってくる。一定の文化的な共通性を持つ地域における習俗およびそれに伴う民俗的な心意や意識の変化は、習俗をめぐる民俗語彙を意識することで解明できる部分がある。それは、かつての民俗語彙や方言を材料もしくは指標とした民俗文化の変遷ではなく、地域文化における習俗の変化とその背景にある観念の変容であった。このことを意識して、地域社会に伝承された方言と民俗とを考える必要があるだろう。以下、そうした問題意識のもとに、下北半島の民俗を考えていきたい。

まず、下北半島における産婆をさす民俗語彙を確認しよう⁴。下北半島における組織的網羅的な民俗調査は1970年代前半の青森県教育委員会による民俗資料緊急調査（青森県教育委員会編 1971, 1972, 1973, 1974）、1970年代末から90年代の青森県立郷土館による調査（立花 1979；小熊 1980；豊島 1983, 1988, 1991, 1996）、青森県史編さん民俗部会による2000年代の調査と大きく3つのピークがあり、先行する民俗調査の内容をふまえつつ、現地調査による聞き書き資料が蓄積されている。

そこでは、それぞれに産婆の呼称が調査されている。青森県教育委員会編（1971）によれば、佐井村からは「産婆は、正式の人はいないが経験のある者が頼まれ、出産から数ヶ月間は、よく嬰兒の世話をした。産婆のことをテナックとか、テナックババといった。」（青森県教育委員会編 1971: 152）と報告されており、この語は、風間浦村易国間（同前: 153）、東通村日名、同村小田野沢、同村尻屋（青森県教育委員会編 1972: 131, 133, 135）でも確認され、上北郡に属するものの下北半島のつけねに位置する六ヶ所村尾駈、同村鷹架（青森県教育委員会編 1973: 151, 155）、同村二又、室ノ久保、中志（青森県教育委員会編 1974: 128-129, 131）でも同様であった。

陸奥湾に面した西通り先端部の脇野沢村九艘泊・芋田でも「テナック、テナックババ」であり（立花 1979: 27）、津軽海峡に面した北通りの風間浦村蛇浦でも「テナックババ」と称していたのが、後に「トリアゲバアサン」となったと報告されている（豊島 1988: 27）。下北半島全域にわたって、かつては産婆をテナック（ババ）と言ったことが確認できる。

次に出産に関する習俗の全体を確認しよう。むつ市奥内の例（豊島 1996）を中心に要約しながら述べ、次いで下北半島の他の地域の注目すべきデータを掲げていく。

むつ市の奥内では、免許はないが、経験者の老婆が産婆の代わりをし、テナックばあさん、テナックばばと呼ばれていた。戦争前後の出産は座産であった。この際の出産場所をサントの巣と呼ばれ、ぼろ布を藁の上に敷いた。昭和35年の出産時には布団の上で産んだ。

産まれた赤ん坊をニガッコと呼び、産湯はテナックがつかわせてくれた。産後4日から5日、あるいは7日が過ぎると巣から布団に移る。これをマクラビキといった。この日にテンニ

⁴ なお、民俗語彙をはじめ、本稿における民俗調査報告の引用、参照に際しては、元の報告での表記をそのまま用いることを原則とした。ただし、漢字は通用のものに改めて記すこととする。

ヤクがサント（産婦）や子供を洗ってくれた。またマゴ（孫）ブルメエと称して、サントが実感から婚家に戻った際にテンニャクババを呼んで膳を作って（特別な料理を用意して）祝った。

サントが出ると、その家族は山仕事には21日間行かなかった。田畑の仕事は構わなかった。山仕事をしている人はサントのいる家には入らなかった。

このように下北半島においては、近代的な制度に基づく産婆以外のテンニャクババが昭和30年代までは活躍しており、出産前後から、産婦や赤ん坊の世話をし、マクラビキ、マゴブルメエなどの区切りの儀礼にも参加していたことがわかる。奥内は内陸の集落で田畑の作業以外に山仕事があり、それに関連して産の忌の観念も存在していたことがわかる。

六ヶ所村尾駈でも出産後5日目をマクラビキと称して、この日に産婦は産室から出てきて座敷で食事をする。その際にはテンニャクにお礼を出すしきたりであった（青森県教育委員会編 1973: 152）。東通村尻屋ではオビラキという生後七日目の祝いに嫁の親、兄弟とともにテンニャク婆を呼んだ（青森県教育委員会編 1972: 135）。出産の場において実際の介助にとどまらず、儀礼的精神的にテンニャクババが寄り添うことは普遍的であったらしい（長谷川 2002: 108）。

沿岸部の漁村でも産の忌は意識され、例えば東通村小田野沢では、出産のあった家ではその年一年、大工を入れるな、といい、また男は三日間、女は一週間、神仏を拝まない。男は自分の家で子供が生まれると、三日間はどんなに忙しくても漁には出なかった（青森県教育委員会編 1972: 133）。もし、出産のあった家に入ってしまうと、漁師や大工は仕事を休まねばならなかった（豊島 1983: 32）。これを浜仕事・山仕事では、出産は死亡よりも嫌われたと脇野沢村九艘泊などでとらえていた（立花 1979: 28）。神詣りだけではなく、産婦の夫をはじめとする周囲の男性の生業にも産の忌が広く意識されていたのである（長谷川 2003: 110）。

先にも述べたように、テンニャクが果たした役割で、特に注目すべきなのは、無事に出産するために、あるいは一連の出産習俗の過程で呪術的な行為を担っていたことである。以下、下北半島の事例を掲げる。

東通村小田野沢では産婦の苦痛がひどい時、テンニャク婆は高野山から取り寄せたという御護符を飲ませた（青森県教育委員会編 1972: 133）。同村目名では産婆がトネかけて安産させたといい（同前: 132）、このトネは不詳だが、あるいは「唱え言」の意で何らかの呪的な言葉ではなかっただろうか。

六ヶ所村尾駈では、難産の時にテンニャクが子持石（小石を中にくわいこんだ石）と熊のヒャクシロ（熊の腸をカラカラに乾燥させたものという）をふろしきにくるんで産婦の腹帯にはさみ、首には安産のお守りを下げさせ、クマデをもって産婦の下腹部をさすってやったという（青森県教育委員会編 1973: 151）。同村二又でも、難産のときは、草相撲の力士が使った紅白の飾りマワシを腹にまくか、熊の緒といって乾燥された熊の腸を腹にまいてくれたと報告されている（青森県教育委員会編 1974: 128）。この熊の腸を用いる呪術はむつ市の二又や大畑町でも確認されている（長谷川 2007: 219）。

なお、テンニャクの家では子安様を安産の神として祭る場合もあった（青森県教育委員会編

1974: 131) ほか、大正初期から、子安神信仰と弘法大師信仰とが結合した講が形成されていたこと(長谷川 2004, 2005, 2007: 216-217) は、こうした出産をめぐる信仰がさまざまな条件のもとで再生産され、進展していたことを示している。

以上のように下北半島の産育にかかわる民俗のなかでもテンニャクババとそれに関連するものを見てくると、医学的な産婆以前に、呪術や信仰と関わる存在として重要な位置を占めていたことがわかる。さらに産の忌のような表現で出産という行為、現象が、生業との関りのなかで、民俗的な世界観あるいは他界観とも結びついてきたことがうかがえる。テンニャクババという民俗語彙はそうした連環の鍵にあたるものといえよう。

次節では以上のことをふまえつつ、北奥羽地方に視野を広げて考察を進める。そこでは、出産に関わる呪術的な側面を担ったテンニャクババをはじめとする前近代の産婆の民俗文化史的な意味について考えてみたい。

3 産育習俗とその周辺

こうした産婆が担った出産に関する呪術的な側面について、北奥羽地方における事例で注目すべきものとして、熊の腸と掌がある。前節でみたように、下北半島でも熊の腸を難産に際して用いる例があったが、青森県津軽地方でも、熊の腸を布にくるんで腹に巻いて安産を願ったことが昭和戦前期の事例として報告されている(佐々木 2016)。岩手県二戸地方でもコナサセバサマが持っていた道具のなかに熊の掌があり、それを安産の呪いに用いたらしい(大島 1982)。

熊の腸や掌は、日常生活のなかで簡単に入手できたとは考えにくいので、猟師などからの入手経路が想定される。呪術的な産婆はこうしたさまざまな生業とも関わりを持っていた。そうした点で、マタギ(猟師)集落として知られる下北半島の旧川内町畑では、青年団が大正9年に建てた「産婆代々の墓」があり(長谷川 2003: 109-110)、呪術的な産婆が、村落のなかでも出産に関わる世代との交流に支えられて活動していたことがうかがえる。

胎盤や臍の緒の処理も産婆に委ねられ、その方法や処理場所、それに伴う感覚は呪術を支える民俗的な観念を示している。エナを「殺す」として、埋めたところに木の枝をさすとか、呪いをかける、便所などの人がよく踏むところに埋めるなどとされた。さらに難病にかかった際に臍の緒を煎じて飲ませる場合もあった。旧脇野沢村小沢では赤ん坊は生まれる前にイナババに尻をつねられてくるといい、それが蒙古斑だといっていた(長谷川 2007: 219)。なお、岩手県二戸地方では、低湿地に生えるスゴロという葦類を用いて臍の緒(エナヅル)を切ったといい、その遺例がいくつか確認されている(天野 1994)。

こうした産婆が保持し、状況に応じて施してきた呪術は、その素材やそこに示されている観念から、地域の生業や生態と結びついており、一種の世界観・他界観としてとらえることが可能である。このことと関連すると思われるのは説話の伝承との関わりである。野村敬子は産婆が、さまざまな説話を語った事例を、山形県下を中心に報告している(野村 2008)。山形県真室川町新町の富樫イネ媼は、明治34年の生まれであったが、出産期の女性たちが集う山の神講の有力メンバーであり、この地の産婆「五郎婆」から多くの昔話を伝承していた。その多くは、「神様ムガシ」と称され、出産を中心とする内容であったという。同時に当山派修験の影響も

受けていたとも指摘されているので、説話（昔話）の伝承者であったとともに修験道の知識と産育習俗との接点となっていたことが明らかである。ここでの産婆は宗教者でもあり、民間説話を伝える存在でもあった。

東北の地から離れるが、滋賀県栗東町北仲小路では回国の尼僧がしばしばこの地域の出産に際して夜伽としてさまざまな説話を語ったという（野村 2017）。出産に際しては具体的な介助だけではなく、精神的な力添えがおこなわれ、それもまた産育習俗の一部をなしていたと思われる。

さらに大きく、民俗的な儀礼の問題として産婆の位置づけについて考えておきたい。従来の民俗研究の成果を整理し、構造的にとらえると、出産・産育をめぐる諸儀礼は、死や葬送をめぐる諸儀礼と対応関係にあることが指摘されている。この問題を長年追及した大藤ゆきは、その対応・類似を、忌や魂の意識に即してとらえることを試みている（大藤 1999a）。なかでも産婆にかかわるものとしては、葬儀に際して特に作られる喪屋と産小屋・産室とが対応しており、産室にはシメを張り、当事者以外では産婆しか入れない（大藤 1999a: 264）とか、産婆を夜間に迎える際には必ず二人でいくことが、葬式の知らせの使いは必ず二人で担当することと対応するなどが挙げられる。また葬式の際に儀礼的に泣く泣女を産婆が務める場合もある（同前: 269）。

また着物に注目すると、千葉県印旛郡八生村で、初宮まいりの際に晴着の上に重ねるイナギ（胞衣着）は取り上げ婆が贈ることになっていた（大藤 1999b: 286）。さらに子供が生まれてから急いで縫うウブカタビラ（産着）は、トリアゲ（産婆）が縫うとすることが多い。山形県酒田市の飛島では、人が死んで入棺する際に、バ（婆）ノキモノといって、産着と同じキモノを一枚縫って入れる。それは生まれるときに三途の川の姥から借りてきたものだから、返さねばならないといった（同前: 290）。

日本仏教においてこの世とあの世との境に、三途の川があり、そのほとりに死者の着物を奪う奪衣婆がいるということは、唱導文芸や地獄絵をはじめとする庶民的な絵画などで説かれており、民俗的にも受容されている。山田巖子はこうした仏教唱導の受容を、奪衣婆に着目し、姥神も視野に入れながら、東北地方、特に青森県域で追尋し、検討を加えている（山田 2014）。地獄絵などの画像と伝承的な語り―山田の用語では〈口承〉―とが相互補完的に影響し合い、民俗的な観念が生み出され、受け継がれてきたのである。その中で興味深いのは、胎児の蒙古斑がエナババにつねられたあとで、死者の死着物の襟元に産着の小布を縫いつけるのはエナババのためとする嶋田忠一の報告（嶋田 1997: 34）に着目し、このエナババとは奪衣婆であるという指摘である（山田 2014: 149）。これは先に胎盤や臍の緒の処理について取り上げるなかで、参照した旧脇野沢村小沢の事例（長谷川 2007: 219）と重なり合う。生と死の境界にあって、この世に生まれてくる際には産婆による着物の授与があるのに対して、あの世に旅立っていく際には奪衣婆によって着物が奪われるという構図をここで見出すことができる。これは民俗文化のなかの大まかな見取り図であるが、ここでは下北半島における産育習俗においても確認が可能であるという点を重く考えておきたい。つまり、伝統的な呪術にかかわるテンニャクババは、そうした生死の境目における女性の象徴的な役割を示す存在なのである。

おわりに

本稿では産婆をさすテンニャクババという語を入口に、下北半島の産育習俗を通覧し、そこに見出すことのできる産婆の呪術的な役割について検討した。産婆が駆使したこうした呪術は、

地域における生業や説話、仏教唱導とも関わり、民俗的な心意の形成や継承とも深く関わっていたことが見通せた。しかし、テンニャクババという語が忘れられ、それとともに産婆が果たす役割のうち呪術的な記憶につながる側面が失われて、医療技術者としての産婆しか意識されなくなっている。このことは地域文化における習俗の変化とその背景にある観念の変容としては大きな画期である。ひとつの方言、民俗語彙の背景にはこうした豊かな伝承と地域文化が横たわっていた。言語の消滅はそれと密接にかかわる多くの地域文化の衰亡の危機でもある。そうであるとすれば、地域文化を他の方法で継承することが模索されるべきではないだろうか。

最後に本稿で取り上げてきた近代医学以前の呪術的な機能をも担う産婆が、なぜ下北半島においてはテンニャクババ、あるいはテングクババと呼ばれていたのかについても触れておこう。こうした呼称の起源はどこにあるのかについては、柳田國男らは異なる見解を提示している。すなわち、民俗学的に産婆を最初に注目した「産婆を意味する方言」では「奥羽の例を一瞥すると、意味のはつきりせぬのは津軽地方のテガクババ、之に対して外南部のテヤクババ、若しくはテンニャクである。典薬かといふ説もあつたが、私は些しも成程といふ気にならぬ。」(柳田 2001 [1927]: 410) と述べていた。産婆をさすテンニャクババが古代の律令にもある医薬をつかさどる官庁の呼称からきたものという見解には否定的であった。しかし、8年後の『産育習俗語彙』では一転して「テガクババ 陸奥の弘前方面では、産婆のことをかう云つて居る。(青森県誌) 又テンヤクババテンニャクババ等とも云つて居る。明白ではないがテンヤクとは医師の意であらうか。」(柳田・橋浦 1975 [1935]: 29) とする。律令官制に由来する語が、医者、さらには産婆をさすものとして伝えられてきたのかもしれない、という推測がなされているわけである。

残念ながら、本稿の検討でもこの問題に対する明快な解答を提出することはできない。ここでは北奥羽地方、特に現在の青森県域にかつては広く、テンニャクババという呼称がいきわたっていたことを前提とし、その語自体のたどった道のりではなく、その名で呼ばれた存在の民俗文化史を考えてみたことにとどまるからである。その点で下北半島をはじめとするこの地域での産婆の呼称は、位相の異なる、いわば言語文化史的な、さらなる考察が必要である。ただし、柳田はこのテンニャクババと並行してコナサセ(子産させ)という呼称が、遠く九州にもあることを例示している(柳田 2001 [1927]: 410-411) ことから、そちらが古く、北辺のテンニャクババの語はそれほど古いものではないのかもしれない、という推測も成り立つ。それ以上の考究は語彙史としての方言研究に委ねなければならない。

参考・引用文献

- 青森県教育委員会編 (1971) 『下北半島山村振興町村民俗資料緊急調査報告書(第一次)』 青森県教育委員会。
青森県教育委員会編 (1972) 『下北半島山村振興町村民俗資料緊急調査報告書(第二次)』 青森県教育委員会。
青森県教育委員会編 (1973) 『むつ小川原地区民俗資料緊急調査報告(第一次)』 青森県教育委員会。
青森県教育委員会編 (1974) 『むつ小川原地区民俗資料緊急調査報告(第二次)』 青森県教育委員会。
天野武 (1994) 「臍の緒を切る用具—スゴロ」 『結婚の民俗』 岩田書院: 135-177。
板橋春夫 (2007) 『誕生と死の民俗学』 吉川弘文館。

- 板橋春夫 (2013)「いのちの近代－トリアゲバアサンから近代産婆へ－」山田慎也編『近代化のなかの誕生と死』岩田書院: 17-67.
- 岩本通弥 (1980)「現代民俗学への方法論的転回」千葉徳爾編『日本民俗風土論』弘文堂: 65-86.
- 大島建彦 (1982)「コナサセバサマの道具－岩手県二戸市上斗米の事例－」『西郊民俗』99: 17-19.
- 小川直之 (2016)「生と死の民俗・再考」『民俗学論叢』31: 1-40.
- 小熊健 (1980)「人生儀礼」青森県立郷土館編『「鶏沢・有畑・浜田の民俗」調査報告書』青森県立郷土館: 32-39.
- 大藤ゆき (1999a)「生と死の対応」『子育ての民俗－柳田国男が伝えたもの－』岩田書院: 253-272.
- 大藤ゆき (1999b)「生と死のキモノ」『子育ての民俗－柳田国男が伝えたもの－』岩田書院: 281-293.
- 恩賜財団母子愛育会編 (1975)『日本産育習俗資料集成』第一法規.
- 鎌田久子 (1966)「産婆－その巫女的性格について－」『成城文藝』42: 47-60.
- 鎌田久子 (1986)「民俗学と方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学(3)方言研究の問題』国書刊行会: 229-253.
- 鎌田久子・宮里和子・菅沼ひろ子・古川裕子・坂倉啓夫 (1990)『日本人の子生み・子育て－いま・むかし－』勁草書房.
- 小池淳一 (2019)「青森県むつ市海老川町の曙町集会所」『西郊民俗』246: 26-29.
- 後藤興善 (1935)「方言研究と郷土人」柳田國男編『日本民俗学研究』岩波書店: 233-258.
- 佐々木達司 (2016)「医師が見た古い産育習俗－『津軽口碑集』を読む⑨－」『津軽の民話 落ち穂拾い』9: 4-6.
- 嶋田忠一 (1997)「人生儀礼」東通村教育委員会編『東通村史 民俗・民俗芸能編』東通村: 31-54.
- 鈴木寛之 (1995)「民俗学における語彙研究の視点について」『信濃』46(1): 35-44.
- 立花勇 (1979)「人生儀礼」青森県立郷土館編『「九艘泊・蛸田・芋田の民俗」調査報告書』青森県立郷土館: 27-33.
- 豊島秀範 (1983)「人生儀礼」青森県立郷土館編『「小田野沢の民俗」調査報告書』青森県立郷土館: 31-45.
- 豊島秀範 (1988)「人生儀礼」青森県立郷土館編『「蛇浦の民俗」調査報告書』青森県立郷土館: 27-49.
- 豊島秀範 (1991)「人生儀礼」青森県立郷土館編『「上小倉平・下小倉平の民俗」調査報告書』青森県立郷土館: 20-36.
- 豊島秀範 (1996)「人生儀礼」青森県立郷土館編『「奥内の民俗」調査報告書』青森県立郷土館: 22-36.
- 長谷川方子 (2002)「産育」青森県環境生活部文化・スポーツ振興課県史編さん室編『下北半島北通りの民俗』青森県: 105-111.
- 長谷川方子 (2003)「産育」青森県環境生活部文化・スポーツ振興課県史編さんグループ編『下北半島西通りの民俗』青森県: 107-113.
- 長谷川方子 (2004)「四国香園寺子安弘法大師像の下北半島への伝播－弘法大師信仰の受容と変容－」『青森県の民俗』4: 38-83.
- 長谷川方子 (2005)「子安弘法大師信仰の担い手たち－漁民の交流を背景に－」『青森県の民俗』5: 73-88.
- 長谷川方子 (2007)「産育」青森県史編さん民俗部会編『青森県史 民俗編 資料下北』青森県: 216-225.
- 日野資純 (1967)「方言の語彙」九学会連合下北調査委員会編『下北－自然・文化・社会－』平凡社: 170-174.

- 福田アジオ (1984) 『日本民俗学方法序説—柳田国男と民俗学—』 弘文堂.
- 野村敬子 (2008) 「出産の場と昔話の語り手—富樫イネさんの場合—」 『語りの回廊—「聴き耳」の五十年—』 瑞木書房: 213-236.
- 野村敬子 (2017) 「産屋の伽」 『女性と昔話』 岩田書院: 272-277.
- 安井真奈美 (2011) 「墮胎、避妊と近代産婆の登場」 同編 『出産・育児の近代—「奈良県風俗誌」を読む—』 法藏館: 61-79.
- 安井真奈美 (2013) 「新産婆の登場」 『出産環境の民俗学—〈第三次お産革命〉にむけて—』 昭和堂: 19-54.
- 安井真奈美編 (2014) 『出産の民俗学・文化人類学』 勉誠出版.
- 柳田國男 (2001 [1927]) 「産婆を意味する方言」 『柳田國男全集(第27巻)』 筑摩書房: 409-411.
- 柳田國男 (1999 [1947]) 「民俗語彙事業」 『柳田國男全集(第16巻)』 筑摩書房: 346-352.
- 柳田國男 (1955) 「序」 財団法人民俗学研究所編 『総合日本民俗語彙(第一巻)』 平凡社: 1-6.
- 柳田國男・橋浦泰雄 (1975 [1935]) 『産育習俗語彙』 国書刊行会(復刊).
- 山田巖子 (2014) 「仏教唱導と〈口承〉文化—奪衣婆をめぐる—」 入間田宣夫・菊地和博編 『講座東北の歴史(5) 信仰と芸能』 清文堂: 131-154.
- 湯川洋司 (1990) 「七つ前の子どものいのち」 竹田旦編 『民俗学の進展と課題』 国書刊行会: 227-247.

文法項目データ集

文法項目データ集

本データ集の内容

このデータ集は、以下の文法項目の調査結果をまとめたものです（以下、掲載順にリストします）。

1. 主語標示
2. 目的語標示
3. 情報構造
4. 疑問詞
5. 時制・相（テンス・アスペクト）
6. 態（ヴォイス）1
7. 態（ヴォイス）2
8. 待遇1
9. 待遇2
10. 文タイプ
11. 形容詞述語文
12. 名詞述語文

なお、上記項目の調査には、国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（人間文化研究機構・機関拠点型基幹研究プロジェクト）のために用意された調査票を使用しました。

データは、「翻訳用例文（日本語標準語）」と「むつ方言訳」とを併記する形で掲載しています。データによっては、必要に応じて、「文脈」などの列が付け加えられている場合があります。

むつ市方言表記一覧

| | a | i | i | u | e | e | o | ja | ju | jo | wa |
|---|-------|------|------|-----|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | | | | | eに由来 | ai等に由来 | | | | | |
| ' | a | i | i | u | e | e | o | ja | ju | jo | wa |
| | あ | い | うい | う | いえ | え | お | や | ゆ | よ | わ |
| p | pa | (pi) | (pi) | pu | pe | pe | po | (pja) | (pjw) | (pjo) | |
| | ぱ | (び) | (ぶい) | ぷ | ぴえ | ぺ | ぽ | (びゃ) | (びゅ) | (びよ) | |
| b | ba | bi | bi | bu | be | be | bo | (bja) | (bjw) | bjo | |
| | ば | び | ぶい | ぶ | びえ | べえ | ぼ | (びゃ) | (びゅ) | (びよ) | |
| m | ma | mi | mi | mu | me | me | mo | (mja) | (mjw) | (mjo) | |
| | ま | み | むい | む | みえ | め | も | (みゃ) | (みゅ) | (みよ) | |
| t | ta | | | | te | te | to | | | | |
| | た | | | | てえ | て | と | | | | |
| d | da | | | | de | de | do | | | | |
| | だ | | | | でえ | で | ど | | | | |
| s | sa | ɕi | si | su | se | (se) | so | ɕa | (ɕw) | (ɕo) | |
| | さ | し | すい | す | しえ | (せ) | そ | しゃ | (しゅ) | (しよ) | |
| z | (za) | zi | zi | zu | ze | (ze) | zo | za | (zu) | (zo) | |
| | (ざ) | じ | ずい | ず | じえ | (ぜ) | ぞ | じゃ | (じゅ) | (じよ) | |
| c | (tsa) | tɕi | tsi | tsu | (tse) | (tse) | (tso) | tea | (tew) | teo | |
| | (つあ) | ち | つい | つ | (ちえ) | (つえ) | (つお) | ちゃ | (ちゅ) | ちよ | |
| n | na | ni | (ni) | nu | ne | ne | no | nja | (njw) | njo | |
| | な | に | (ぬい) | ぬ | にえ | ね | の | にゃ | (にゅ) | によ | |
| r | ra | ri | ri | ru | re | re | ro | rja | (rjw) | (rjo) | |
| | ら | り | るい | る | りえ | れ | ろ | りゃ | (りゅ) | (りよ) | |
| k | ka | ki | kʰi | ku | ke | ke | ko | kja | kju | kjo | kʷa |
| | か | き | くい | く | きえ | け | こ | きゃ | きゅ | きよ | くわ |
| g | ga | gi | gi | gu | ge | ge | go | (gja) | (gjw) | (gjo) | (gʷa) |
| | が | ぎ | ぐい | ぐ | ぎえ | げ | ご | (ぎゃ) | (ぎゅ) | (ぎよ) | (ぐわ) |
| ŋ | ŋa | ŋi | ŋi | ŋu | ŋe | (ŋe) | ŋo | (ŋja) | (ŋju) | (ŋjo) | (ŋʷa) |
| | か° | き° | く°い | く° | き°え | (け°) | こ° | (き°ゃ) | (き°ゅ) | (き°よ) | (く°わ) |
| h | ha | çi | (hi) | ɸu | he | (he) | ho | ça | (çw) | (ço) | |
| | は | ひ | (ふい) | ふ | ひえ | (へ) | ほ | ひゃ | (ひゅ) | (ひよ) | |

1. 主語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------------------------------------|
| 1 | ふと見ると、先生が机を運んでいた。 アレー、センセ《カ°》 ツィグエ ハゴンデェ イダ。 |
| 2 | ふと見ると、先生が立っていた。 アレー、センセカ° タッテイタヨ。 |
| 3 | いつも優しいのに、今日は先生が厳しかった。 イツツイモ ヤサシー センセーカ° キョーワ キビシカッタナー。 |
| 4 | 私のクラスは、先生が若い人だった。 センセ ワゲ ヒトダッタ。 |
| 5 | 太郎には大きな音が聞こえる。 タローサ オーキナ オド キゴエダズイジャ。 |
| 6 | 俺が倒れたら、世話してくれよ。 ワーカ° タオリェダラー セワシテェ キレロヨ。 |
| 7 | お前が倒れたら、俺が世話してやるよ。 オメカ° タオリェダラ ワーカ° セワシテヤル。 |
| 8 | あいつが倒れたら、だれが世話するんだろう。 アイカ° タオリェダラ ダー セワ スルンダベ。 |
| 9 | 太郎が倒れたら、だれが世話するんだろう。 タローカ° タオリェダラ ダーイ セワスルンダベナー。 |
| 10 | お父さんが倒れたら、大変だ。 オトチャン タオリェダラ タイヘンダナー。 |

1. 主語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11 | <p>弟が倒れたら、俺が世話してあげる。</p> <p>オンジャ タオリエダラ ワーイカ° セワシテヤル。</p> |
| 12 | <p>友達が倒れたら、ちゃんと世話してあげなさいよ。</p> <p>トモダジカ° タオリエダジ チャント セワシテヤリエヨ。</p> |
| 13 | <p>うちの犬が倒れたら大変だから、ちゃんと餌やっといてね。</p> <p>イーノ イヌカ° タオリエダラ タイヒェンダカラー チャント イェサ ヤッ テェ オギェヨ。</p> |
| 14 | <p>そこの看板が倒れたら大変だから、重りをつけときなさい。</p> <p>ソコニ アル カンバンカ° タオリエダラ タイヒェンダ。オモルイ ツィキエ デェ オギェヨ。</p> |
| 15 | <p>太郎がおもちゃを壊した。</p> <p>タロー オモチャ オワシタド。</p> |
| 16 | <p>川が島の真ん中を流れている。</p> <p>カワ シマノ マンナガ ナガリエデェルズィジャー。</p> |
| 17 | <p>太郎が池で泳いでいる。</p> <p>タロー イギェデェ オヨイテ° エルド。</p> |
| 18 | <p>池でおぼれて、太郎が死んだ。</p> <p>タロー イギェデェ オボリエデェ スィンダド。</p> |
| 19 | <p>ふと見ると、太郎が机を運んでいた。</p> <p>ヤー、ビックリスルナー。タローカ° ツィクエオ ハゴンデイダ。</p> |
| 20 | <p>よく聞こえなかったけど、誰が机を運んでいたの？</p> <p>ヨグ ワガナガッタキェドモ ダーレガ ツィグエ ハゴンデェ イッタノガナー。</p> |

1. 主語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|---------------------------------------|
| 21 | 俺じゃなくて、太郎が机を運んでいたんだよ。 |
| | イヤ イヤ，ダレデモナイ，タローカ° ハゴンデェイッタンダヨ。 |
| 22 | 太郎が机を運んでいた時，みんなはただ見ていた。 |
| | タローカ° ツイクエオ ハゴンデェイダトキ ミンナ タダ ミデェダノ。 |
| 23 | ふと見ると，太郎が歩いていた。 |
| | ヤー，ビックリシタ。タロー アルイデェア。 |
| 24 | よく聞こえなかったけど，誰が歩いていたの？ |
| | ダー アルイデェアノ。 |
| 25 | 俺じゃなくて，太郎が歩いていたの。 |
| | ワイデェ ネ，ワイデェ ネ，タロー アルイデェイッタ。 |
| 26 | 太郎が歩いていた時，お前は声をかけなかったの？ |
| | タローカ° アルイデェア トキニ ナーシニェ オメ コイエ カギェネノヨ。 |
| 27 | ふと見ると，太郎が倒れていた。 |
| | タイヒェンダ，タイヒェンダ，タロー タオリエデェアラ。 |
| 28 | よく聞こえなかったけど，誰が倒れていたの？ |
| | ダー タオリエデェアンダ。 |
| 29 | 花子じゃなくて，太郎が倒れていたの。 |
| | ダイダガド オモッタキャ タローカ° タオリエデェアンダ。 |
| 30 | 太郎が倒れていた時，お前は声をかけなかったの？ |
| | ナーシテェ タローカ° タオリエダ ドギニ コイエ カギェネノサ。 |

1. 主語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------------|
| 31 | 太郎が倒れた場所はどこだった？ |
| | タローカ° タオリエデェア ドゴ ドコダッタ。 |
| 32 | 太郎が倒れたら、お前が介護するしかない。 |
| | タローカ° タオリエダラ オメスイカ ネンデェネノガ カイコ° 。 |
| 33 | 太郎が倒れて、俺と病院に行った。 |
| | タロカ° タオレデ ワイド ビョインサ ヘデッテキタ。 |

2. 目的語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|---------------------------------------------------------|
| 1 | 太郎が窓を壊した。 タロア マタ° マド コワシタンダネ。 |
| 2 | 太郎が窓をたたいた。 ホラ タロア マド {タダイエデアネ/タダイエデダヨ}。 |
| 3 | 太郎が机を組み立てた。 タロア ヨグ ツグエ ツィグッタナ。 |
| 4 | 太郎は大きい音を聞いた。 {イノ/ウジノ} タロア キノー オックイ オド キーダンダッテ。 |
| 5 | 太郎には小さい声が聞こえるらしい。 ウェノ イノ タロア チサイ オド ナンデモ キコエルンダッテヨ。 |
| 6 | <太郎は>バスを待ってるんじゃないか ウェノ タロ イマ バス マッテダンダネ。 |
| 7 | うちのばあちゃんは英語ができる。 ウジノ ババ エイコ° デギルズイジャ。 |
| 8 | うちの妻は私の電話番号を覚えている。 {ウェ/ウジ} ノ カガ ワイノ デンワバンコ° オホ° エデア。 |
| 9 | 私は妻の電話番号を忘れてしまった。 ワ カガノ デンワバンコ° ワスイレデマッタ。 |
| 10 | 妻は酒を飲んだ。 カガ サゲ ノンデア。 |

2. 目的語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-------------------------------------------------|
| 11 | 妻は手を洗った。 |
| | カガ テ アラッタ。 |
| 12 | 太郎にはお金が要る。 |
| | ムスコア ジェンコ ネガラ カシタ。 |
| 13 | 私はお金がほしい。 |
| | ワ ジェンコ イッペ {ホスイ/ホシ} 。 |
| 14 | 隣の家の子どもは父親に似ている。 |
| | トナリノ ワラスイ トッチャサ ニエテル。 |
| 15 | うちの子はよく皿を割る。 |
| | ワノ ワラシャ サラ イッペ ワル。 |
| 16 | 隣の家の子どもはよくその家の皿を割る。 |
| | トナリノ ワラシャ ウェノ イノ サラ {オ/バ} ヨク ワッタ。 |
| 17 | 太郎はよくその家にあった皿を割っていたものだ。 |
| | (無回答) |
| 18 | うちに煎餅があったでしょ。太郎はあれを食べたんだよ。 |
| | アレ ミナ クッタノガ。 |
| 19 | 隣の家の子どもがうちの仏壇の煎餅を食べた。 |
| | イヤ, トナリノ ワラシイー キテサー, ウェノ ブツイダンノ センベー クテシマッタダネー。 |
| 20 | 太郎はうちにある皿を割った。 |
| | ウジニ アル サラバ ワッタ。 |

2. 目的語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------|
| 21 | 太郎が俺を見ている。 |
| | (無回答) |
| 22 | 太郎がお前を見ている。 |
| | (無回答) |
| 23 | 太郎が花子を見ている。 |
| | (無回答) |
| 24 | 太郎が俺の友達を見ている。 |
| | (無回答) |
| 25 | 太郎が犬を見ている。 |
| | (無回答) |
| 26 | 太郎が外を見ている。 |
| | (無回答) |
| 27 | 俺はお前を見ている。 |
| | ワー ナバ ミデア。 |
| 28 | 俺は太郎を見ている。 |
| | ワ タロバ ミデア。 |
| 29 | 俺は俺の友達を見ている。 |
| | ワ トナリノ コドモ《オ》 ミデア。 |
| 30 | 俺は犬を見ている。 |
| | ワ イヌ ミデア。 |

2. 目的語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|---------------------------------|
| 31 | 俺は外を見ている。 |
| | ワ ソドバ ミデア。 |
| 32 | お前は太郎を見ているけど、好きなのか？ |
| | ナ ハナコバ ミデアッタッテ スィギダンダガ。 |
| 33 | お前は俺の友達を見ているけど、どうしたの？ |
| | ナ ガイコクジンバ ミデアッタッテ ドシタド。 |
| 34 | お前は犬を見ているけど、好きなのか？ |
| | ナ イヌバ ミデアッタッテ スィギダンダガ。 |
| 35 | お前は外を見ているけど、どうしたの？ |
| | ナ ナガマド イデ ソド ミデアンダガ。 |
| 36 | 太郎は俺の友達を見ているけど、どうしたんだろう。 |
| | タロカ° ガイジンオ ミデルンダッテ ナシタンダベ。 |
| 37 | 太郎は犬を見ているけど、好きなのだろうか。 |
| | タロカ° イヌオ ミデアンダッテ スィギダンダベガナ。 |
| 38 | 太郎は外を見ているけど、どうしたんだろう。 |
| | タロカ° ソドバ ミデアッタッテ ナシタンダベナ。 |
| 39 | 俺の友達は犬を見ているけど、好きなのだろうか。 |
| | ワノ トモダジア イヌバ ミデアンダッテ スィギダンダベガナ。 |
| 40 | 俺の友達は外を見ているけど、どうしたんだろう。 |
| | ワノ トモダジ ソドバ ミデアンダッテ ナニシタベナ。 |

2. 目的語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|----------------------------------------|
| 41 | 犬が外を見てるけど、どうしたんだろう。 |
| | ウェノ イノ イヌア コヤン ナガガラ ソド ミデッタッテ ドシタベ。 |
| 42 | 太郎は花子を見ている。 |
| | タロカ° ハナコバ ミデア。 |
| 43 | 俺の友達の子供達を見ている。 |
| | ワノ トモダチカ° ワラシドバ ミデア。 |
| 44 | 犬が鹿を見ている。 |
| | ウェノ イヌカ° シカバ ミデア。 |
| 45 | 石がガラスを割った。 |
| | イシデ ガラスカ° ワレダ。 |
| 46 | お前は俺を見ているけど、どうしたの？ |
| | オメ ワイバ ミデアッタッテ ドシタド。 |
| 47 | 太郎が俺を見ている。 |
| | タロカ° ワイバ ミデア。 |
| 48 | お前の友達が俺を見ている。 |
| | ナノ トモダジカ° ワイバ ミデア。 |
| 49 | 犬が俺をじっと見ているけど、おなかすいたんだろうか。 |
| | ウェノ イノ イヌア ワイバ ズイット ミデアッタッテ ハラ ヘッタノガナ。 |
| 50 | 太郎がじっとお前を見ているぞ。 |
| | タロカ° ナバ ズイット ミデア。 |

2. 目的語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|----------------------------|
| 51 | 俺の友達がじっとお前を見ている。 |
| | ワイノ トモダジカ° ナバ ミデア。 |
| 52 | 犬がお前をじっと見ているけど、どうしたのだろうか。 |
| | イヌカ° ナバ ズィット ミデアンダッテ ドシタベ。 |
| 53 | 俺の友達がじっと太郎を見ている。 |
| | ワノ トモダジカ° タロ《オ》 ズィット ミデア。 |
| 54 | 犬が太郎をじっと見ている。 |
| | イヌカ° ズィット タロ《オ》 ミデア。 |
| 55 | 犬がじっと俺の友達を見ている。 |
| | イヌカ° ワノ トモダチオ ミデア。 |
| 56 | いや、太郎は皿を割ったんだよ。 |
| | タロワ コップデナグ サラオ ワッタ。 |
| 57 | 花子は何を割ったの？ |
| | ハナコー ナンバ ワッタド。 |
| 58 | 花子は皿を割ったか？ |
| | ハナコー サラバ ワッタガ。 |
| 59 | 太郎が皿を割ったんだよ。 |
| | <ナシタベ> タロカ° サラバ コワシタ。 |
| 60 | あの皿は、花子が割ってしまったよ。 |
| | アノ サラバ ハナコカ° コワシタ。 |

2. 目的語標示

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------|
| 61 | このお菓子はあんたが食べる，これは私が食べるから。 |
| | コノ カシバ ナ タベロ。コレワ ワ タベルシテ。 |
| 62 | お前はこんな丈夫な机を壊したの？ |
| | ナ コノ ガンジョナ ツグエバ コワシタノガ。 |
| 63 | お前は机をどうやって壊したんだ？ |
| | (無回答) |
| 64 | こんな丈夫な机を，お前はどうやって壊したんだ？ |
| | ナシテ コンナニ ガンジョナ ツグエバ コワシタノヨ。 |
| 65 | 太郎がじっとお前を見ているぞ。 |
| | タロカ° ナバ ズィット ミデア。 |
| 66 | 俺の友達がじっとお前を見ている。 |
| | (無回答) |
| 67 | 犬がお前をじっと見ているけど，おなかすいたんだろうか。 |
| | (無回答) |

3. 情報構造

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------------------------------------|
| 1 | 誰が泣いているの？ ダエ ナイデアンダサ。 |
| 2 | 弟が泣いているんだよ。 オドットノ ホア ナイデアンダネ。 |
| 3 | 家族の中で誰が一番小さい？ オメダデ イチバン チャッコイノ ダエダッキャ。 |
| 4 | 弟が一番小さいんだよ。 ワホデ イジロア イチバン チーセノサ。 |
| 5 | 誰が末っ子なの？ オメダデ イジバン スエッコア ダエダノ。 |
| 6 | 弟が末っ子なんだよ。 ワホデ イジバン スエッコア タロダデ。 |
| 7 | 妹じゃなくて弟が泣いているんだよ。 ナンモ，ナンモ，イモトデ ナクテ オドットダノサ。 |
| 8 | 私じゃなくて弟が一番小さいんだよ。 イヤ イヤ，ナンモ コエカ° イジバン シタダダネ。 |
| 9 | 妹じゃなくて弟が末っ子なんだよ。 イモトデ ナグ オドットノ ホア スエッコダ。 |
| 10 | （「妹が泣いてるの？」に対して）いや，弟が泣いているんだよ。 イヤ イヤ，ナンモ，オドットノ ホア ナイテルノサ。 |

3. 情報構造

| ID | 翻訳用例文 |
|----|----------------------------------------|
| 11 | （「妹が一番小さいの？」に対して）いや，弟が一番小さいんだよ。 |
| | イヤ，オドットノ ホア チャッコインダネ。 |
| 12 | 今何を飲んでるの？ |
| | イマ バンシャグ オメ ナニ ノンデアノヨ。 |
| 13 | 酒を飲んでるの。 |
| | ワ イマ ミズィワリ ノンデアンダネ。 |
| 14 | 今何してるの？ |
| | オメ イマ ナニ ヤッテアノヨ。 |
| 15 | 今酒飲んでるの。 |
| | イマ ワイ サケ ノンデアンダネ。 |
| 16 | （「さっきから外をみてるけど，どうしたの？」に対して）弟が泣いているんだよ。 |
| | イマ オドットア ナイデルンダネ。 |
| 17 | （「そんなに怒ってどうしたの？」に対して）弟が椅子を壊したんだよ。 |
| | オドト ホラ イマー パ レデ イス コワシタ。 |
| 18 | あなたは明日は行くの？ 行かないの？ |
| | オイ オメ アシタ イグンダカ イガネンダガ。 |
| 19 | あなたはいつ行くの？ |
| | オメ イジ {イグンデ/イクノ}。 |
| 20 | 昨日は病院には行ったの？ 行かなかったの？ |
| | オイ オメ ビョインサ イッタндаガ イガネンダガ。 |

3. 情報構造

| ID | 翻訳用例文 |
|----|----------------------------------------------------------|
| 21 | 昨日はどこに行ったの？ オイ クィノ ドゴサ イッテキタンデ。 |
| 22 | ここにはコンビニはあるの？ ないの？ コノ ヘン コンビニ アルンダベガ。 |
| 23 | コンビニはどこにある？ チョット コンビニ コゴニ アルンダベ。 |
| 24 | こんな台風の日にはお客さんは来ない。 キャクア コネーノ。 |
| 25 | （「今日来ない人は誰？」に対して）今日は太郎が来ない。 タロア コネーヨ。 |
| 26 | 何を食べるべきですか？ ナニ タベダラ インダベナ。 |
| 27 | 煎餅を食べなさい。 センベイ {クテオケ/タベダライツキヤ} |
| 28 | 豆じゃなくて煎餅を食べなさい。 マメ クワネデ センベイ 《ノ ホ》 クワネガ。 |
| 29 | （「豆を食べてもいい？」に対して）いや、煎餅を食べなさい。 マメ カネデヨ， センベイ クエ， センベイ。 |
| 30 | いつも笑ってる人が幸せになれる。 イツツイモ ワラッテル ヒトア シアワセニ ナレルヨ。 |

3. 情報構造

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------|
| 31 | 急いだら転ぶ。 |
| | アマリ イソケ° バ, コロブヨ。 |
| 32 | 風こそふけ, 雨は降らなかったからな...<助かった> |
| | カゼア フイタッテ アメア スグナカッタシテナー。 |
| 33 | 親だからこそ心配する。 |
| | オヤダシテ オメダジノ ゴド シンパイ スルンダヨ。 |
| 34 | よく来たなあ。 |
| | ヨク トイ ドツカラ キテルノ。 |
| 35 | 来てよかった。 |
| | ココ° サ クィテ ヨガッタナー。 |
| 36 | 君だからこそ金を貸したんだ。 |
| | オメ ダシテ カシタンダネ。 |
| 37 | これがいい。 |
| | ワ コレダ。 |
| 38 | 知らない。 |
| | ワガネ。 |
| 39 | どこに行くの? |
| | ドゴサ {イグンダ/イグノ} 。 |
| 40 | どこにいったの? |
| | ドゴサ イッテクィタノヨ。 |

3. 情報構造

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-------------------|
| 41 | 何時に起きたか。 |
| | キョ オメ ナンジニ オギダノヨ。 |
| 42 | 山に行くのか？ |
| | ヤマサ イグノガ。 |

4. 疑問詞

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------------------|
| 1 | さわがしいけど、誰がいるの？ |
| | {ウルセケド／ウルセバツテ} ダ(イ)カ° {イルノガ／イダ(ノ)ガ} |
| 2 | さわがしいけど、誰がいるの？（複数） |
| | ウルセーノー，ダイ《ガ》 {イルノサ／イルノガ}。 |
| 3 | さわがしいけど、何がいるの？ → 犬がいる。 |
| | オドスバツテ ナンカ° {イルノガ／イダノナ} → イヌ《カ°》 イル。 |
| 4 | 山の向こうには何があるの？ |
| | ヤマノ ムコーニ ナンカ° アルノガ。 |
| 5 | お前はどんな家に住みたいの？ |
| | オメ ドツタラ ウズィサ スミテノサ。 |
| 6 | お前はどの家に住んでるの？ |
| | オメ ドツタラ ウズィサ スンデルノサ。 |
| 7 | 大きい家と小さい家，お前はどっちに住みたいの？ |
| | オッキ ウズィト チーサイ ウズィ，オメ ドッチサ スミテノ。 |
| 8 | お前はどこに住んでるの？ |
| | オメ ドコサ スンデルノ。 |
| 9 | その家，いくら／どれくらいなの？ |
| | オメノ ウズィ {イグラ／ドレク° レ／ナンボ} シタノ。 |
| 10 | その家，部屋はいくつあるの？ |
| | ソノ イエー ヘヤワ ナンボ アルノサ。 |

4. 疑問詞

| ID | 翻訳用例文 |
|----|---------------------------------------|
| 11 | なんでその家を買ったの？ |
| | ナシテ ソノ ウズィ カッタノ。 |
| 12 | その家はいつ買ったの？ |
| | イズィ カッタノサ。 |
| 13 | 家を売ろうと思うんだけど、お前どう思う？ |
| | ウジョー ウルベド、オメ ドー オモー。 |
| 14 | どうやってその家を見つけたの？ |
| | {ドーヤッテ/ドヤシテ} ソノ ウズィ {ミツケダノサ~ミズゲダノサ}。 |
| 15 | そんなに怒って、どうしたの？ |
| | → 自転車盗まれたんだよ。 |
| | ソッタニ オゴッテ ドシタノサ → ジテンシャ ヌスマレダنداヨ。 |
| 16 | 明日お前何するの/どうするの？ |
| | → 魚を釣りに行くよ。 |
| | アシタ オメ ナニ スルノサ → サガナ ツリサ イグ。 |
| 17 | さわがしいけど、誰かいるの？ |
| | {ウルセケド/ウルセバツテ} ダ(イ)ガ {イルンダガ/イダガ} |
| 18 | さわがしいけど、何かいるの？ |
| | ウルセバツテ ナニガ イダنداガ。 |
| 19 | 山の向こうには何かあるの？ |
| | ナニガ イルノダ。 |

4. 疑問詞

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------|
| 20 | 2つのうち、どっちかを選びなさい。 |
| | ドッチガ エラバセ。 |
| 21 | 逃げたどろぼうは、この近くのどこかにいるはずだ。 |
| | ニゲタ ドロボ コノ ヘンニ イルハズダ。 |
| 22 | お金をいくらか持ってきた。 |
| | ゼンコ {イグラ/ナンボガ} モツテキダ。 |
| 23 | くぎをいくつか持ってこい。 |
| | クギ° ナンボガ モツテコイ。 |
| 24 | あの人のことはなぜか好きになれない。 |
| | アノ ヒト スギニ ナレネ。 |
| 25 | 捕まりそうだったけど、どうにか逃げ出してきた。 |
| | ツガマル ドコダタケド、ヨーヤク ニゲテキダ。 |
| 26 | いつか故郷に帰りたい。 |
| | {イツカ~イズカ} カエリテ。 |

5. 時制・相

| ID | 翻訳用例文 |
|----|------------------------------------|
| 1 | 赤ちゃんが歩こうとしている。 |
| | アガンボ {アルク～アルグ} クィナガッテラ。 |
| 2 | お母さんがカレーを作ろうとしている。 |
| | カッチャ カレー ツクル クィナガッテラ。 |
| 3 | 木が倒れようとしている。 |
| | カセ ^レ ツヨクテ クィ タオレル ミッテラ。 |
| 4 | 子供が歩いている。 |
| | ワラスィ {アルイテラ～アルイッテラ}。 |
| 5 | お母さんがカレーを作っている。 |
| | カッチャ カレー ツグッテラ。 |
| 6 | 木が倒れていく。 |
| | クィー {タオレデグ～タオレデイグ} ミッテラ。 |
| 7 | お母さんがカレーを作っている／カレーが作っている。 |
| | カッチャ カレー ツグッテ オイデラ 《ジャ》。 |
| 8 | 木が倒れている。 |
| | クィー ドーロサ {タオレデラ／タオレジャー}。 |
| 9 | 大根が刻んである。 |
| | ダイコン {クィッテアッテラ／クィラサッテラ／クィラサッチャー}。 |
| 10 | (子供の足跡をみて) 子供が歩いた。 |
| | ワラシ アルツタンダイノー。 |

5. 時制・相

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------------------------------------|
| 11 | (味見したところ,お父さんの味付けだったので)今日はお父さんがカレーをつくった。 |
| | キョーノ カレー トッチャ ツグッタベ。 |
| 12 | (昨日崖の上にあった石が落ちているのを見て) あそこから落ちた。 |
| | アッコガラ {オズィタンダベノー/オズィタンダベノー}。 |
| 13 | ハワイへはもう去年行っている。 |
| | ハワイサ キョネン {イッテクィタジャ/イッタジャ}。 |
| 14 | うっかり子供のおもちゃを壊してしまった。 |
| | オドスイテ コワスイテマッタ。 |
| 15 | もうご飯を作ったよ (これから食べよう)。 |
| | ハー マンマ {ツグッテマッタ《ジャ》/ツグッタジャ}。 |
| 16 | 庭に犬がいる。 |
| | ヌィワサ イヌ イダ《ジャ》。 |
| 17 | あなたの意見は間違っていると思う。 |
| | オメノ シャペ° チャーノ {マツィカ° ッテラ/マツィカ° ッチャー《ベナ》/マツィカ° ッチャンデネイーノ}。 |
| 18 | 馬は早く走る。 |
| | ウマ {ハヤグ~ハエグ} ハスィル。 |
| 19 | お父さんはいつもここに座る。 |
| | トッチャ イツツモ コゴサ {スワル/スワッテル} |
| 20 | 酒は飲んでいない。 |
| | キョー サゲ ノンデネ。 |

5. 時制・相

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------------------------------------------|
| 21 | 明日は私が行く。 |
| | アスイタ {ワ/ワイガ} イグ。 |
| 22 | 私は絶対に行かない。 |
| | ワゼッター イガネ。 |
| 23 | 明日はみんなで集まる（予定がある）。 |
| | アスイタ ムインナスイテ {アズマルヨ/アズマルベスイ}。 |
| 24 | （予定通り）明日は行かない。 |
| | ワ アスイタ イガネ。 |
| 25 | こんな天気だから確実に雨が降る。 |
| | コッタラ テンクィダモノ アスイタ アメ {フルベナ/フルベノ}。 |
| 26 | こんな天気だから確実に雨は降らない。 |
| | コッタヌイ {テンクィ イーモノ/テンクィダモノ}, アシタダッキャ ゼッター アメ {フンネー/フンネジャ/フンネーヨー}。 |
| 27 | そういえば棚のなかにお菓子があった。 |
| | アスコサ {オガスイ/タペ ルノ} アッタキャナ。 |
| 28 | 探していたものがこんなところにあった。 |
| | サガスイチャーノ コッタラ ドゴサ アッタモンダ。 |
| 29 | 昔は毎日山に行っていた。 |
| | ムガシダバ マイニツイ ヤマサ イッタッタ モンダッタッテノー。 |
| 30 | ご飯はさっきもう食べた。 |
| | マンマ サククィ {タペ タ/タペ テマッタ}。 |

5. 時制・相

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------------------|
| 31 | 去年ハワイに行った。 |
| | ワイキャ キョネン ハワイサ イッテクィタ 《ジャ》。 |
| 32 | 山には神様がいます。 |
| | {アッコノ/アスイコノ} ヤマサ カミサマ イルド。 |
| 33 | 今家にお母さんがいます。 |
| | イマ イエサ カッチャ {イルヨ/イダジャー}。 |
| 34 | 花子はいつもきれいだ。 |
| | ハナコ クィレンダノー。 |
| 35 | (いつもはそうではないが) 今日は花子はきれいだ。 |
| | キョー ハナコ クィレンダノー。 |
| 36 | 昔住んでいた家の屋根は赤かった。 |
| | ムガスィ ハイッタタ イェ 《ノ》 ヤネ {アガクタッタ/アガダッタ/アガガッタ}。 |
| 37 | 今日の夕日はとても赤かった。 |
| | キョーノ ユーヤゲ スンゴク {アガクタッタヨー/アガガッタ}。 |
| 38 | (家から離れた場所で) 私のおじいさんは家にいるよ。 |
| | ワホノ {ズィズィ/ズィッチャ} イマ イエサ イダヨ。 |
| 39 | (目の前で見ています) おじいさんがバス停の前にいる。 |
| | アノ ズィズィ バステーノ マエサ {イル/イダモンダ}。 |
| 40 | (知っている犬が死んだのを見てはいませんが、知っていて) あの犬は死んだ。 |
| | アノ イヌ {スィンダッキャ~シンダッキャ}。 |

5. 時制・相

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-------------------------------------------------------|
| 41 | (犬が死ぬところをみて) そこで犬が死んだ。 |
| | メノマエデ スィンダndaヨー。 |
| 42 | 昔この村にきれいな女がいた。 |
| | ムガスィ ココササ キレンダ オンナノ ヒト {イダッタndaヨー/イダッタッキャ}。 |
| 43 | 私は昨日家にいた。 |
| | ワイ クィノー イェサ {イダ《ヨー》/イダッタヨー}。 |
| 44 | 太郎は昨日私の家にいた(私も一緒に家にいて、そのことを知っている)。 |
| | タロー クィノー {ワホサ/ワイノ イェサ/ウエノ イェサ ワホノ イェサ} イダヨー。 |
| 45 | サクラの花はきれいだ。 |
| | サグラノ ハナ {クィレンダッキャ/クィレンダノー}。 |
| 46 | (花を見ながら) この花はとてもきれいだ。 |
| | コノ ハナ スンゴク {クィレンダノー/クィレンダッキャ}。 |
| 47 | 家康は頭がよかった。 |
| | イエヤス スンゴク アダマ {イガッタッキャ/イガッタタndaズモノー}。 |
| 48 | あの芝居はとてもよかった。 |
| | アノ スィバ [°] イ スンゴク {イガッタッキャ/イカッタッキャ}。 |
| 49 | (部屋が荒らされているのを見て) 泥棒が入った。 |
| | ドロホ [°] {ハイッタnde ネーベカ/ハイッタndaベカ/ハイッテラ/ハイッタ}。 |

6. 態1

| ID | 翻訳用例文 |
|----|------------------------------------------|
| 1 | 太郎は弟を遊ばせている。 |
| | タローダッキャ オズィバ フトルィデ アソパ° ヘデラ。 |
| 2 | 太郎は弟を遊ばせている。 |
| | (無回答) |
| 3 | 弟が行きたいというので、弟を／に行かせた。 |
| | オンズィカ° イクィタガッテルカラ {オンズィサ/オンズィバ} イガヘダ。 |
| 4 | 弟は行きたくないというが、弟を／に無理に行かせた。 |
| | イクィタグネッテ イッタゲド オンズィバ イガヘダ。 |
| 5 | 弟を／に歩かせた |
| | オンズィバ アルガヘダ。 |
| 6 | こわがる弟に (*を) 吊り橋を歩かせた。 |
| | オッカナガッテル オンズィバ ツルィバスイ 《バ》 {アルカヘダ~アルカセダ}。 |
| 7 | 体調の悪い俺のかわりに弟{に/を}行かせた。 |
| | アンビ ワルィスイテ ワイノ カワルィヌィ オンズィバ イガヘダ。 |
| 8 | 太郎は胡瓜を腐らせた。 |
| | タローダッキャ キュールィ クサラヘダ。 |
| 9 | 太郎は爆弾を爆発させた。 |
| | (無回答) |
| 10 | 医者は誤って患者を死なせた。 |
| | アノ センセーダッキャ マズィガッテ カンジャバ スィナヘダ 《ナダエイ》。 |

6. 態1

| ID | 翻訳用例文 |
|----|---------------------------------------------------|
| 11 | 太郎は先生に殴られた。 |
| | タローダッキャ センセーヌイ タダガエイダ 《ンダエイ》。 |
| 12 | 太郎はみんなに愛されている。 |
| | タローダッキャ ミンナヌイ メンコガラエイルンダエイ。 |
| 13 | 太郎はその知らせを先生に聞かされた。 |
| | ソノゴトバ センセーガラ クイーダ 《ンダド》。 |
| 14 | 太郎は誰かに足を踏まれた。 |
| | タローダッキャ ダエイガヌイ アスイ フマイダド。 |
| 15 | 太郎は誰かに財布を盗まれた。 |
| | ダエイガヌイ サイフ トラエイダ 《ンダ》ド。 |
| 16 | 太郎は息子を褒められた。 |
| | タローダッキャ センセーヌイ マコ ^o バ ホメラエイダ。 |
| 17 | 席をとっていたのに、知らない人に座られた。 |
| | コゴ トッチャーノヌイ スイラネーフトヌイ スワラエイダ。 |
| 18 | 勉強していたのに、大きな音でピアノを弾かれた。 |
| | ベンキョー スイテダダッキャー オックイナ オドデ ^o ピアノ スイガイダ。 |
| 19 | この寺は100年前に建てられた。 |
| | コノ テラ ヒャクネンモ マエヌイ タデダ ^o ンダド。 |
| 20 | ?太郎は足が踏まれた。 |
| | (無回答) |

6. 態1

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------------------|
| 21 | 太郎は財布が盗まれた。 |
| | (無回答) |
| 22 | 壁に賞状がかけられている。 |
| | カヘ° サ ショージョー {ハラサッチャー～ハラハッチャー}。 |
| 23 | 太郎は父親に本を買ってもらった。 |
| | タロー 《ダッキャ》 {トーサンガラ／トーサンヌイ} ホン カッテモラッタド。 |
| 24 | 太郎は弟に本を買ってきてもらった。 |
| | タロー オンズィガラ ホン カッテモラッタ。 |

7. 態2

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------|
| 1 | 孫に本をやった。 |
| | マゴサ ホン ケダ。 |
| 2 | 先生に本をさしあげた。 |
| | センセーサ ホン ケダ。 |
| 3 | 友達に本をあげた。 |
| | トモダツイサ ホン ケダ。 |
| 4 | 孫が本をくれた。 |
| | マコ [°] ガラ ホン モラッタ。 |
| 5 | 先生が本をくださった。 |
| | センセーガラ ホン モラッタ。 |
| 6 | 友達が本をくれた。 |
| | トモダツイガラ ホン モラッタ。 |
| 7 | (孫に対して) その本をくれ。 |
| | ソノ ホン ケロ。 |
| 8 | (先生に対して) その本をください。 |
| | センセー コレ ケンネガ。 |
| 9 | (友達に対して) その本をくれ。 |
| | コレ ワイサ ケロ。 |
| 10 | 孫から本をもらった。 |
| | マコ [°] ガラ ホン モラッタ。 |

7. 態2

| ID | 翻訳用例文 |
|----|---------------------------|
| 11 | 先生から本をいただいた。 |
| | センセーガラ ホン モラッタ。 |
| 12 | 友達から本をもらった。 |
| | トモダツイガラ ホン モラッタ。 |
| 13 | 孫に本を読んでやった。 |
| | マコ° サ ホン ヨンデ ケダ。 |
| 14 | 先生に本を読んでさしあげた。 |
| | センセーサ ホン ヨンデ ケダ。 |
| 15 | 友達に本を読んであげた。 |
| | トモダツイサ ホン ヨンデ ケダ。 |
| 16 | 孫が本を読んでくれた。 |
| | マコ° カ° ワイサ ホン ヨンデ ケダ。 |
| 17 | 先生が本を読んでくださった。 |
| | センセーカ° ヨンデ ケダ。 |
| 18 | 友達が本を読んでくれた。 |
| | {トモダチカ° ~トモダツイカ°} ヨンデ ケダ。 |
| 19 | (孫に対して) 本を読んでくれ。 |
| | ホン ヨンデ ケ。 |
| 20 | (先生に対して) 本を読んでください。 |
| | ホン ヨンデ ケセ。 |

7. 態2

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------------|
| 21 | (友達に対して) 本を読んでくれ。 |
| | ホン ヨンデ ケ。 |
| 22 | 孫に本を読んでもらった。 |
| | ヨンデ モラッタ。 |
| 23 | 先生に本を読んでもらった。 |
| | センセーヌイ ホン ヨンデ モラッタ。 |
| 24 | 友達に本を読んでもらった。 |
| | {トモダチヌイ〜トモダツィヌイ} ホン ヨンデ モラッタ。 |
| 25 | 怖いからひとりで行けない。 |
| | オッカナフテ ヒトルィデ イゲネ。 |
| 26 | 体が弱いので遠くまで行けない。 |
| | ワラー カラダ ワルフテ トーグサ イゲネ。 |
| 27 | 足が痛いので今日は行けない。 |
| | クィノー コロンデ アシ イダグシタ シテ キョー イゲネ。 |
| 28 | 雨が降っているので行けない。 |
| | アメ フツチャー シテ イガイネ。 |
| 29 | 友達がいて心強いので、肝試しにも行ける。 |
| | トモダチカ° イルシテ ココロズヨイ シテ クィモダメシヌイモ イゲル。 |
| 30 | よく知った場所なので一人で行ける。 |
| | ヨグ {オンベダ/オンボエデル} ドコダ シテ ヒトルィデ イゲル。 |

7. 態2

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------|
| 31 | 今日は体調がいいので行ける。 |
| | キョー アンベ イーシテ イゲル。 |
| 32 | 今日は天気がいいので行ける。 |
| | キョー テンキ イーシテ イゲル。 |
| 33 | 昔は早く走ることができた（でも今は早く走れない）。 |
| | マエワ ハヤグ ハスイレダ。 |
| 34 | 昔は早く走ることができなかった（でも今は早く走れる）。 |
| | マエダバ ハスイレネガッタケド イマワ ハスイレル。 |
| 35 | このペンはまだ書ける。 |
| | マンダ {ツカエル/カゲル}。 |
| 36 | このペンはよく書ける。 |
| | カグイヤスイノ。 |
| 37 | 怖いので行くことができなかった。 |
| | オッカナフテ イゲネガッタ。 |
| 38 | 歩くのが遅いので遠くまで行くことができなかった。 |
| | アルグノ オソイシテ トーグマデ イゲネガッタ。 |
| 39 | 体調が悪かったので行くことができなかった。 |
| | アンベ ワルフテ イゲネガッタ。 |
| 40 | 天気が悪かったので行くことができなかった。 |
| | イゲネガッタ。 |

7. 態2

| ID | 翻訳用例文 |
|----|----------------------------|
| 41 | 歌ったら怖くなくなって、ひとりで行くことができた。 |
| | ウダナガラ イーッタツキヤー ヒトルイデ イゲダ。 |
| 42 | 歩くのが速いので遠くまで行くことができた。 |
| | アルグノ ハイシテ トーグマデ イゲダ。 |
| 43 | 体調がよかったので行くことができた。 |
| | アンベ イフタッタシテ {イッタ/イッテキタ}。 |
| 44 | 天気がよかったので行くことができた。 |
| | テンキ イフテ イッテキタ。 |
| 45 | 止められていたがつい酒をのんでしまった。 |
| | ツイツイ ノンデ マッタ。 |
| 46 | 酒が飲みたいのにコップがなくて飲めない。 |
| | コップ ネスイテ ノマイネ。 |
| 47 | 酒を飲みたいがコップを探すのが億劫で飲めない。 |
| | コップ サガスノ メンドクセスイテ ノマネ。 |
| 48 | 嫁がコップをもってきてくれて、やっと酒が飲めた。 |
| | ヤット ノメダ。 |
| 49 | 昨日は気分よく酒が飲めた。 |
| | ユンベナ クィモズィ ウィグ ノメダ。 |
| 50 | 何故だかわからないがいつもより早くに起きてしまった。 |
| | ケサ ハヤグ {オギダ/オギラサッタ}。 |

7. 態2

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------|
| 51 | 私は強い酒でも飲める。 |
| | ワラ ナンデモ ノメル。 |
| 52 | お父さんに叩かれた。 |
| | トッチャヌイ タダガイダ。 |
| 53 | 天皇陛下がお酒を飲まれた。 |
| | (無回答) |
| 54 | 校庭に大きな丸が書かれている<自発形式使用>。 |
| | (無回答) |
| 55 | 校庭に大きな丸が書いてある。 |
| | コーテーサ オックイ マル カイデルド。 |
| 56 | 先生によって大きな丸が書かれた。 |
| | センセー オックイー マル カイデオイダ。 |
| 57 | 買う予定のお弁当に半額シールが貼られた。 |
| | ハッタ。 |
| 58 | 私は上手に字を書ける。 |
| | ワー ズイ ジョス° イヌイ カゲル。 |
| 59 | お父さんに叩かれた。 |
| | (無回答) |
| 60 | この本は英語で書かれている。 |
| | コノ ホン エーコ° デ {カカサツテラ/カカサツチャ} 。 |

7. 態2

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------|
| 61 | この本は夏目漱石によって書かれた。 |
| | コノ ホン ナツメソーセクィ カイダ。 |
| 62 | 水が飲みたい。 |
| | ムイス° イ ノミテー。 |
| 63 | 彼に来てほしい。 |
| | クバイッタッテ。 |
| 64 | 彼に来てもらいたい。 |
| | アノ ヒトー クィテケバイッタッテ。 |
| 65 | 子供が手を洗っている。 |
| | テー {アラッチャー／アラッテラ／アラッテヤ} 。 |
| 66 | 男たちが殴り合っている。 |
| | オドゴンド ナク° イルィアイ {スイチャー／シテアー} 。 |

8. 待遇 1

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|------------------------------|----------|--|
| 1 | 今日の新聞はお読みにになりましたか。 | 聞き手が目上 | |
| | キョーノ シンブン ヨミマシタカ。 | | |
| 2 | このお酒をお飲みください。 | 聞き手が目上 | |
| | ドーズ コノ オサケオ ノンデ クダサイ。 | | |
| 3 | 明日はお宅にいらっしゃいますか。 | 聞き手が目上 | |
| | アスイタ ウズィニ イマスカ。 | | |
| 4 | 明日は祭りにいらっしゃいますか。 | 聞き手が目上 | |
| | アスイタ マズリサ {イグベガ/イグガ}。 | | |
| 5 | 【あなた】は召し上がりますか。 | 聞き手が目上 | |
| | タベルガ。 | | |
| 6 | 今日の新聞は読んだか。 | 聞き手は目上以外 | |
| | キョー シンブン ミダカ。 | | |
| 7 | この酒を飲め。 | 聞き手は目上以外 | |
| | コノ サケ {ノメジャ/ノンデミテ}。 | | |
| 8 | 明日は家にいるか。 | 聞き手は目上以外 | |
| | アスイタ エニ イルガ。 | | |
| 9 | 明日は祭りに行くか。 | 聞き手は目上以外 | |
| | アシタ マズリサ イグンダガ。 | | |
| 10 | 【お前】は食べたか。 | 聞き手は目上以外 | |
| | {ナ/オメ} {タバダガ/タバダンダカ～タバダンダガ}。 | | |

8. 待遇 1

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|-----------------------------|----------|----------|
| 11 | 【X】は新聞をお読みになった。 | 聞き手は目上以外 | 話題の人物が目上 |
| | Xサン ケサノ シンブン ミダ ミタイダヨ。 | | |
| 12 | 【X】は明日は家にいらっしゃる。 | 聞き手は目上以外 | 話題の人物が目上 |
| | Xサン アスイタ エニ イル ミタイダヨ。 | | |
| 13 | 【X】は明日祭りにいらっしゃる。 | 聞き手は目上以外 | 話題の人物が目上 |
| | アシタ Xサン マズリサ イグ ミタイダ。 | | |
| 14 | 【X】はご飯を召し上がった。 | 聞き手は目上以外 | 話題の人物が目上 |
| | オトサン ゴハン タベタ ミタイダヨ。 | | |
| 15 | 【Y】は新聞を読んだ。 | 聞き手は目上以外 | |
| | {カレ/アレ} シンブン ミダ ミタイダヨ。 | | |
| 16 | 【Y】は明日家にいる。 | 聞き手は目上以外 | |
| | Yサン アスイタ エニ {イルヨ/イル ミタイダヨ}。 | | |
| 17 | 【Y】は明日祭りに行く。 | 聞き手は目上以外 | |
| | Yサン アスイタ マズリ ミニ イグ ミタイダヨ。 | | |
| 18 | 【Y】はご飯を食べた。 | 聞き手は目上以外 | |
| | {カレ/アレ} メシ クッタミタイダヨ。 | | |
| 19 | 私は今から新聞を読みます。 | 聞き手が目上 | |
| | ワ コエガラ シンブン {ミルジャ/ミテミルジャ}。 | | |
| 20 | 私は明日は家にいます。 | 聞き手が目上 | |
| | アスイタ ワ エニ {イルジャ/イルスイテ}。 | | |

8. 待遇 1

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|--------------------------------|----------|----------------|
| 21 | 私は明日は祭りに行きます。 | 聞き手が目上 | |
| | ワモ アスイタ マズリ ミサ イグジャ。 | | |
| 22 | 今日は寒いですね。 | 聞き手が目上 | |
| | キョ サムウイナー。 | | |
| 23 | 私は今から新聞を読む。 | 聞き手が目上以外 | |
| | シンブン スグ ミデミルジャ。 | | |
| 24 | 私は明日は家にいる。 | 聞き手が目上以外 | |
| | アスイタ ヒマダシ エニ {イルジャ/イル スイテ}。 | | |
| 25 | 私は明日は祭りに行く。 | 聞き手が目上以外 | |
| | ワ マズリ ミニ イグジャ。 | | |
| 26 | 今日は寒いね。 | 聞き手が目上以外 | |
| | キョ サムウイナー。 | | |
| 27 | むこうに行きやがれ。 | 聞き手をののしる | |
| | ムゴーサ イゲ。 | | |
| 28 | あいつがいらんことしやがった。 | | 話題の人物を ののしる |
| | アレ ヨゲナコト シャベッテルナ。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|-----------------------------------------------------|-----------------|----------|
| 1 | 家族の中で、目下の人物はどなたかいらっしゃいますか？(子ども、弟・妹など) | ウチ・目下 | ネットワーク調査 |
| | 一番下の弟（以下、相手①） | | |
| 2 | 家族の中で、あなたが、一番丁寧なことばづかいをする人は誰ですか？（例：両親、舅姑、配偶者など） | ウチ・目上 | ネットワーク調査 |
| | 配偶者の母（以下、相手②） | | |
| 3 | 非常に親しい友人でどなたかいらっしゃいますか？（目下の人物可） | ソト・親・同等 （目下） | ネットワーク調査 |
| | 幼馴染（以下、相手③） | | |
| 4 | 親しい人の中で、あなたが、一番丁寧なことばづかいをする人は誰ですか？（年上の幼なじみ、親しい先輩など） | ソト・親・目上 | ネットワーク調査 |
| | 近所の10歳上のおばあさん（以下、相手④） | | |
| 5 | この集落の中で、あなたが、一番丁寧なことばづかいをする人は誰ですか？（例：町内会長、校長先生など） | ソト・疎・目上 | ネットワーク調査 |
| | 町内会長さん（以下、相手⑤） | | |
| 6 | 相手①がどこかに出かけようとしています。「今からどこへ行くのか？」と聞くととき何と言いますか？ | ウチ・目下 | |
| | オメ ドコ イクノ。 | | |
| 7 | 相手②がどこかに出かけようとしています。「今からどこへ行くのか？」と聞くととき何と言いますか？ | ウチ・目上 | |
| | オーバーチャン ドコサ イクノ。 | | |
| 8 | 相手③と道端ですれ違いました。「今からどこへ行くのか？」と聞くととき何と言いますか？ | ソト・親・同等 （目下） | |
| | ヒロチャン ドコサ イク。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--|
| 9 | 相手④と道端ですれ違いました。「今からどこへ行くのか？」と聞くとき何と言いますか？ | ソト・親・目上 | |
| | カーサン ドコ イクノ。 | | |
| 10 | 相手⑤と道端ですれ違いました。「今からどこへ行くのか？」と聞くとき何と言いますか？ | ソト・疎・目上 | |
| | カイチョーサン ドチラ イキマスカ。 | | |
| 11 | 今日は天気予報で雨だと言っています。相手①が家を出ようとしています。傘を持っていくそぶりはありません。「一応、傘を持っていけ」と言うとき何と言いますか？ | ウチ・目下 | |
| | カサ モッテ {イガッセ/イガッサイン}。 | | |
| 12 | 今日は天気予報で雨だと言っています。相手②が家を出ようとしています。傘を持っていくそぶりはありません。「一応、傘を持っていけ」と言うとき何と言いますか？ | ウチ・目上 | |
| | オーバーチャン カサ モッテ イカサマイ。 | | |
| 13 | 相手③があなたの家に来ました。相手③が家を出ようとしたところ、今にも雨が降りそうな雲が近づいてきているのが見えました。「一応、傘を持っていけ」と言うとき何と言いますか？ | ソト・親・同等 (目下) | |
| | カサ モッテ イガッセ。 | | |
| 14 | 相手④があなたの家に来ました。相手④が家を出ようとしたところ、今にも雨が降りそうな雲が近づいてきているのが見えました。「一応、傘を持っていけ」と言うとき何と言いますか？ | ソト・親・目上 | |
| | カサ モッテ イカサマイ。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--|
| 15 | 相手⑤があなたの家に来ました。相手⑤が家を出ようとしたところ、今にも雨が降りそうな雲が近づいてきているのが見えました。 「一応、傘を持っていけ」と言うとき何と言いますか？ | ソト・疎・目上 | |
| | カサ モッテ イガサマイ。 | | |
| 16 | 相手①が「お腹がすいた」と言っています。あなたはちょうど別の人からもらったお菓子を持っていることに気づきました。「よかったら、このお菓子、食べろ」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目下 | |
| | コレ {カセー～カサイ} 。 | | |
| 17 | 相手②が「お腹がすいた」と言っています。あなたはちょうど別の人からもらったお菓子を持っていることに気づきました。「よかったら、このお菓子、食べろ」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目上 | |
| | オーバーチャン コレ カサマイ。 | | |
| 18 | 相手③が「お腹がすいた」と言っています。あなたはちょうど別の人からもらったお菓子を持っていることに気づきました。「よかったら、このお菓子、食べろ」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・同等 (目下) | |
| | コレ 《オイシーヨ》 カサイン。 | | |
| 19 | 相手④が「お腹がすいた」と言っています。あなたはちょうど別の人からもらったお菓子を持っていることに気づきました。「よかったら、このお菓子、食べろ」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・目上 | |
| | コレ {タベテ ミテ～タベデ ミデ} 。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--|
| 20 | 相手⑤が「お腹がすいた」と言っています。 あなたはちょうど別の人からもらったお菓子を 持っていることに気づきました。「よかつ たら、このお菓子、食べろ」と言うとき、何 と言いますか？ | ソト・疎・目上 | |
| | {タベテ ミテ～タベテ ミデ／カサマイ}。 | | |
| 21 | 相手①がAさんの家（適当な人を入れてくださ い）へ遊びに行きます。あなたはAさんの家か ら借りたものがあったのを思い出しました。 「ついでにこれ（借りたもの）を持って行 け」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目下 | |
| | オメ イグンダッタラ、ワイ {カイデラノ ～カリデラノ} アルシテ モッテッテ {ケセ／ケサイン}。 | | |
| 22 | 相手②がAさんの家（適当な人を入れてくださ い）へ遊びに行きます。あなたはAさんの家か ら借りたものがあったのを思い出しました。 「ついでにこれ（借りたもの）を持って行 け」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目上 | |
| | オーバーチャン 《ワタシ》 カリデラノ ア ルシテ モッテッテ ケサマイ。 | | |
| 23 | 相手③があなたの家に来ています。相手③はA さんの家(適当な人を入れてください)に寄って から帰るそうです。そのとき、あなたはAさん の家から借りたものがあったのを思い出しま した。「ついでにこれ(借りたもの)を持って行 け」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・同等 (目下) | |
| | カリデルノ アルシテ モッテッテ {ケサ イン／ケセ}。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------|--|
| 24 | 相手④があなたの家に来ています。相手③はAさんの家(適当な人を入れてください)に寄ってから帰るそうです。そのとき、あなたはAさんの家から借りたものがあったのを思い出しました。「ついでにこれ(借りたもの)を持って行け」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・目上 | |
| | カリテルノ アルシテ モッテッテ ケサマイ。 | | |
| 25 | 相手⑤があなたの家に来ています。相手③はAさんの家(適当な人を入れてください)に寄ってから帰るそうです。そのとき、あなたはAさんの家から借りたものがあったのを思い出しました。「ついでにこれ(借りたもの)を持って行け」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・疎・目上 | |
| | モッテッテ ケサマイ。 | | |
| 26 | あなたは今ひとりで作業(家事, 料理等)をしています。しかし, ある機械(パソコンのソフト等でも可)が使えなくて困っています。そこへ相手①がやってきました。「これの使い方(～のやり方)を教えろ」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目下 | |
| | ヤー ワイ コゴンドコ チョット ワガンエンダケド ワイサ オシエセ。 | | |
| 27 | あなたは今ひとりで作業(家事, 料理等)をしています。しかし, ある機械(パソコンのソフト等でも可)が使えなくて困っています。そこへ相手②がやってきました。「これの使い方(～のやり方)を教えろ」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目上 | |
| | ヤー コゴ チョット ワガンナインダケド オシエテ {チョーダイ/ケサマイ}。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--|
| 28 | あなたは今ひとりで作業（家事，料理等）をしています。しかし，ある機械（パソコンのソフト等でも可）が使えなくて困っています。そこへ相手③がやってきました。「これの使い方（～のやり方）を教えろ」と言うとき，何と言いますか？ | ソト・親・同等 （目下） | |
| | コゴ ワガンナインダケド チョット オシエテ ケサ。 | | |
| 29 | あなたは今ひとりで作業（家事，料理等）をしています。しかし，ある機械（パソコンのソフト等でも可）が使えなくて困っています。そこへ相手④がやってきました。「これの使い方（～のやり方）を教えろ」と言うとき，何と言いますか？ | ソト・親・目上 | |
| | オシエテ {ケサイン／ケサマイ}。 | | |
| 30 | あなたは今ひとりで作業（家事，料理等）をしています。しかし，ある機械（パソコンのソフト等でも可）が使えなくて困っています。そこへ相手⑤がやってきました。「これの使い方（～のやり方）を教えろ」と言うとき，何と言いますか？ | ソト・疎・目上 | |
| | オシエテ ケサマイ。 | | |
| 31 | 相手①と一緒に家にいます。大掃除をしています。別の家族が手伝いを呼ぶ声が聞こえますが，あなたは手が離せません。「ちょっと応援に（手伝いに）行け」と言うとき，何と言いますか？ | ウチ・目下 | |
| | イマ チョット テ ハナセニシテ オメイッテ 《ミデ》 ケセ。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--|
| 32 | 相手②と一緒に家にいます。大掃除をしています。別の家族が手伝いを呼ぶ声が聞こえますが、あなたは手が離せません。「ちょっと応援に（手伝いに）行け」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目上 | |
| | オーバーチャン 《イマ》 チョット テ ハナセナイシテ イッテ ミデ ケサマイ。 | | |
| 33 | あなたは、地域・職場等の行事の責任者です。相手③と一緒に行事の準備をしています。どこかで応援を求める声が聞こえますが、自分は別の仕事で手が離せません。相手③は手が空いています。「ちょっと応援に（手伝いに）行け」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・同等 (目下) | |
| | ヒロチャン チョット ワイサ テ ハナセナイシテ ミデ {ヤッテ/ケセ}。 | | |
| 34 | あなたは、地域・職場等の行事の責任者です。相手④と一緒に行事の準備をしています。どこかで応援を求める声が聞こえますが、自分は別の仕事で手が離せません。相手④は手が空いています。「ちょっと応援に（手伝いに）行け」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・目上 | |
| | カーサン イマ チョット コッチ テ イッパイダシテ，カーサン ミデ ヤッテ ケサマイ。 | | |
| 35 | あなたは、地域・職場等の行事の責任者です。相手⑤と一緒に行事の準備をしています。どこかで応援を求める声が聞こえますが、自分は別の仕事で手が離せません。相手⑤は手が空いています。「ちょっと応援に（手伝いに）行け」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・疎・目上 | |
| | コッチ テ イッパイ ダシテ，ミデ ヤッテ ケサマイ。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|--|
| 36 | 相手①と一緒に家にいます。今、大事なお客さんが来ていますが、相手①が気づかず、大声で電話でしゃべっています。「静かにしろ」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目下 | |
| | イマ オギャクサン キタシテ オメ チツチャイ コエデ シャベッセ。 | | |
| 37 | 相手②と一緒に家にいます。今、大事なお客さんが来ていますが、相手②が気づかず、大声で電話でしゃべっています。「静かにしろ」と言うとき、何と言いますか？ | ウチ・目上 | |
| | オメー チョット シズカニ {セ/シテ ケセ}。 | | |
| 38 | あなたは、地域・職場等の行事の責任者です。相手③と一緒に行事の準備をしています。音響機器のテストをしています。相手③が気づかず、大声で電話でしゃべっています。「静かにしろ」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・同等 (目下) | |
| | コゴ ワガンナインダケド、 チョット オシエテ ケセ。 | | |
| 39 | あなたは、地域・職場等の行事の責任者です。相手④と一緒に行事の準備をしています。音響機器のテストをしています。相手④が気づかず、大声で電話でしゃべっています。「静かにしろ」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・親・目上 | |
| | {シズカニ～シス° カニ} {シサマイ/シテ ケサイン}。 | | |
| 40 | あなたは、地域・職場等の行事の責任者です。相手⑤と一緒に行事の準備をしています。音響機器のテストをしています。相手⑤が気づかず、大声で電話でしゃべっています。「静かにしろ」と言うとき、何と言いますか？ | ソト・疎・目上 | |
| | シズカニ シテ ケサマイ。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| 41 | 相手①に対して「この本（お菓子等）をあげるよ」と言うとき、何と言いますか？ | | |
| | オメサ {コレ/コノ ホン} ケル。 | | |
| 42 | 家に帰って配偶者（家族・同等）に対して「さっき相手①に本をあげたよ」と言うとき、何と言いますか？（聞き手は相手②や友人でも可） | | |
| | シヨボサ アノ ホン ケダンダイ。 | | |
| 43 | 相手①に対して「今からこの本を読んであげるよ」と言うとき、何と言いますか？ | | |
| | コノ ホン オメサ ヨンデ ケルシテノー。 | | |
| 44 | 家に帰って配偶者（家族・同等）に対して「さっき相手①に本を読んであげたよ」と言うとき、何と言いますか？（聞き手は相手②や友人でも可） | | |
| | シヨボサ ホン ヨンデ ケダンダイー。 | | |
| 45 | 相手⑤が今あなたの家に来ています。相手⑤があなたの家にある本Aを読みたいと言っています。そのとき、あなたはその本を2冊持っていることに気づきました。相手⑤に対して「2冊あるから、その本をあげますよ」と言うとき、何と言いますか？ | | |
| | オナシ ホンカ° ニサツ アルシテ イッサツ モッテ イガサマイ。 | | |
| 46 | その後、配偶者（もしくは相手②）が帰ってきました。配偶者に、「さっき相手⑤が家に来て、本Aを読みたそうにしていたから、あげたよ」と言うとき、何と言いますか？ | | |
| | カイチョーサンニ オナシ ホン ニサツモアルモンダモノ、イッサツ {アゲダンダヨ/ケデ ヤッタ《ヨ》}。 | | |

9. 待遇 2

| ID | 翻訳用例文 | | |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|--|
| 47 | <p>あなたは相手⑤と集落の作業(掃除・料理等)をしています。相手⑤が仕事ができなさそうなので(疲れている, 荷物が重い, 包丁の持ち方が危なっかしい等で), 「代わりにしてあげますよ」と言うとき, 何と言いますか?</p> | | |
| | <p>ワンカ° ヤルシテ カイチョーサン スコシ ヤスンデ サマイ。</p> | | |
| 48 | <p>その後, 家に帰ってきて配偶者(もしくは相手②)と話をしています。「今日, 相手⑤が仕事ができなさそうだったから(疲れている, 荷物が重い, 包丁の持ち方が危なっかしい等で), 「代わりにしてあげたよ」と言うとき, 何と言いますか?</p> | | |
| | <p>カイチョーサン グアイ ワルソー ダッタシテ ワイ カワイニ ヤッテ ケダンダヨ。</p> | | |

10. 文タイプ

| ID | 翻訳用例文 |
|----|------------------------------------------|
| 1 | 俺のおやじは毎晩酒を飲む。 |
| | ワイノ オヤズィワ マイバン サギェ ノム。 |
| 2 | 俺のおやじは怖い。 |
| | ワイノ オヤジワ オッカネ。 |
| 3 | 俺のおやじは昔は怖かった。 |
| | ワイノ オヤジワ ムガスィワ オッカナガッタ。 |
| 4 | 俺のおやじは相変わらず元気だ。 |
| | ワイノ オヤズィワ アイカワラズ ギェンクィダ。 |
| 5 | 俺のおやじは昔は元気だったけど、このごろ病気がちだ。 |
| | ワイノ オヤズィワ ムガスィワ ギェンクィダッタケド イェマワ ビョーキガチダ。 |
| 6 | 俺のおやじは医者だ。 |
| | ワイノ オヤズィワ イシャダ。 |
| 7 | 俺のおやじは医者だった。 |
| | ワイノ オヤズィワ イシャダッタ。 |
| 8 | 君のお父さんは毎晩酒を飲むの？ |
| | ナノ トッチャ マイェバン サギェ ノムノ。 |
| 9 | うわさで聞いたけど、君のお父さんは怖いの？ |
| | ハナシデェ クィーダケド ナノ トッチャワ {オッカナイノ/オッカネノ}。 |
| 10 | 君のお父さんは今は優しそうだけど、昔は怖かったの？ |
| | ナノ トッチャワ イェマワ ヤサシキェド ムガスィワ オッカナガッタ。 |

10. 文タイプ

| ID | 翻訳用例文 |
|----|------------------------------------|
| 11 | 君のお父さんは元気？ |
| | ナノ トッチャワ ギェンクィダガ。 |
| 12 | お見舞いに行ったそうだけど、君のお父さんは元気だった？ |
| | ミマイニ イェッタソーダキェド ナノ トッチャワ ギェンクィダッタ。 |
| 13 | 友達から聞いたんだけど、君のお父さんは医者なの？ |
| | トモダチガラ クィータンダケド ナノ トッチャワ イシャダガ。 |
| 14 | 友達から聞いたんだけど、君のお父さんは医者だったの？ |
| | トモダチガラ クィータンダキェド ナノ トッチャワ イシャダッタガ。 |
| 15 | 君のお父さんは毎晩酒を飲むでしょ？ |
| | ナノ トッチャワ マイバン サギェ ノムベ。 |
| 16 | 君のお父さんは酒は飲まないでしょ？ |
| | ナノ トッチャワ サギェワ ノマネベ。 |
| 17 | 君のお父さんが酒を飲むかどうか知らない。 |
| | ナノ トッチャ サギェ ノムガドーガ ワガラネ。 |
| 18 | 君のお父さんが怖いかどうか知らない。 |
| | ナノ トッチャ オッカネガ ドーカ ワガラネ。 |
| 19 | 君のお父さんが元気かどうか知らない。 |
| | ナノ トッチャカ° ギェンクィカドーガ ワガラナイ。 |
| 20 | 君のお父さんが医者かどうか知らない。 |
| | ナノ トッチャガ イシャカ ドーカ {ワガラナイ/ワガラネ} 。 |

10. 文タイプ

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------------------------|
| 21 | 一升瓶があるけど、誰が酒を飲むの？ |
| | イエッショビンガ アルンダケド ダレガ サギェ ノムノ。 |
| 22 | 先生の中では誰が一番怖いの？ |
| | センセーノ ナガデワ イズィバン {オッカネノ/オッカナイノ}。 |
| 23 | 先生の中では誰が一番怖かったの？ |
| | センセーノ ナガデワ ダレガ イズィバン オカナガッタノ。 |
| 24 | 同級生の中で誰が一番元気なの？ |
| | ドーキューセーノ ナカデ ダリエガ イチバン ギェンクィダベ。 |
| 25 | 同級生の中で誰が一番元気だったの？ |
| | ドーキューセーノ ナカデ ダレガ イチバン ギェンクィダッタベガ。 |
| 26 | 医者になった人がいると聞いたけど、誰が医者なの？ |
| | イシャニ ナッタ ヒトガ° イルト クィーダケド ダレガ イシャダベガ。 |
| 27 | この村で医者になった人がいたと聞いたけど、誰が医者だったの？ |
| | コノ ムラデ イシャニ ナッタ ヒトガ° イルト クィーダキェド, ダリエガ イシャダッタベガ。 |
| 28 | 俺は、おやじが何を飲むか知らない。 |
| | ワイワ {トッチャガ° /オヤズィガ°} ナニ ノムガ ワガラネ。 |
| 29 | 俺は、おやじが何を飲むか知っている。 |
| | ワイワ トッチャガ ナニ ノムガ ワガッテェル。 |
| 30 | おやじは酒を飲むかなあ。 |
| | トッチャ サギェ ノムガナー。 |

10. 文タイプ

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-------------------------------------------------|
| 31 | おやじは酒を飲んでいたかなあ。 |
| | トッチャワ サギェ ノムンダッタケ。 |
| 32 | おやじは何を飲むかなあ。 |
| | トッチャワ ナニオ ノムガ。 |
| 33 | おやじは何を飲むんだっけかなあ。 |
| | {トッチャ/オヤズィワ} ナニ ノムンダツケカナー。 |
| 34 | 酒にうるさいおやじがこんなまずい酒を飲むだろうか。 |
| | サゲニ ウルサイ トッチャカ ^o コンナ マグネー サギェ ノムビェガ。 |
| 35 | 誰がこんなまずい酒を飲むだろうか。 |
| | ダリエカ ^o コンナ マグネー サギェ ノムベガ。 |
| 36 | おい、ぐずぐずせずに早く飲め。(兵隊の上官が部下たちに) |
| | オイ、グズグズ セエズニ チャッチャド ノメ。 |
| 37 | お茶を入れたので、飲んでね。(訪ねてきた息子の友達に) |
| | チャッコ イエレダノデ ノメ。 |
| 38 | お茶を入れたのでどうぞお飲みください。(旅館の主人がお客さんに) |
| | チャッコ イエリエダノデ ノンデェケロ。 |
| 39 | ここにきて一緒に酒を飲もうよ。 |
| | ココサ クィテェ サギェ {ノムビェシ/ノムベ}。 |

11. 形容詞述語文

| ID | 標準語例文 |
|----|----------------------------------------|
| 1 | 今日は暑いね。 |
| | キョア アツイーナー。 |
| 2 | 太郎は優しい。 |
| | タローア {ヤサシーナー／ヤサシッキャナー}。 |
| 3 | 次郎じゃなくて、太郎が優しいんだよ。 |
| | ジロージャ ナフテヨ, タローア ヤサシンドヨナー。 |
| 4 | 今日はやけに太郎が優しいな。 |
| | キョア ヤダラニ タローア ヤサシーナ。 |
| 5 | 太郎が優しかったらいいのになあ。 |
| | タローア ヤサシーバ イーノニナー。 |
| 6 | (俺は) 今日はおなかが痛い。 |
| | ワー キョア ハラ {イデジャー／イデーナー}。 |
| 7 | 太郎は優しいけど、次郎は冷たい。 |
| | タローア ヤサシータテナー ジローア ツィメテェナー。 |
| 8 | 太郎は暑い or 太郎は暑そうだ。 |
| | タローア {アツィソンドナー／アツィカ ^o ッテダ}。 |
| 9 | (「暑い?」ときかれて) うん, 暑い。 |
| | {アツイーナー／アツィー アツィー}。 |
| 10 | 今日は昨日より暑い。 |
| | {キョア／キョーダッキャ} クィノーヨルイ {アツイーナー／アツィードー}。 |

11. 形容詞述語文

| ID | 標準語例文 |
|----|--------------------------------------|
| 11 | このところ、暑くなったねえ。 |
| | コノコ° ロア アツィグ ナッタナー。 |
| 12 | 今日の暑さは耐えられない。 |
| | キョーノ ヌグムィダバ {ガマン デギネーナー／タタ° ベネーナー} 。 |
| 13 | (いつもは涼しいのに) 今日は暑い。 |
| | (無回答) |
| 14 | 砂漠は暑い。 |
| | サハ° グア アツィーモナー。 |
| 15 | この花はきれい{だ/な}。 |
| | コノ ハナ {クィレンダノー／クィレンダッキャ} 。 |
| 16 | あなたの髪は白々としている。 |
| | (無回答) |
| 17 | 去年はいいこともわるいこともあった。 |
| | キョネンア イー コトモ ワルィー コトモ アッタノー。 |
| 19 | 大きな人も小さな人も、どちらも必要だ。 |
| | オククィー ヒトモ チッセェー ヒトモ ドッチモ ヒツイヨーダッキャ。 |
| 21 | (外に出たときに、予想外に暑いのに気づいて思わず) 暑い！！ |
| | アツィーナー。 |
| 22 | 水がほしい。 |
| | ムィス° {ノムィテェー／ホシー ホシー} 。 |

11. 形容詞述語文

| ID | 標準語例文 |
|----|-----------|
| 23 | 足が痛い／痛む。 |
| | アシ イダフテヨ。 |

12. 名詞述語文

| ID | 翻訳用例文 |
|----|--------------------------------------|
| 1 | 明日は休みだ。 |
| | アシタ ヤスミイダ。 |
| 2 | 明日は休みだよ。 |
| | アシタ {ヤスミイダヨ/ヤスミイダジャ}。 |
| 3 | あ、雨だ。 |
| | ウワ、アメダ。 |
| 4 | (お前が持っているのは) 雑巾だか手ぬぐいだか、どっちなの。 |
| | ゾークインダカ テヌグ ^ク イダカ ドッチダノヨ。 |
| 5 | 雑巾だかなんだか分からないけれど。 |
| | ゾークインダカ ナンダカ ワガンニエケドモ。 |
| 6 | これがなにかわかるか。 |
| | コレ ナンダカ ワガルカ。 |
| 7 | 私は先生だった。 |
| | ワイ ムガシ センセーダッタ。 |
| 8 | ここは以前畑だった。 |
| | コゴア ムガシ ハダゲダッタندانネ。 |
| 9 | 私は先生でなかった。 |
| | (無回答) |
| 10 | ここは以前畑でなかった。 |
| | コゴア ハダゲデ ナガッタندانケドモノー。 |

12. 名詞述語文

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-------------------------------------------|
| 11 | 私は先生ではなかった。 |
| | (無回答) |
| 12 | (注文の際に) じゃあ, おれはうなぎ。 |
| | {ワイ/ワー} ウナキ° ダ。 |
| 13 | 私は男(女)だ。 |
| | (未調査) |
| 14 | この人は先生である人だ。 |
| | (未調査) |
| 15 | (2人の孫の写真を見せながら) 先生である孫はこっちで, 牛飼いである孫はこっち。 |
| | (未調査) |
| 16 | 私には車が2台ある/私は車を2台持っている。 |
| | ワニワ クルマ《カ°》 ニダイ アル。 |
| 17 | (駅のロータリーで) 今日はタクシーがいっぱいいるねえ。 |
| | キョーワ タクシーカ° イッパイ {イルジャ/イタジャ} 。 |
| 18 | あそこに故障したタクシーがある。 |
| | アシコニ エンコシタ タクシーカ° イダ。 |
| 19 | あそこの広場に馬がいる。 |
| | アシコノ ヒロバヌイ ンマカ° イダ。 |
| 20 | 今日は家に孫がいる。 |
| | キョー エサ マコ° カ° イダ。 |

12. 名詞述語文

| ID | 翻訳用例文 |
|----|-----------------------------------------------------------------|
| 21 | (駅のロータリーで) 今日(今日は)タクシー(タクシー)があまり(あまり)いない(ない)ねえ(ねえ)。 |
| | キョー タクスィー アマルイ イネジャ。 |
| 22 | あそこ(あそこ)に故障(故障)したタクシー(タクシー)があつた(あつた)けど(けど), もう(もう)ない(ない)ねえ(ねえ)。 |
| | クルマカ° イダツタケド モー イネー。 |
| 23 | あそこ(あそこ)の広場(広場)には馬(馬)がいない(ない)。 |
| | アスイコノ ヒロバヌイ ンマカ° イネ。 |
| 24 | 今日(今日は)は家(家)に孫(孫)がいない(ない)。 |
| | キョーア エサ マコ° カ° イネ。 |
| 25 | 私(わたし)は明日(明日)青森(青森)に行(い)って(って)くる(くる)予定(予定)だ(だ)。 |
| | ワー アスイタ アオモルイサ イツテクル ツイモルイダ。 |

国立国語研究所共同研究

日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成

方言の記録と継承による地域文化の再構築

青森県むつ方言調査報告書

2020年3月20日 発行

編集 青井隼人・木部暢子

発行 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

TEL. 042-540-4300 (代表)

<http://www.ninjal.ac.jp>

© 国立国語研究所

ISBN: 978-4-910257-03-7



Endangered Languages and Dialects in Japan
Research Report on Mutsu Dialect

Edited by

AOI Hayato

KIBE Nobuko

March 2020